



2023

京都大学
男女共同参画推進センター報告書

2024年3月

目 次

ご挨拶	1
運営体制	3
I 「キャリア継続支援」事業	
1) キャリア継続支援専門部会	5
2) 研究支援・実験補助者雇用制度	6
3) 学会・研究会等参加に伴う臨時的託児関連費用支援制度	24
4) 休日に大学入学試験業務に携わる教職員のための託児等利用料金補助事業	31
5) メンター相談	36
6) 待機乳児保育事業	37
7) ベビーシッター利用育児支援事業	49
8) おむかえ保育	52
9) 病児保育室「こもも」	54
II 「魅力見える化」事業	
1) 魅力見える化専門部会	71
2) 女子高生・車座フォーラム 2023	72
3) 女子高生応援大使 2023	81
4) 女子高生向け魅力見える化コンテンツ作成等支援事業	88
III 「教育・研究」事業	
1) 教育・研究専門部会	91
2) 講義・ゼミ	92
3) 女子学生チャレンジプロジェクト	95
IV 「広報」事業	
1) 広報専門部会	101
2) ニュースレター「たちばな」	102
3) 広報冊子「京からあすへ Vol.3 Vol.4」	124
V その他	
1) たちばな基金	127
2) 京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）	128
3) 日経 STEAM 2023	139
資料	
1) 男女共同参画推進センター関係者名簿	141
2) 京都大学の女性研究者・女子学生の状況	142



ご挨拶

理事・副学長
京都大学男女共同参画推進本部長
稲垣恭子

京都大学男女共同参画推進センターは、2006年の科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」の下に設立した「女性研究者支援センター」の発展的な改組によって2016年に男女共同参画推進本部のもとに設置され、ジェンダー平等の理念に基づき、女性学生や女性研究者を支援し、大学全体のDE&Iを推進するため、継続的に事業を行っております。

ジェンダー平等社会の実現は、多様な視点の共存と相互の寛容性に基づく創造的で豊かな社会の基盤であり、次世代の育成を担う大学はその中核としての役割を求められています。また、人口減少社会において、女性研究者を積極的に育成することは、優秀な人材の確保と大学の活性化にとっても喫緊の課題です。

本学におきましても、優秀な女性研究者を育成・獲得することは、自由の学風の下で創造的な知の創出をリードする研究大学としてさらに発展すると同時に、日本全体のダイバーシティに貢献する上で重要な課題です。この考え方にに基づき、京都大学では2022年度より「京都大学男女共同参画推進アクションプラン（2022年度～2027年度）」を制定いたしました。

男女共同参画推進センターにおいてもこのアクションプランの下で、女性教員、女性学生の研究やライフイベントのサポート、また女子中高生に向けたサポートの拡大と充実を柱として、センター内に設置している4つの専門部会で企画・検討していただき、新規事業を含めてさまざまな取組や事業を実施しております。

研究へのサポートとしましては、研究支援・実験補助者雇用制度を拡充し、文系・理系を問わず、広く研究や実験を補助する経費支援を引き続き実施しています。

また、本学の女性研究者・女性学生の優れた研究への顕彰や奨学金の制度である「たちばな賞」や「久能賞」も拡充し、女性研究者や女性学生の研究モチベーションの向上に努めています。

さらに、今年度新たにスタートした「女子学生チャレンジプロジェクト」は、女性がリーダーシップやイニシアチブを発揮できる環境づくりをめざして、女性学生がチームリーダーになって新しい課題にチャレンジする研究プロジェクトを支援する事業です。第1回目の今年度は6チームが採択され、それぞれ優れた活動を展開し、3月の成果発表会では充実した内容の報告がされました。

ライフイベントへのサポートとしましては、安心してキャリアを継続できる環境を充実するために、新規事業も増やしています。乳児保育（「ゆりかご」）では、保育園入園待機だけでなく、緊急に保育が必要な方にも利用できるように機能を拡充しました。また、新たな取組とし

ては、子育て中の研究者が学会・研究会等に参加する際に臨時的に必要な託児関連費用の助成（「学会・研究会等参加に伴う臨時的託児関連費用支援制度」）、および入学試験業務に従事する教職員の託児等の利用料金を補助する事業（「休日に大学入試業務に携わる教職員のための託児等利用料金補助事業」）を開始いたしました。

さらに特筆すべき新規事業として、学童保育施設「京都大学キッズコミュニティ（愛称 KuSuKu）」を開所しました。「子を育む」「親を育む」というコンセプトの下で、本学教職員が安心して子どもを預けて研究や仕事ができると同時に、子どもがのびのびと過ごせ、さらに好奇心や探究心が育つようなアカデミック・プログラムを提供しています。12月の開所時から定員を超える利用の申し込みもあり、実際に利用した教職員やそのお子さんからも好評を得ています。KuSuKuのコンセプトや取組は、学外からの関心も高く、東大、北大、東北大等の各大学や各種教育機関・関係機関等からも数多く視察に来られており、これからさらに充実させていきたいと思っています。

京都大学を目指す女子中高生へのサポートとしては、「女子高生・車座フォーラム 2023（第18回）」をオンラインで開催し、全国から66名の参加を得ました。また、京都大学に在学する女性学生が出身高校を訪問して京都大学の紹介や交流を行う「女子高生応援大使」事業（総長支援団体である鼎会の支援による）も、全国の12の高等学校と協力して実施しました。

その他にも、「女子中高生向け魅力見える化コンテンツ作成等支援事業」として、女子中高生に本学の研究の魅力を伝え、それぞれの分野への関心を高め、キャンパスライフを紹介する部局のイベントへの支援を行い、選定された9件の事業に対して経費支援を実施しました。

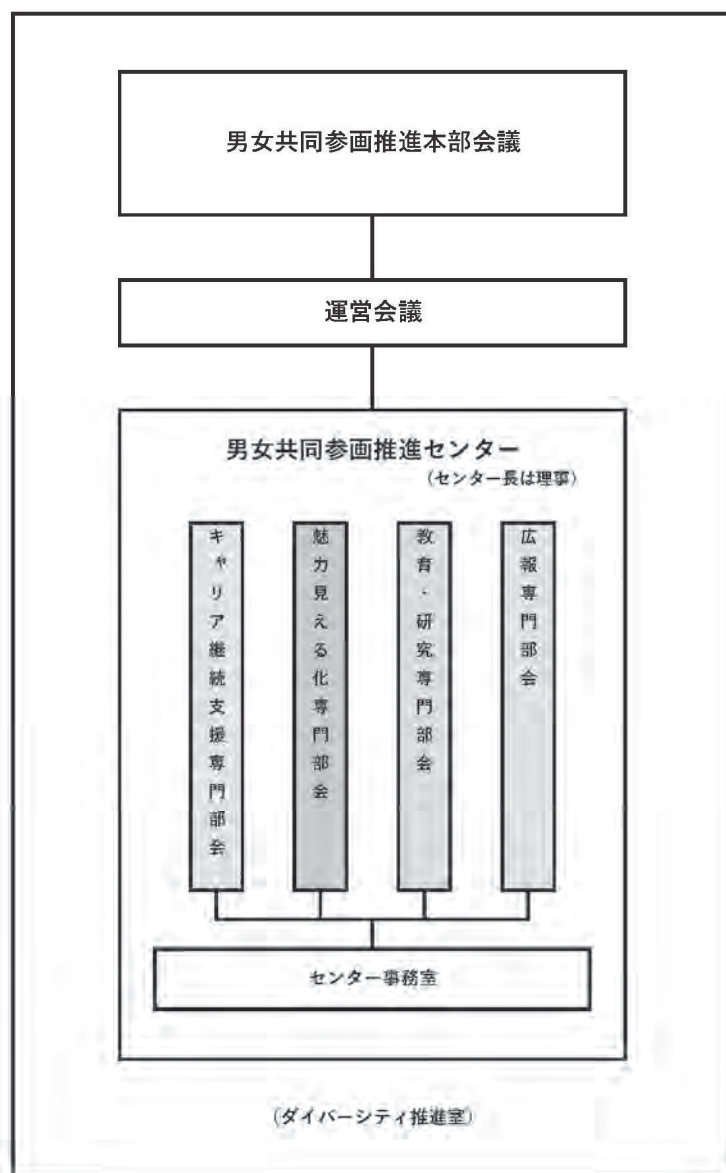
このような次世代を担う女性学生、若手研究者への支援については、本学出身の女性のネットワーク組織として設立された「京都大学このえ会」とも協力体制をとって、キャリアイベントや学生との交流会をはじめ、さまざまなご支援をいただいています。

本学では、これまでも優れた女性研究者を輩出してきましたが、こうした支援や協力によって、さらに次世代を担う女性学生、女性研究者が多く育っていくことを願っています。支援をより一層充実させるためにも、ぜひ皆さまからのご理解とご協力をいただき、安心して学業・研究に取り組める環境づくりを推し進めたいと考えております。

多くの方に各種の事業の周知を図り、活動を広げていけるよう、今後もなお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

運営体制

男女共同参画推進本部のもと、京都大学の男女共同参画を推進するために、男女共同参画推進センターが設置されています。本センターには学内教員を委員とする4つの専門部会を設置して、それぞれの事業を企画・運営しています。



役職	氏名
男女共同参画推進センター長	稲垣 恭子（理事・副学長）
キャリア継続支援専門部会主査	木下 彩栄（医学研究科 教授）
魅力見える化専門部会主査	蓮尾 昌裕（理事補・工学研究科 教授）
教育・研究専門部会主査	蓮尾 昌裕（理事補・工学研究科 教授）
広報専門部会主査	木下 彩栄（医学研究科 教授）

I 「キャリア継続支援」事業

キャリア継続支援専門部会

キャリア継続支援専門部会は京都大学構成員の育児・介護、キャリア形成に関する支援制度等の企画・検討を担当して、次のような活動を行っています。

- ・ 研究支援・実験補助者雇用制度の拡充
- ・ 在宅勤務を可能とする環境整備・委員会業務の軽減・会議ルールの見直し
- ・ 育児・介護、キャリア形成に関する支援制度を紹介する相談窓口の設置
- ・ 待機乳児保育事業、ベビーシッター利用育児支援事業などの保育事業

今年度の主な取り組みとしては、新たに子育て中の研究者が学会・研究会等に参加する際に必要となる託児関連費用の助成事業として「学会・研究会等参加に伴う臨時的託児関連費用支援制度」、入学試験業務に従事する教職員の託児等の利用料金を補助する事業として「休日に大学入試業務に携わる教職員のための託児等利用料金補助事業」を開始しました。

また、育児又は介護のため研究時間の確保が困難な研究者のための研究支援・実験補助者雇用制度についても充実した経費支援を実施しました。

育児・介護中の教職員へのサポートとしての保育事業については、保育園入園待機乳児保育室「ゆりかご」の利用を保育園入園待機だけでなく、緊急に保育が必要な方にも利用できるように機能を拡充しました。

研究支援・実験補助者雇用制度（R5-1）利用者募集

令和５年度１期 研究支援・実験補助者雇用制度利用者を募集します。

育児又は介護のために、十分な研究・実験時間がとれない研究者に対し、研究又は実験業務（注：経理等の一般事務や秘書業務及び教育関係の業務は支援対象外）を補助する者の雇用経費を助成します。本事業は、育児又は介護に携わる研究者であれば性別を問わず応募できます

なお、募集要項の「想定する補助者の業務」に、本制度を実際に利用した研究者が補助者に依頼した業務例を挙げています。理系分野だけでなく文系分野でも想定される業務もありますので、文系の研究者もぜひ積極的に申請いただければと存じます。

利用を希望される方は、募集要項をご確認のうえ、所属部局長（部局事務）を通じて、メール添付ファイルにより申請してください。

なお、３年（６期）連続してこの制度を利用された方は今回申請できませんので、留意ください。

2022 年 12 月 23 日（金） 17:00 締切

（所属部局事務への提出期限は、所属の事務にご確認ください）

募集要項

申請書

略歴書

Financial Support Program for the Employment of Research Assistants and Lab Assistants

Kyoto University provides a financial assistance program for the employment of research assistants and lab assistants for male and female researchers who are unable to secure sufficient time for research or experiments due to childcare or family care. (Please note that this program cannot be used for the employment of teaching assistants or assistants who provide support with general administrative work [accounting, etc.] or secretarial work.) Researchers who wish to apply for the program are requested to submit an application and other required documents via the administrative office of the applicant's department. Please check with your department office for the deadline for submission to your department office.

Application Deadline

17:00, December 23, 2022 (Friday)

Application Guidelines

Application Form

CV of the candidate to be employed as an assistant

Researchers who have already used this program for the past six consecutive terms or more (or for the past three years or more) are not eligible to apply in the 1st term of AY 2022. As there are many applicants for the program in every term, we ask for your kind understanding regarding this stipulation.

研究支援・実験補助者雇用制度（R5-2）利用者募集

令和５年度２期 研究支援・実験補助者雇用制度利用者を募集します。

育児又は介護のために、十分な研究・実験時間がとれない研究者に対し、研究又は実験業務（注：経理等の一般事務や秘書業務及び教育関係の業務は支援対象外）を補助する者の雇用経費を助成します。本事業は、育児又は介護に携わる研究者であれば性別を問わず応募できます

なお、募集要項の「想定する補助者の業務」に、本制度を実際に利用した研究者が補助者に依頼した業務例を挙げています。理系分野だけでなく文系分野でも想定される業務もありますので、文系の研究者もぜひ積極的に申請いただければと存じます。

利用を希望される方は、募集要項をご確認のうえ、所属部局長（部局事務）を通じて、メール添付ファイルにより申請してください。

なお、３年（６期）連続してこの制度を利用された方は今回申請できませんので、留意ください。

2023 年 6 月 23 日（金） 17:00 締切

（所属部局事務への提出期限は、所属の事務にご確認ください）

募集要項

申請書

略歴書

Financial Support Program for the Employment of Research Assistants and Lab Assistants

Kyoto University provides a financial assistance program for the employment of research assistants and lab assistants for male and female researchers who are unable to secure sufficient time for research or experiments due to childcare or family care. (Please note that this program cannot be used for the employment of teaching assistants or assistants who provide support with general administrative work [accounting, etc.] or secretarial work.) Researchers who wish to apply for the program are requested to submit an application and other required documents via the administrative office of the applicant's department. Please check with your department office for the deadline for submission to your department office.

Application Deadline

17:00, June 23, 2023 (Friday)

Application Guidelines

Application Form

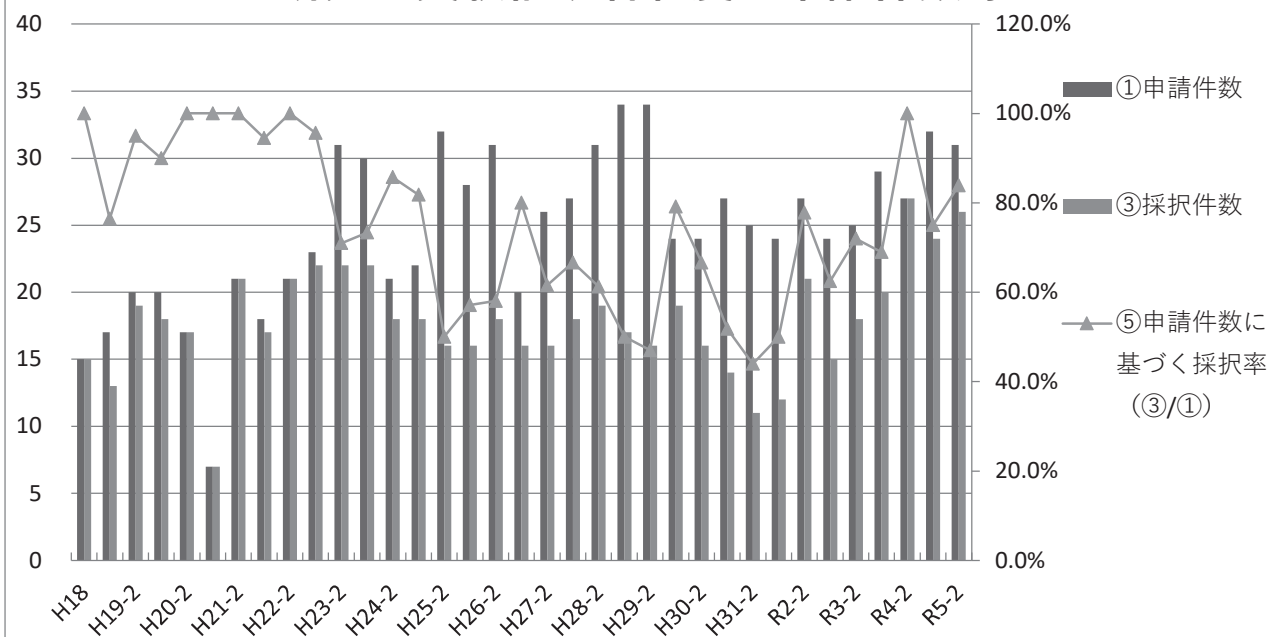
CV of the candidate to be employed as an assistant

Researchers who have already used this program for the past six consecutive terms or more (or for the past three years or more) are not eligible to apply in the 2nd term of AY 2023. As there are many applicants for the program in every term, we ask for your kind understanding regarding this stipulation.

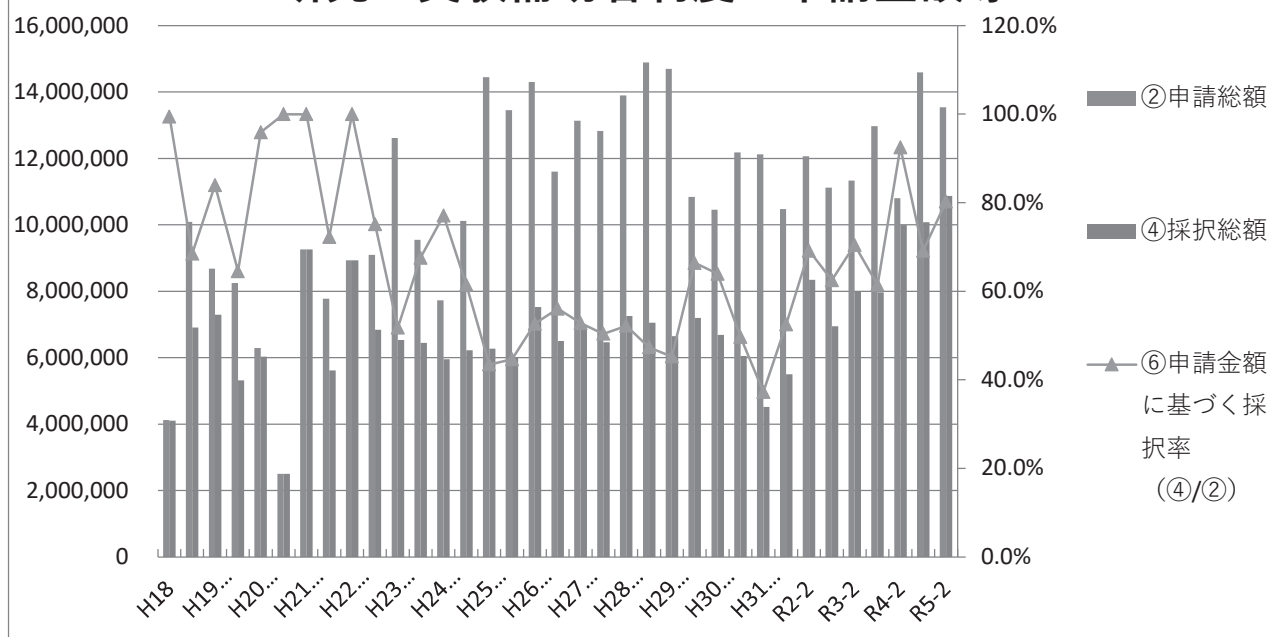
研究・実験補助者雇用制度 申請・採択件数及び総額の推移

期 間	①申請件数	②申請総額	③採択件数	④採択総額	⑤申請件数 に基づく採択 率	⑥申請金額 に基づく採択 率
H18	15	4,124,400	15	4,100,400	100.0%	99.4%
H19-1	17	10,091,600	13	6,911,800	76.5%	68.5%
H19-2	20	8,683,500	19	7,291,000	95.0%	84.0%
H20-1	20	8,246,400	18	5,321,200	90.0%	64.5%
H20-2	17	6,294,300	17	6,035,100	100.0%	95.9%
H21-1	7	2,505,000	7	2,505,000	100.0%	100.0%
H21-2	21	9,261,000	21	9,261,000	100.0%	100.0%
H22-1	18	7,772,500	17	5,617,500	94.4%	72.3%
H22-2	21	8,932,500	21	8,932,500	100.0%	100.0%
H23-1	23	9,100,000	22	6,837,500	95.7%	75.1%
H23-2	31	12,617,500	22	6,530,000	71.0%	51.8%
H24-1	30	9,545,000	22	6,450,000	73.3%	67.6%
H24-2	21	7,729,000	18	5,957,500	85.7%	77.1%
H25-1	22	10,115,000	18	6,219,400	81.8%	61.5%
H25-2	32	14,440,000	16	6,275,000	50.0%	43.5%
H26-1	28	13,452,500	16	6,002,500	57.1%	44.6%
H26-2	31	14,300,000	18	7,528,750	58.1%	52.6%
H27-1	20	11,600,018	16	6,503,000	80.0%	56.1%
H27-2	26	13,128,998	16	6,931,000	61.5%	52.8%
H28-1	27	12,830,184	18	6,466,000	66.7%	50.4%
H28-2	31	13,896,100	19	7,253,000	61.3%	52.2%
H29-1	34	14,890,586	17	7,051,000	50.0%	47.4%
H29-2	34	14,690,886	16	6,649,000	47.1%	45.3%
H30-1	24	10,841,229	19	7,199,000	79.2%	66.4%
H30-2	24	10,454,112	16	6,682,000	66.7%	63.9%
H31-1	27	12,176,392	14	6,048,000	51.9%	49.7%
H31-2	25	12,119,404	11	4,518,000	44.0%	37.3%
R2-1	24	10,475,365	12	5,497,000	50.0%	52.5%
R2-2	27	12,060,019	21	8,340,000	77.8%	69.2%
R3-1	24	11,117,378	15	6,949,000	62.5%	62.5%
R3-2	25	11,329,078	18	7,982,000	72.0%	70.5%
R4-1	29	12,974,200	20	7,972,000	69.0%	61.4%
R4-2	27	10,804,900	27	9,994,000	100.0%	92.5%
R5-1	32	14,586,842	24	10,080,000	75.0%	69.1%
R5-2	31	13,540,559	26	10,873,000	83.9%	80.3%

研究・実験補助者制度の申請件数等



研究・実験補助者制度の申請金額等



■研究支援・実験補助者雇用制度 アンケート報告①

対象者:令和4年度第2期 研究支援・実験補助者雇用制度利用者 27 名

形 式:実績報告と同時にメールにて依頼。

回答率: 100% (27 名)

1.「研究支援・実験補助者雇用制度」を利用することで、どのようなことが可能になったか

- ・「研究支援・実験補助者雇用制度」を利用することで貴重な研究の時間を獲得できたため、以前と比べれば自分の研究を推進できたと思います。また、「研究支援・実験補助者雇用制度」の経費で雇用した OA の大学院生の研究能力も向上したと言えます。
- ・複数の研究プロジェクトを同時に進めることができるようになった。また、残業が減り、定時で家に帰り、家に帰った後育児に専念できるようになった。金銭的な援助を得たため、さらにもう一人の補助者を雇うことが可能になった。
- ・本支援制度にて雇用した研究補助者に、実験サンプルの準備や物性評価のための繰り返し測定、結果の整理の一部などを担当してもらうことで、申請者としては新しい実験の立案や試行、結果の考察や文献調査など、より専門性・挑戦性の高い内容に時間を多くあてることが可能となった。
- ・年度末に向けて、卒業論文、修士論文、学会が重なり、学生へのサポートが不可欠な時期であるが、実験補助者の協力により、限られた勤務時間の中でひとりひとりと密に相談・指導が可能であったと感じた。育児を理由に指導がおざなりになることは避けなかったため、大変有難かった。
- ・研究計画の立案、予算申請、学生指導、論文執筆などの自分しかできない業務に割り当てる時間を増やすことができた。
- ・勤務時間内に遂行できる実験を増やすことができました。自分が他業務に追われていたり、子供のお迎え等で遅くまで勤務出来ない場合でも、補助者が実験を進めてくれたことで勤務時間内に研究を遂行することが可能になりました。
- ・本制度の利用により研究補助者を雇用することができ、研究に関する情報の収集やフィールド調査の準備、観測データの整理などを委託することができた。特に、申請者の子供が体調を崩し保育園に預けることができず、申請者が研究業務に携わることができない期間にも、研究業務を途切れさせることなく実施することができた。
- ・育児や介護を行うため通常よりも早い時間に一旦帰宅しても、これまでほぼ同じペースで研究を推進することが出来た。そのため、研究者としてのキャリア維持に繋がった。また今回の補助者は、一年前に雇用したのと同じ方に来ていただいたが、補助者自身のスキルアップにもつながり、今後のキャリアパスの一助になった。
- ・培養実験は、生きた細胞を扱うため、定期的な栄養補助などの世話がが必要です。研究者が時間的に常時これを行うことが困難である場合に、実験補助者に担当いただくことで継続的な実験が可能になりました。
臨床データ整理は、研究の準備段階の裏方作業として大変重要です。しかし、成果が見える仕事ではないので、研究者本人が時間をかけて行うことは難しく、補助者が担当いただくことでスムーズに研究を開始することができます。
- ・臨床医として外来診療や手術、大学教員として学生指導等の合間を縫っての研究で、育児もあり 18 時には実験を切り上げなければなりません。組織培養実験は一度始めるときまった日時に実験を行わなくてはなりませんが、実験雇用者のサポートによって中断なく遂行することができ、成果を学会発表することができました。
- ・子供の急な体調不良による研究の遅延が少なくなった。また、この制度を利用することで、実験動物の維持や薬剤投与といったルーティンワークを補助者にお願いすることが出来、研究を着実に進められた。
- ・臨床業務と平行して基礎実験を行うことはそもそも無理であった環境の中で、本制度を利用させていただくことによって、少しずつでも基礎実験のデータを着実に得ることができて、次の実験に繋がる成果を挙げることができました。
- ・子どもがまだ小さいため、大学での勤務時間を短くする必要があり、図書館で資料集から必要な部分をコピーし、ファイリングするという時間がなかなかとれなかったが、この制度によって、基礎データを飛躍的に収集することができた。こうした基礎データを用い、在宅時においても論文執筆に注力できた。
- ・事前に家族内でスケジュール調整をしていたとしても、夫婦共働きですと、子供の発熱等で保育園からの急な呼び出しや小学校からの急な要請等のイレギュラーな予定が入り、それに対応しなければならないため、自分がずっとついていなければならない危険な実験や新しい実験等必要な実験をすることができませんでしたが、代わりに実験をしてもらうことで、予備的な結果を得て、次の研究費の申請の準備ができました。
- ・実験を滞りなく行えていることが、やはり大きな利益として挙げられる。実験を行うにはどうしても、研究室に長時間滞在する必要がある。寝起きに食事を与え、オムツを替え、3 歳児を幼稚園に送り、お昼寝のために添い寝をし、夕方にお風呂に入れ、夕食を与え、就寝のために寝かしつけなければならない身の上としては、まとまった時間を確保すること自体が困難なこととなってい

る。本制度を利用することで、実験を肩代わりしてもらっていることは、たいへんな利益となっていると思う。それによって、論文の執筆に割く時間も多少は確保できており、その点も本制度によって得られる非常に大きな利益であると言える。

- ・申請者の研究は、野外調査による試料採取、試料加工、化学分析と作業内容が多岐にわたる。このうち、単純な分析作業やデータ解析作業を補助者に委託することにより、その時間を高次の研究作業に充てることができた。R4 年度前期から継続して採択していただき、そのおかげで途切れることなく新規データを取得して国際誌へ論文を投稿することができた。
- ・ヒトを使った実験の場合、口に入れるものは衛生上保存がきかない。午前中に試料を調製し午後に人を用いた評価をする。よって一日中空いている日にしか行うことができない。介護によって時間的制限があり十分な時間の確保ができないために、新たな実験計画を立てることができなかった。この制度をうまく利用することで計画を実行することができた。
- ・With this program, I was able to accomplish important work while cooperating and delegating part of my daily tasks to the research assistants. I could publish papers and I am now preparing the next ones. I could also apply for grants and contribute to society and academia by helping to organize a conference and symposiums, and by being a journal peer reviewer as well as editor.

Having the research assistant was also a great relief when I had to bring my son to the hospital and to the center for handicapped persons. The research assistant continued the work on my behalf and we were able to obtain meaningful results.

In short, thanks to this program, I could achieve a better work-life balance.

- ・子供の急病や健診、小児科での予防接種などのために日中研究室に在籍できない日もありましたが、実験補助者と連携して実験を行うことにより、継続できたことが多くありました。ありがとうございました。
- ・申請者は育児による時間的制約のため、研究アイデアを持っていってもなかなか実行に移すことができず歯痒く思うことが多いが、本支援を受けることで、考案していた実験への着手が可能となった。半年という限られた期間内に結果を出すのは難しいとはいえ、その先のステップを検討し見通しを立てることもできた。
- ・研究実施にあたり相当程度長時間にわたり装置を操作し続けられないといけな解析業務について、本制度の活用によって、多くの解析を連続して系統的に実施することができるようになり、解析の効率が飛躍的に向上した。また、研究遂行上の時間拘束から少なからず解放されたことから、ケアが必要な子の育児(就学支援)に対応することが可能となった。
- ・育児などで研究に従事する時間が限られる中、基礎解析やプログラムの実装を補助者と分担することで、より集中して、速く、課題推進を行うことができた。複数人で議論することにより、論文のストーリーなどを推敲して、より良いものに仕上げることができた。
- ・純粋に研究に充てる時間を確保することが可能になり、データ解析、論文投稿がスムーズに進んだことで、研究推進につながった。新規データ取得も進み、2023 年度は学会での発表、論文発表が複数できると見込んでいる。
- ・膨大にある先行研究の中で、自身に有益な情報を常に更新、整理していくには、労力と時間がかかる。もちろん最終的な判断は自身が行う必要があるが、その判断を行うまでの論文を、ある程度の数まで絞る作業を補助者に頼ることで、効率的に短時間で必要な有益情報を得ることができ投稿論文に反映できた。
- ・研究支援者に依頼して分担できる業務が生じたことで、法事等で突発的に取得せざるを得ない休暇等による、研究の遅れを少し挽回して研究を進めることができた。また空いた時間で学生指導や論文の共著、海外向けも含めた講演や執筆依頼を受けることが可能になり、エビデンス創出への貢献に加え教育や研究成果の社会還元を行うことも一定程度達成できた。
- ・私が実施している研究は患者さんが診察後に調査室にいられてデータを取る流れになっております。診察が長引くことや患者さんが複数の診療や検査があることがあり、定時に終わらないことが多々あります。本制度を利用することで患者数が多い曜日を中心にサポートに入っていただき、測定以外にデータ整理を手伝っていただいております。データを取るができるようになりました。

2. 「研究支援・実験補助者雇用制度」を利用した感想

- ・毎日、仕事と育児に追われているため、「研究支援・実験補助者雇用制度」を利用したことで少しプレッシャーが和らいだと思います。
- ・子育て、介護を行っている研究者はいつも時間がなく、仕事に追われているので、研究支援者の雇用をサポートしていただける制度はとてもありがたい。
- ・育児で勤務時間の制約が厳しい中、本制度で実験補助者を雇えたことは研究をスピードアップさせる上でかなり助けになりました。

た。引き続き、応募・利用させていただきたいと思います。

- ・限られた勤務時間の中で、仕事を全て片付けて一日を終えることはなかなか出来ないが、実験補助者の協力があるおかげで負担が分散され、精神的に余裕を持って仕事に臨むことが出来ているように感じている。
- ・制度があること自体が、大学全体で支援が必要という雰囲気作りになるため、重要だと感じている。
- ・実験補助者を雇用出来たことは、研究を進める上で非常に助けになりました。自分がこれまでのように実験業務に時間を割けないことのジレンマを、この制度によって少しでも解消できたことは大変有り難く、子育て中の研究者にとって、最も有効な助けであったと思います。
- ・申請者一人では育児の都合上、調査計画などを急遽変更しなければならないような状況においても、研究補助者に業務を任せることで計画を滞りなく実施できたため大変助かった。
- ・補助者を雇用したのは3期目であり、引き続き自分自身の研究のみならず、研究室全体のプロジェクト推進に非常に有益でした。特に人員不足の研究室にとってはありがたい制度であった。
- ・支援制度により助かっています。医学生(1回生)を3名から4名雇用したが、それぞれにも試験勉強や部活動、アルバイト、自動車教習などの活動があり、都合を相談しながら勤務いただきました。本業として一貫して携わっていただける方が理想的ですが、半年間の支援でありその先が不透明ですので、雇用しにくいです。既に教室で雇用している本業の方の雇用費に付け替えることは、業務内容を申請者本人の補助のみにあてにくいため通常困難です。育児や介護状況が半年で改善することはあまりありませんので、できれば2-3年間の継続的支援を行っていただけると利用しやすいです。
- ・研究・実験補助者雇用制度のおかげで、長年お世話になっており研究室特有の手技を身につけている実験雇用者を安定して雇用でき、個人としても研究室としても非常に助かっています。
- ・コロナ渦になってから、これまで以上に病気療養等で休まざるを得なくなり、子育てと研究の両立が難しいと感じていたが、この制度を利用させて頂き大変励みになった。是非、今後ともこの制度を続けて頂きたいと思う。
- ・実験には失敗や試行錯誤がつきもので、大変時間がかかるものです。本制度なくしては臨床業務を行いながら研究を進めることは不可能でしたので、とても感謝しております。
- ・本制度のおかげで、研究をおろそかにせず、育児にも注力することができた。人間を分析、考察対象に据える人文科学において、研究者自身の育児経験は、人間社会の分析の深化に繋がらう。人文科学の分野においても、引き続き本制度が広く利用されることを願っている。
- ・7歳と3歳の子供を育てながら夫婦共働きですので、子供、妻、私の予定が入り乱れる中、たとえ少しの間だけでも実験を見てくれる人がいるというだけで、研究でも最も大事な創造的な部分に時間をかけることができたと思います。
- ・非常に助かっている。生まれたばかりの頃は未体重児としてNICUに入院するほどだった双子も1歳半になり、すくすくと成長しており、本制度の下、まがりなりにも研究と育児を両立できていることに感謝が尽きない。しかしながら、我が家の子供にのみ当てはまる特殊な事情かもしれないが、双子もその上の3歳児も睡眠を取るのが下手で、昼夜共にかかなりの時間を寝かしつけに取られている現状がある。これを書いている22:45現在も、妻が最後の一人の寝かしつけに取り組んでいる最中であり、いつになったらすんわり寝るようになってくれるのだろうかと将来を悲観する夜もある。本制度の支援がなければ、研究どころではなかっただろうと思う。
- ・子供が入院して24時間の付き添いが必要だったため、約3週間大学に来られない時期があったが、その間もオンラインで勤務管理をすることで、最低限の研究作業を進めることができた。雇用関係を結ぶことで、はっきりとこちらの要求するクオリティを補助者の大学院生に教育することとなり、研究室全体の研究遂行能力も高めることができたのは、嬉しい副産物であった。
- ・子供の病気や家庭の都合で研究室を離れなければならない時に、準備や片付けをお願いできるのが助かった。研究室メンバーで協力して負担する維持管理などの日常業務もお願いすることができ、新しい実験を考案するための資料検討、計画立案の時間が取れ、海外の研究者との共同研究を継続することができた。
- ・大学生・大学院生は各々の研究テーマに邁進している。この制度によってまとまった時間を私の計画に充ててもらうことができ、また、彼らのテーマで使う技術を利用できるためスムーズに遂行できたことは誠にありがたかった。
- ・I think that this program is efficient at supporting the researchers who have heavy family duties. Before the program, when I had to take days off to bring my son to the hospital and to the center for handicapped persons, I felt very nervous and guilty for not being at work. With the program, I feel less stressed and can rely on the research assistant to continue the work while I am away. The program has surely improved the balance between my professional and personal life. It has also increased my motivation and productivity at Kyoto University.
- ・私が今回雇用した実験補助者自身も、幼児を育てながら勤務してくれており、本制度は、私と、私が雇用した実験補助者という

二人の働く母親を、サポートしてくれています。ありがとうございました。

- ・研究推進に対するモチベーションを維持することができたと思う。実験補助者にとっても学ぶところが多くまたスキルを磨くこともできているようなので、この制度に改めて感謝している。
- ・非常に助けられました。ある程度実験作業を任せられる補助者を雇用することができ、効率的に研究をすすめることができました。実験の主体(申請者)と雇用者(補助者)で、上手く時間や担当の配分ができて、大変助かりました。
- ・限られた時間でプロジェクトを進めるため、仕事面・精神面でもとても支えになりました。ぜひ今後もこの制度を広く周知して、継続していただきたいと思います。
- ・純粋に研究に充てる時間を確保することが可能になり、データ解析、論文投稿がスムーズに進んだことで、研究推進につながった。新規データ取得も進み、2023年度は学会での発表、論文発表が複数できると見込んでいる。
- ・保育園お迎えまでの限られた勤務時間の中、得られた研究時間を独創的な時間にする為には、それまでの情報収集が非常に重要となる。そのコツコツとした事務作業をこの制度を利用することで丁寧に埋めていただくことができ、非常に感謝しています。
- ・研究支援者による温かくきめ細やかなサポートのおかげで、少しずつでも研究や教育前に進めることができ、また遠隔勤務であっても研究支援者のおかげで組織とのつながりを意識することができました。この制度を利用させて頂けることをありがたく思います。
- ・本制度では産後から数回採択いただいており、小さい子供が3人おりますが、小さな子供を育てながらでも研究を継続することができ、育児と仕事の両立ができていると感謝しております。

3. この制度を利用する上で、困ったこと、改善した方がよいと思うことがあるか

- ・OAの雇用経費は、持っている科研費で支払った後に、「研究支援・実験補助者雇用制度」の経費から同額が支給されるという制度の必要性に疑問を感じました。
- ・候補者を見つけるのにかなり苦勞し、時間・手間がかかりました。最終的に大学の公募を通じて応募くださった方を採用することができましたが、その方がいなかった場合は採択後に辞退することになったと思います。大学の直接雇用だけでなく派遣会社を使えるようになると、雇用するために割く労力を減らせて嬉しいです(費用面での問題はありますが…)。また、採択前に大学HPに公募を出さないと候補者の選定が間に合わないというスケジュールの都合上、予算が確保できない状況で募集・面談等をする必要があり不安でした。
2名以上の補助者を雇用することはOKを頂きましたが、複数人を同時に作業させられないという縛りがあることで作業が効率的でないことがありました。(複数人で同時に行った方が作業性が良い内容もあるため)。
- ・特にありません。
前回雇用者数について記入しましたが、その後学生は複数名雇用可能という旨をお教えいただき、実際に来期は2名雇用させていただくことになりました。実験補助者の負担も分散され、お互いに良い環境で研究が出来ると思います。有難うございました。
- ・制度を利用してみたかったため応募したが、自分の場合、貰った予算が少なかったこともあり、申請書、報告書の書類負担が大きいと感じている。書類負担をできるだけ軽くするような制度にしてほしい。
- ・実験補助者に支払う給与を一旦研究室で立て替えなければならないため、そもそも若手で研究資金を持っていない研究者には制度を利用しづらいです。男女共同参画推進センターからの直接の支払いにすることはできないのでしょうか。
- ・申請者は2020年度後期から2021年度の後期にかけて1年半に渡り本制度の助成を受けていた。しかし、2022年度前期の申請は不採用となり、育児と研究活動の両立することが困難な状況であった。今回、改めて助成を受けることでこの状況を改善することができたため、特に子供が幼い期間は数年にわたって採用を継続してもらうことが望ましい。
- ・特になし。ただ、基本半年・時間雇用の制限があり、補助者人材の育成という点では課題が残るため、今後、(育児期間の)数年を継続して場合によっては常勤枠として雇用できる制度が出来るとさらに良いと感じました。
- ・可能であれば連続応募期間の制限がなくなりますと大変助かります。
- ・できれば半期ではなく、1年の支援であればありがたい。
- ・本制度では、所属研究室内の大学院生等を雇用することが多いかと思いますが、学生は講義、研究、就活やその他の活動で大変忙しくしています。場合によっては、所属研究室に対象となる学生がいらないという状況もあるかもしれません。本制度について、学外にも周知し、学外からも実験補助者として雇用しやすい環境を整える必要があるのではないかと感じました。例えば、学外

の実験経験者の中で本制度に関心がある方に実験補助者バンク(?)に登録してもらい、実験補助者を希望する人と実験補助者バンクに登録した人が面談してマッチングすれば、そのまま雇用し、マッチングしなければ、学内の院生等を雇用するといったこともできるのではないかと思います。実験補助者バンクには、学外の実験経験者の他、学内の学生も登録してもらうようにすれば、人材をより活用しやすくなると思います。あるいは、民間の人材派遣会社と提携するということもできると思います。

- 大変ありがたい制度なので、このまま継続していただきたいです。
子どもが幼い間は、多少減額されたとしても継続して採択していただけるようなシステムになれば、より有り難いです。
- 祖父母など親族の協力が得られない環境では、小さい子供を育てながら研究を継続することの困難さを改めて実感し、「研究支援・実験補助者雇用制度」のような支援策の充実は必要だと思った
- おかげさまで、私も対応ができたので落ち着き良かったと感じておりますが、急に悪くなることもありこればかりは予定が立ちません。介護の場合、急に必要になるので、流動的に対応できたら嬉しいです。
- The program overall is very well organized. I acknowledge the organizers for that. My difficulty would be in the duration of the program. In my humble opinion and experience, a semester is rather short. By the time the research assistant gets used to the laboratory equipments and deeply acquainted with the contents and details of the research subjects, the semester is almost over. Although it is possible to apply for the program several times, I think that it would be helpful to give the option to apply for a year or even longer instead of just a semester.
- 今後ぜひこの制度を継続していただけるとありがたいです。
- 実験補助者が感染症対策のため自宅待機となってしまう、予定していた実験が進まない事態が起こってしまいました。
制度の趣旨からして少し難しいのかもしれませんが、補助者の一時的な変更や代替者の選定について、もう少しフレキシブルであってもよいかもしれません。(2名程度を選出させていただいて助かりました。)
- 子育てと研究との両立は、物理的な子供の世話やお迎えなど、実験補助ではないような支援を必要としている現実もある。時にはそちらの補助が急務である場合も多い。こちらの支援は研究への直接的な支援ですが、そのような物理的に子供をみていただけるような支援がもう少し融通が効くような支援になれば、よりありがたく存じます。
- 事務手続き等を委託できるようなより柔軟な制度運用にして頂ければ、自力での事務補佐員の雇用が難しい研究者にとって、効率的な研究遂行が可能になるように思います。

4. この制度の募集情報の入手方法(※複数回答あり)

区分	人数
メール（うち所属部局から）	15
センターHP	2
指導教官からの情報	7
知人からの情報	2
その他	1
合計	27

5. その他

- 桂キャンパスにも育児支援・休憩スペースが設置され、子育て世代を考えた環境作りが始まっているように感じます。
- この良い制度をより多くの子育て中の研究者の方々に利用して欲しいと思いました。実際に制度を利用できたこともそうですが、それ以上に、この制度に採用されたことで子育て中の研究者として応援して頂けた経験が今度の研究意欲の向上にも繋がるのではと思います。今度もこのセンターが益々発展してより皆に利用しやすいものになることを願います。
- 3期目でお世話になりました。本制度は、出産・育児中の女性研究者のみならず、そのような家族を持つ男性研究者にも大変有用な制度です。まだまだこのような男性に対する支援制度は不足しており、今後も継続をお願いしたいと思います。
- 多岐にわたり支援を考慮されていて、すばらしいと思います。男女共同参画の分野は情勢が年々変化していくと思いますので、柔軟にご対応いただければと思います。
- 病後児保育室を、以前のような病児にも対応した病児保育室として、さらに大学病院小児科で対応くださっていた事前診察の

復活を、本当に心待ちにいたしております。

- 男女を問わず、育児・介護に携わっている人は、日常生活と仕事をギリギリ回している状態で、休日も休むことができない状況か
と思います。当然ながら、学内業務も自分が休んでしまうと回らなくなる状態ですので、簡単に休むわけにはいきません。たとえ
自分が休んだとしても業務に支障が出ないよう、サポートする人材の確保が必要と思います。例えば、研究面では、京都大学で
は技術職員の数が大変減ってしまった状態ですが、他大学に目を向ければ、技術職員が共同利用等の中心的存在として活躍
している大学もあります。京都大学は技術職員がいなくなってしまうので、その分、教員が業務の穴埋めをしています。
そのためのサポート業務や運営業務により、本来、教員が行うべき教育・研究業務の時間が減っています。人員削減はどこでも
起こっていることかもしれませんが、人員削減する前に、あらゆる業務で自動化・遠隔化を進め、業務の効率化を行い、その上
で、人員削減するという流れにしなければ、人員が減ったうえに、業務が増加し、ますます教育・研究業務の時間が減ってしまう
という悪循環に陥るのは明白です。全学的に自動化・遠隔化を進めるため、短期的でも IT 系の人材を増やすか、外注するかし
て、業務の効率化に投資すべきと思います。初期投資費用はかかりますが、長期的に見れば、人件費を抑えられ、育児・介護
に携わっていない人にも恩恵があると思います。
- 担当授業で野外実習の引率があり、帰学が 20 時を過ぎることも多いので、おむかえ保育の補助があれば有り難いです。ベビー
シッターの補助があることは存じておりますが、自宅の鍵を預けることは抵抗が大きいので、おむかえ保育を利用しています。
部局によっては、このような事例においては、部局予算で補助を出している例があると聞きましたが、財布の状況は部局によっ
て大きく異なるので、全学で統一的な補助システムができてほしいと願っています。
- 次年度は本制度利用の継続が認められず、困っております。子供が小さく、学会等の参加が自由にならず、十分な成果がなか
ったためでしょうか。これから研究成果を上げていきたいと考えていただけに、残念です。不採択の場合、理由を通知いただ
ければ、改善に向けた糧となるかと存じます。
- この制度が続くことを祈念しております。
- 研究に携わりながら育児や介護との両立も努める場合、こうした補助は非常にありがたいので、必要とする研究者が受けられるよ
う、継続してくださることを願っております。
- 報告者は男性研究者であるが、女性研究者(職員)には、必要であれば生理休暇も認められているはずである。本制度のように
きっちりと半年間にわたるような助成でなくても、月に数日間定期的に補助を得られるような制度があってもよいかもしれない。月
に数時間程度のことで、研究の連続性を助けることができるように思う。
- 保育園入園待機乳児保育室には大変お世話になりました。通常の保育園よりも柔軟に対応していただき、素晴らしい事業だと思
っています。
- お迎え保育でいつもお世話になっております。土日祝日も対応できるようにしていただけるとありがたいです。
- 京都大学の男女共同参画推進センターの取り組みはとても優れていると感じます。子の養育や親の介護等、さまざまな家族内
での役割を担いながらも仕事を続け、成果を出していけるような職場のサポートがあるならば、継続して働き続けることができよ
うに思います。今後の取り組みにも大変期待しております。
- 本制度により、育児と研究の両立ができております。産休・育休中の研究者が利用できる助成金があれば良いと思いました。

■研究支援・実験補助者雇用制度 アンケート報告②

対象者:令和5年度第1期 研究支援・実験補助者雇用制度利用者 24名

形式:実績報告と同時にメールにて依頼。

回答率: 100%(24名)

1.「研究支援・実験補助者雇用制度」を利用することで、どのようなことが可能になったか

- ・I'm sorry, this year it didn't work very well. I couldn't have predicted it. I should have hired someone else, but I couldn't guess because Assistant had been so efficient in the past. I only got two results that are not good, so nothing was possible this semester...
- ・本制度利用前においては、育児との両立（保育園送迎・園帰宅後の世話）のため実施が困難であった長時間の生化学実験の遂行が可能となり、研究を大きく進展させることができました。細胞培養・実験動物飼育など、日々実施する必要がある実験に関しても、自身の負担が大きく減り、論文作成や研究立案、申請書作成等にさける時間も増えました。
- ・研究支援者に依頼して分担できる業務があることで、突発的に取得せざるを得ない休暇等による研究の遅れを挽回して研究を進めることができました。また空いた時間で学生指導や論文の共著および複数の査読、講演や執筆依頼を受けることが可能になり、エビデンス創出への貢献に加え教育や研究成果の社会還元を行うことも一定程度達成できた。
- ・私が携わっている研究は、診療後の患者さんをリクルートし、データを収集しているので、診察後に同意取得し、データ収集となると定時を超えることも多く、また、支援いただいた時期は学外実習に行っている為、私に対応できない時間帯に測定やデータ整理を手伝っていただいておりますスムーズにデータを取ることができるようになりました。
- ・複数の研究プロジェクトを同時に進めることができるようになった。また、残業が減り、定時に家に帰り、家に帰った後育児に専念できるようになった。金銭的な援助を得たため、さらにもう一人の補助者を雇うことが可能になった。
- ・子供の体調不良で欠勤が続く時期がありましたが、実験補助員に仕事を進めてもらうことで、不在時でも滞ることなく研究計画を進められました。そのため、以前よりも長期的な研究計画を立てやすくなりました。
- ・子育てだけでなく、講義担当が重なったこともあり、さらに研究時間が限られた期間であったが、実験補助者の協力により計画的に研究を分担することができ、概ね計画通りに推進することができた。研究をストップすることなく過ごすことができ、昨年度以上に学会参加・研究発表の機会が得られた。
- ・本支援制度にて雇用した研究補助者に、装置開発の補助的な作業や結果の整理の一部、また関連する作業のマニュアル作成などを担当してもらうことで、申請者として新しい実験の立案や試行、結果の考察や文献調査など、より専門性・挑戦性の高い内容に時間を多くあてることが可能となった。
- ・培養実験は、生きた細胞を扱うため、定期的な培地交換などの世話が必要です。研究者が時間的に常時これを行うことが困難である場合に、実験補助者に担当いただくことで継続的な実験が可能になりました。また、培養デバイスとしての薄型膜を用意いただくほか、PCRや染色など補助いただいています。
臨床データ整理は、研究の準備段階の裏方作業として大変重要です。しかし、成果が見える仕事ではないので、研究者本人が時間をかけて行うことは難しく、補助者が担当いただくことでスムーズに研究を開始することができます。
- ・指導大学院生が当方と同じように乳児を育てる一児の母であり、実験を行うに際しても当方と同じように制約があるため、マウスケージ交換やジェノタイピングなどといった必要な過程をサポートしていただくことで、限られた時間の中で実験を進めることが可能になった。
- ・育児による短時間勤務では1つの研究課題を進めるのだけでも一苦労だが、この制度のおかげで複数の研究を同時進行することが可能となった。また、子供の体調不良時でも、補助者に実験動物の維持や薬剤投与といったルーティンワークをお願いすることが出来た為、遅延なく研究を進められた。
- ・臨床医として外来診療や手術、大学教員として学生指導等の合間を縫っての研究で、なかなかまとまった時間を確保することができません。そんななか、実験補助者のサポートをいただき、実験自体は連続した一連のものとして間断なく継続することができました。
- ・この制度を利用して、主に遺伝子検査のルーチンワークに関しては、実験補助者に担当してもらうことができました。申請者は、論文の執筆や校正などの学術的な作業により多くの時間を割くことができました。結果として、多くの成果を発表できました。また、空いた時間を、家事や育児に割くことができました。

- ・多施設共同研究の遺伝子解析を担当している当院には、多数の試料が集中するため、試料の整理や他施設との報告書のやり取りなどの煩雑な作業が多い。研究支援・実験補助者雇用制度を利用して、スムーズな遺伝子解析を進めることができ、多くの研究成果に結びついた。
- ・育児や介護を行うため通常よりも早い時間に一旦帰宅しても、これまでとほぼ同じペースで研究を推進することが出来た。そのため、研究者としてのキャリア維持に繋がった。また今回の補助者は、これまで雇用した方と同じ方に来ていただいたが、補助者自身のスキルアップにもつながり、今後のキャリアパスの一助になった。
- ・循環器内科及び乳腺外科診断所見の記載事項の大部分が、手書きの自由文ではなく数値や選択肢で構造化された。開発したフォームに実装された診断支援機能により、必要な事項の確認不足や入力漏れが大幅に低減され、業務の効率性・確実性とデータの二次利用性の双方が向上した。
- ・夫婦共働きで、小学生、保育園児の子供がいますので、何か月も前から妻、小学校、保育園のスケジュール調整をしていたとしても、妻の急用、子供の発熱、保育園、小学校からの急な要請等でイレギュラーな予定が入り、それに対応しなければならないため、自分がずっとついでにしなければならない危険な実験や新しい実験等必要な実験をすることができませんでしたが、代わりに実験をしてもらうことで、予備的な結果を得て、次の研究費の申請の準備ができました。
- ・実験を滞りなく行えていることが、やはり大きな利益として挙げられる。一番下の子供(双子)が二歳になり多少話が通じるようになってきたこともあるが、育児と並行した限られた時間の中でも最低限の水準とはいえ一通りの研究業務を行えているという実感がある。本制度を利用することで、時間のかかるルーティンワークを肩代わりしてもらえていることは、たいへんな利益となっていると思う。
- ・単純な分析作業やデータ解析作業を補助者に委託することにより、その時間を高次の研究作業に充てることができた。どうしても細切れになってしまう研究時間の中で、細々とした作業を依頼することができ、心理的にも負担が軽減されて、集中して論文執筆や新たな研究テーマの模索をする余裕が生まれた。
- ・The first thing this system helped me with is the work-life balance. I could maintain my research flow without interruption. I also gained experience of how to manage research staff.
- ・稚魚の選別、個体識別、体長計測は魚類の初期生活史研究を進めるために避けては通れない作業である。本制度によりこの手間と時間のかかる作業を実験補助者に委託することができたおかげで、データ解析や論文執筆、発表準備などに十分な時間を充てることができた。その結果、期間中に論文 2 本と学会発表 1 件の成果を残すことができた。
- ・今回、研究支援・実験補助雇用制度を利用することで、毎週行う必要があった野外調査の準備および翌日の調査後処理(片付けを含む)を委託することができた。これにより計 12 時間/週かかっていた時間を論文執筆や所内での研究会企画(7 月 7 日と 9 月 28 日にポスドク研究会を実施)、発熱などの急な子どもへの対応に割くことができた。
- ・研究実施にあたり相当長時間にわたり装置を操作し続けられないといけない解析業務について、本制度による補助者を活用することによって、多くの解析を連続して系統的に実施できるようになり、解析の効率が飛躍的に向上し、研究を一段と推し進めることができた。また、研究遂行上の時間拘束から少なからず解放されたことから、ケアが必要な子の育児(就学支援)に対応することが可能となった。
- ・今年は、子供が早い時期からインフルエンザなど様々な感染症にかかることが多く、急に仕事を休まねばならないことも多くありましたが、本制度のおかげで継続できた実験が複数ありました。

2. 「研究支援・実験補助者雇用制度」を利用した感想

- ・From my experience last year, the system is good, I was just very unlucky this year with the person I hired...
- ・私は、子供 2 人の育児(長男 2 才、長女 0 才)を行いながら、日々の研究活動を遂行しております。本制度を利用させていただくことで、研究に集中できる時間が格段に増えました。特に、育児期と自身の研究費が乏しい(自身での技術補助者の雇用が難しい)期間が重なる若手研究者には、とても助かる制度だと感じます。
- ・研究支援者による温かくきめ細やかなサポートのおかげで、少しずつでも研究や教育前に進めることができ、また遠隔勤務であっても研究支援者のおかげで組織とのつながりを意識することができました。この制度を利用させて頂けて大変ありがたかったです。
- ・未就学児と低学年の小学生の子供が 3 人おりますが、子育てをしながら研究を継続することができ、業績も少しずつ増えてきました。子育てと仕事が両立できているのは本制度のおかげであると心より感謝しております。

- ・子育て、介護を行っている研究者はいつも時間がなく、仕事に追われているので、研究支援者の雇用をサポートしていただける制度はとてもありがたい。
- ・家庭の都合で欠勤や早退を余儀なくされる状況になっても、安心して研究を進められるのでとても助かっています。今後も本制度を利用して、一日でも早く研究成果をあげられるように努めたいと思います。
- ・本制度によって、時間的にはもちろん、精神的にも余裕をもって研究に向き合うことが出来ているように感じている。また、今期は学生を2名雇用したことにより、実験補助者も余裕をもって自身の研究と実験補助を両立出来ているように感じた。
- ・育児で勤務時間の制約が厳しい中、本制度で実験補助者を雇えたことは研究をスピードアップさせる上でかなり助けになりました。引き続き、応募・利用させていただきたいと思います。
- ・支援制度により助かっています。医学生(2回生、6回生)を3名から4名雇用したが、それぞれにも試験勉強や部活動、アルバイトなどの活動があり、都合を相談しながら勤務いただきました。本業として一貫して携わっていただける方が理想的ですが、半年間の支援でありその先が不透明ですので、雇用しにくい。既に教室で雇用している本業の方の雇用費に付け替えることは、業務内容を申請者本人の補助のみにあてにくいため通常困難です。育児や介護状況が半年で改善することはあまりありませんので、できれば2-3年間の継続的支援を行っていただくと利用しやすいです。
- ・現時点では、上記のような事情があり、研究を進めるには必要不可欠になっている。非常に有用な制度と感じており、深く感謝をしている。今後も可能であれば利用させていただきたいと考えている。
- ・子供の体調不良で度々休まなければならないところ、補助者にはとても助けられた。この制度のおかげで技術のある補助者を継続的に雇用することが可能となっており、新しい人材の教育等をしないで済んでいる。
- ・旧知の実験助手さんを安定して雇用することができ、大変助かりました。科研費や、外部資金の獲得状況によらず、一定期間であっても安定して雇用できることは、研究の安定、ひいては質の向上につながる非常に重要な点であると実感しております。
- ・出産・育児等の大きなライフイベントの際に、研究を中断することなくサポートして頂ける制度として、大変素晴らしいものだと思います。申請方法も煩雑でなく、3か年までは連続して申請ができるところも良かったです。
- ・教員のライフステージの変化に伴って、研究やそれに関連した業務に避ける時間を減らさざるを得ない状況において、このような支援があるのは非常にありがたいと感じました。
- ・補助者を雇用したのは4期目であり、引き続き自分自身の研究のみならず、研究室全体のプロジェクト推進に非常に有益でした。特に人員不足、同じように育児・介護を行うスタッフが多い研究室にとってはありがたい制度であった。
- ・個性のある各診療科に合わせた、信頼性の高いデータを効率よく収集するためのプラットフォームの開発が研究のボトルネックになっていたため、支援がいただけてありがたかった。
- ・夫婦共働きで、子育て、家事をこなしながら、綱渡りのような予定を組んでいますので、何かトラブルが発生してしまうと仕事が回らなくなってしまいます。たとえ少しの間だけでも実験を見てくれる人がいるというだけで、研究でも最も大事な創造的な部分に時間をかけることができたと思います。
- ・素晴らしい制度と思う。数期に渡って同一の補助者を雇用し続けたことにより、補助者自身の希望であった実験技術の向上にも寄与することができており、雇用者・被雇用者双方にとってたいへん優れた制度になりうると考えている。
- ・大変有り難い制度で、とにかく感謝しております。保育園の送迎時間に制約される中で、授業の準備や学事に追われながら研究の時間を確保するためには、このような制度は必須です。年齢的にもポストドク等の雇用経験の無い利用者が多いと思いますが、自分の研究を部分的に誰かに委託するという経験も今後の研究人生の中では重要な意味を持つと感じました。
- ・**I am grateful to obtain such a support from Kyoto University which helped me smoothly advance my career in research.**
- ・実家から遠く離れた土地で幼い三兄弟(7、5、0歳)を世話しながらも研究成果を残すことができたのは、何よりも妻の理解と協力のおかげであるが、本制度による支援も大きな助けになったと感じている。
- ・育児により研究時間が減る場合は調査の後処理などを雇用主に依頼することは心理的負担が大きい。しかし、研究支援・実験補助者雇用制度を利用することで独自に人を雇用でき、心理的負担がなく研究支援をしていただけた。
- ・非常に助けられました。安心して実験作業を任せられる補助者を継続して雇用することができ、効率的に研究をすすめることができました。実験の主体(申請者)と雇用者(補助者)で、上手く時間や担当の配分ができることから、大変助かりました。
- ・今年は小学校における感染症流行が激しく、子供の急病や学級閉鎖により仕事を休まねばならない間、実験を補助してくれる人がいたのは、とても助かりました。これからもこの制度をぜひ継続してほしいです。

3. この制度を利用する上で、困ったこと、改善した方がよいと思うことがあるか

- No comments this year. Thank you for your support, at least she could make her PhD thesis presentation and defense.
- 特にございません。未就学児の育児期間は数年間に渡るため、できるだけ継続的なご支援（長期的な（年単位での）本制度の利用）をいただくと、子を持つ若手研究者としては大変助かります。
- 是非次の期もこの制度を利用させて頂きたいと考えていたのですが、候補の方が年度途中で退職する見込みが高いためということで、断られてしまいました。年度途中で補助者が何らかの理由でご退職になっても問題ない（その時点で制度利用終了というところでやむなし）と理解しておりましたが、そのあたり「よくある質問」等に明記して頂いても良いのかなと思いました。
- 特にありません。項目4にも挙げた通り、学生を2名雇用したことにより負担が分散され、余裕をもって取り組んでくれているように思います。ありがとうございました。
- 2名以上の補助者を雇用する場合に、複数人を同時に作業させられないという縛りがあることに利用しにくさを感じます。複数人で同時に行った方が効率的に行える作業もあり、こちらとしても勤怠管理がしやすいです。（今回は1名のみでの雇用としましたが、本当は2名を同時に雇用して、同じ時間帯に作業してもらいたいです。）
- 全くありません。ありがとうございました。
- 半期ではなく、1年の支援であればより助かります。
- 可能であれば1年単位でご検討いただけますと幸いです。
- 大きな問題点はないと思います。細かい点ですが、本制度の採用通知を受けてから、実験補助者を決定するまでの期間が比較的短く、学外から公募して人選を行うのはやや厳しいと感じました。
- 他の研究費を使って技術補佐員の給与を上乗せしたり、技術補佐員の募集を派遣会社にお問い合わせしたりができれば、より利用の幅が広がるように思いました。
- 特になし。ただ、基本半年・時間雇用の制限があり、補助者人材の継続的な育成という点では課題が残ります。育児や介護は半年で終わるわけではなく、数年継続する場合がありますから、継続支援制度を作り、場合によっては常勤枠として雇用できる制度が出来るとさらに良いと感じました。
- 4月、10月の固定ではなく、通年で応募できるとよい。
- 本制度では、所属研究室内の大学院生等を雇用することが多いかと思いますが、学生は講義、研究、就活やその他の活動で大変忙しくしています。場合によっては、所属研究室に対象となる学生がいらないという状況もあるかもしれません。本制度について、学外にも周知し、学外からも実験補助者として雇用しやすい環境を整える必要があるのではないかと感じました。例えば、学外の実験経験者の中で本制度に関心がある方に実験補助者バンク(?)に登録してもらい、実験補助者を希望する人と実験補助者バンクに登録した人が面談してマッチングすれば、そのまま雇用し、マッチングしなければ、学内の院生等を雇用するといったこともできるのではないかと思います。実験補助者バンクには、学外の実験経験者の他、学内の学生も登録してもらうようにすれば、人材をより活用しやすくなると思います。あるいは、民間の人材派遣会社と提携するということもできると思います。
- 大変ありがたい制度なので、ぜひこのまま継続していただきたいです。
子どもが幼い間は、多少減額されたとしても継続して採択していただけるようなシステムになれば、より有り難いです。
- 期間後半に体調不良により実験補助者が長期欠勤せざるをえなくなった。申請時に登録した実験補助者しか雇用できないため、代理の実験補助者を雇用することができず、予算を最大限に活用することができなかった。手続きを踏めば、代理の実験補助者を雇用できるようにするなど、制度の柔軟性を高めてほしい。
- 雇用する人に幼い子供がいる場合、当然体調不良でその方が休まれる場合があります。その際に休んだ分の時間を次の期間に繰越することができればより良いと思いました。
- 補助者、申請者が交互に体調不良で感染症対策等のため待機となってしまう、予定していた実験が進まない事態が起こってしまいました。制度の趣旨からして少し難しいのかもしれませんが、補助者の一時的な変更や代替者の選定について、もう少しフレキシブルであってもよいかもしれません。

4. この制度の募集情報の入手方法(※複数回答あり)

区分	人数
メール（うち所属部局から）	13
センターHP	3
指導教官からの情報	3
知人からの情報	2
その他	2
合計	23

5. その他

- ・京都大学の男女共同参画推進センターの取り組みはとても優れていると感じます。子の養育や親の介護等、さまざまな役割を担いながらも仕事を続け、成果を出していけるような職場のサポートがあるならば、継続して働き続けることができるように思います。今後の取り組みにも大変期待しております。
- ・私と同様に育児が理由で制度を利用している他の研究者と交流してみたいです。他の方がどのようにして子育てと研究のバランスを取っているのか、お話を聞いてみたいです。
- ・特にありません。子連れでの学会参加に際して、子の交通費などを補助していただける制度を拝見しました。今年度は既に、2度子連れで学会に参加しており、他大学に先立ってこのような制度を設けていただき、大変ありがたく感じました。今後制度を利用させていただく機会があると思いますので、宜しく願いいたします。
- ・新設された学童保育所 KUSUKU に興味があります。子供がまだ4歳のため現時点では対象外ですが、今から利用可能性を検討させていただきたく、就学前の子供の親にも見学の機会があれば嬉しいです。また、吉田は色々充実していますが、桂にもそのような試みが少しでもあれば…と思います。
- ・多岐にわたり支援を考慮されていて、素晴らしいと思います。男性である私にも支援いただけていることに平等性を感じます。
- ・12月から開始されるキッズコミュニティは素晴らしい事業と思いました。
- ・今はまだ利用できないので、小学生より前の年代の子供にもそういった事業があると嬉しいなと思いました。
- ・本制度も女性のみならず男性も応募・申請可能な点が素晴らしいと感じました。まさに男性、女性が共同して参画できる社会を目指して、様々な事業を推進して頂ければと思います。
- ・小児科は女性教員の比率が高く、出産・育児への支援や、復帰後の研究体制への支援はとても助かっています。
- ・4期目でもお世話になりました。本制度は、出産・育児中の女性研究者のみならず、そのような家族を持つ男性研究者にも大変有用な制度です。男女共同参画推進などで、女性に対する支援は随分と進化しましたが、一方で、キャリアアップする女性を家族に持つような男性に対する支援制度は相対的に不足しており、今後も継続をお願いしたいと思います。
- ・男女を問わず、育児・介護に携わっている人は、日常生活と仕事をギリギリ回している状態で、休日にも休むことができない状況かと思います。当然ながら、学内業務も自分が休んでしまうと回らなくなるような状態ですので、簡単に休むわけにはいきません。たとえ自分が休んだとしても業務に支障が出ないよう、サポートする人材の確保が必要だと思います。例えば、研究面では、京都大学では技術職員の数が大変減ってしまった状態ですが、他大学に目を向ければ、技術職員が共同利用等の中心的存在として活躍している大学もあります。京都大学は技術職員がいなくなってしまうので、その分、教員が業務の穴埋めをしています。そのためのサポート業務や運営業務により、本来、教員が行うべき教育・研究業務の時間が減っています。人員削減はどこでも起こっていることかもしれませんが、人員削減する前に、あらゆる業務で自動化・遠隔化を進め、業務の効率化を行い、その上で、人員削減するという流れにしなければ、人員が減ったうえに、業務が増加し、ますます教育・研究業務の時間が減ってしまうという悪循環に陥るのは明白です。全学的に自動化・遠隔化を進めるため、短期的でもIT系の人材を増やすか、外注するかして、業務の効率化に投資すべきだと思います。初期投資費用はかかりますが、長期的に見れば、人件費を抑えられ、育児・介護に携わっていない人にも恩恵があると思います。
- ・担当授業で野外実習の引率があり、帰学が20時を過ぎることも多いので、おむかえ保育の補助があれば有り難いです。ベビーシッターの補助があることは存じておりますが、自宅の鍵を預けることは抵抗が大きいので、おむかえ保育を利用しています。部

局によっては、このような事例においては、部局予算で補助を出している例があると聞きましたが、財布の状況は部局によって大きく異なるので、全学で統一的な補助システムができてほしいと願っています。

また、大学病院の病児保育の復活を強く望みます。本制度のような日常業務に対するサポートも大変ありがたいのですが、やはりイレギュラーな事態への備えがないと、安心して講義を担当したりすることはできません。ぜひとも大学内に対応可能な施設を設けていただきたいと思います。

- 京大所属のまま、留学などを行う際、妻子の渡航費や現地滞在の支援などを受けることができる制度があれば利用したい。
- 報告者は男性研究者であるが、女性研究者(職員)には、必要であれば生理休暇も認められているはずである。本制度のようにきっちりと半年間にわたるような助成でなくても、月に数日間定期的に補助を得られるような制度があってもよいかもしれない。月に数時間程度のことで、研究の連続性を助けることができるように思う。

男女共同参画推進事業
学会・研究会等参加に伴う臨時的託児関連費用支援制度実施要項

1. 趣旨

本学では男女共同参画及びワークライフバランス推進の一環として、子供を養育する研究者が学会・研究会等に参加する際に臨時的に必要な託児関連費用の一部又は全額を助成します。

2. 申請資格

本学に雇用される研究者（教員、研究員、医員等（研究を職務とする者））であって、子供を養育する者としてします。また、次のことに留意してください。

- ・職務の遂行上、必要な出張を伴う学会・研究会等の参加のうち、土日（子供が通う幼稚園、小学校が休園、休校、又は保育園・学童保育所の閉所期間を含む。）の開催や宿泊を要する参加であって、臨時的な託児サービスを利用せざるを得ない事情がある場合を対象とします。
- ・原則として、小学校 6 年生までの子供を対象とします。
- ・産前産後休暇、育児休業及び介護休業中の者は対象となりません。
- ・本学以外の機関にも雇用されている時間雇用教職員については、本学における週当たりの勤務時間数が他機関のものを超えている場合に限り対象とします。
- ・府省共通研究開発管理システムの研究者番号を取得していることが必要です。（申請時に未取得の場合は、本制度利用時まで取得をお願いします。）
- ・配分機関の経費使用ルール等により臨時的託児関連費用の支出が認められている外部資金を獲得し、当該外部資金の研究課題遂行上において託児関連費用の支出が必要となる場合は、当該外部資金から支出が可能であるため、本制度の対象となりません。
- ・海外出張を伴う学会、研究会等への参加は本制度の対象となりません。

3. 助成対象経費

以下の臨時的に必要な託児関連費用として、研究者が支払った経費（実費相当分）の一部又は全額を男女共同参画推進関連予算から助成金として支出します。

ただし、日常的に必要な託児料については、社会通念上、給与や児童手当等により支弁することが適当と考えられるため、支出は認められません。

また、本制度は子供のみに係る経費が対象となりますので、子供を養育する保護者等の大人に係る経費（出張旅費、宿泊費等）は対象となりません。

- （1）学会・研究会等の参加に伴い臨時的に必要な託児費。なお、「学会・研究会等の参加」とは、研究成果の発表や討論、研究に関する情報交換を目的に行われる学会、研究会、研究集会、学術シンポジウム、研究フォーラム等への参加に加えて、研究を用務とする研究者間の打合せ、学術研究機関への視察も含まれます。

①学会・研究会等が提供する臨時託児サービス

学会・研究会等が提供する託児サービスを利用する際の経費

②学会・研究会等の開催地（滞在先）にある託児サービス

学会・研究会等の開催場所又は滞在先から研究者が送迎可能な距離にある地域の託児サービスを利用する際の経費

(2) 上記(1)の①、②の託児サービスの提供を受ける子供の移動に要する費用と宿泊費

(3) 上記(1)の①、②の託児サービスの提供を受けないが、学会、研究会等の参加に子供を同伴せざるを得ない場合における子供の移動に要する費用と宿泊費

4. 助成額

(1) 託児費：子供1人1日当たり（小学校3年生までに限る。） 上限 15,000 円

(2) 移動費：子供1人1往復当たり 上限 25,000 円

宿泊費：子供1人1泊当たり 上限 5,000 円

※1. 申請件数、予算状況により助成できない場合があります。

※2. 上限額を超えた場合は自己負担となります。

※3. 1人当たり、年度の申請回数は3回までとします。

※4. 小学校4～6年生の子供は、移動費、宿泊費のみが助成対象となります。

5. 申請方法（別紙1「申請手続きフロー」を参照）

・申請は随時可能です。

・ただし、当該年度における申請総額が予算の上限に達した際は、それ以後の申請に対して助成できない場合があります。予算の上限に達した場合は、部局通知及び男女共同参画推進センターHP (<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>) にてお知らせします。

・学会・研究会等の参加前に別紙2「申請書」に必要事項を記入し、参加する学会・研究会等の開催要項、その他研究の用務による出張を証明する書類を添えて、出張日の2週間前までにメールにて下記担当まで提出してください。

・本要項に定める申請資格及び助成対象経費に該当するかを審査の上、原則1週間前までに、申請者宛に支援の可否をお知らせします。

・学会・研究会等の参加後速やかに、別紙3「実施報告書」、立替払請求書、助成対象経費の支出を証明できる託児サービス利用料の領収書、移動に要する費用及び宿泊料に関する領収書等を下記担当まで提出してください。なお、立替払を行った日の翌日から起算して14日を超えて提出されたものは受け付けることができません。（支援決定後においても助成を受けられません。）

・本制度は、あくまで子供のみに係る経費が対象となります。子供を養育する保護者等の大人に係る経費（出張旅費、宿泊費等）は、通常の旅費支給の手続きとなりますので、所属部局事務又は事務室にて手続きを行ってください。

・支援決定後においても、上記領収書等を紛失した場合は助成を受けられません。また、上記領収書等が提出された場合でも、助成対象経費の支出を証明できないと判断した場合は、

助成を受けられない可能性もあります。

6. 税法上の取扱い

本助成対象経費は、税法上、本人が負担すべきものと考えられることから、本制度の助成を受けた場合は、給与課税となります。

7. 外部資金による託児関連費用の支出に際しての留意点

・託児関連費用の申請に当たっては、研究遂行上の必要性和上記条件に加えて、本学発行の「研究費使用ハンドブック」、本学会計関係諸規定及び本学が定める「競争研究費等不正防止計画」等に十分留意の上、申請者が説明責任を果たせるよう、適切に対応してください。

・獲得している外部資金に係る配分機関の経費使用ルール等により臨時的託児関連費用の支出が認められているか不明である場合は、申請者所属部局の当該外部資金を担当する事務に確認してください。

8. 担当・問合せ先

人事部職員育成課ダイバーシティ推進掛

TEL:075-753-2059（内線:16-2059）

E-mail: g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

Kyoto University Gender Equality Promotion Project
Implementation Guidelines for the Program to Provide Childcare Expenses to
Facilitate Participation in Academic Conferences, Research Meetings, Etc.

1. Objective

As part of its efforts to promote gender equality and a healthy work-life balance, Kyoto University will subsidize part or all of the childcare-related expenses that may be temporarily needed by researchers raising children to enable their participation in academic conferences, research meetings, etc.

2. Eligibility

Applicants must be researchers employed by Kyoto University (faculty, researchers, medical staff engaged in research, etc.) who are responsible for raising children. In addition, please note the following:

- The program covers participation in academic conferences, research meetings, etc., that require researchers to travel in order to carry out their employment duties, and which are held on Saturdays or Sundays (including periods in which kindergartens, elementary schools, nursery schools, and childcare centers are closed), or which require overnight stays necessitating the use of childcare services.
- As a general rule, children up to the 6th grade of elementary school are eligible.
- Faculty and staff who are on prenatal, postnatal, childcare, or family care leave are not eligible.
- Part-time faculty and staff employed at institutions other than Kyoto University are only eligible if the number of hours they work per week at Kyoto University exceeds that of their other institution(s) of employment.
- To be eligible, applicants must have a unique researcher number in the Cross-Ministerial Research and Development Management System (e-Rad). (Persons who have not obtained a unique researcher number at the time of application, are requested to obtain one before using this program.)
- If researchers have received external funding that can be used for childcare-related expenses in accordance with the funding organization's usage rules, etc., and the childcare-related expenses are necessary to carry out the research project for which the external funding has been granted, then the childcare expenses are not eligible to be provided through this program, as they can be sourced from the external funding.
- This program does not cover childcare expenses required for participation in academic conferences, research meetings, etc., that involve overseas travel.

3. Eligible Expenses

Part or all of the following childcare-related expenses required to be paid by the researcher (equivalent to the actual expenses) will be provided from the budget for the promotion of gender equality. However, childcare expenses that are required on a regular daily basis will not be provided, as it is considered socially appropriate for such expenses to be paid using salary, child benefit, etc. Furthermore, this program only covers expenses related to children. It does not cover expenses related to adults, including parents/guardians raising children (business travel expenses, accommodation expenses, etc.).

- (1) Childcare expenses that are temporarily required for participation in academic conferences, research meetings, etc. Please note that "participation in academic conferences, research meetings, etc." includes participation in academic conferences, research meetings, research workshops, academic symposiums, research forums, etc., held for the purpose of presenting and discussing research results and exchanging research information, as well as meetings between researchers for research-related matters and visits to research institutions.
 - I. Childcare services provided by academic conferences, research meetings, etc.
Expenses for using childcare services provided by academic conferences, research meetings, etc.
 - II. Childcare services at the location in which an academic conference, research meeting, etc., is held (or the researcher's place of stay)
Expenses for the use of childcare services within an area that is close enough to the location

of an academic conference, research meeting, etc. (or the researcher's place of stay) to enable the researcher to drop off or collect their children from the service.

- (2) Transportation and accommodation expenses for children who receive care from childcare services as described in (1) I. and II., above.
- (3) Transportation and accommodation expenses in cases in which children do not receive care from childcare services as described in (1) I. and II., above, but when the child must accompany a researcher participating in an academic conference, research meeting, etc.

4. Amount of funding support provided

- (1) Childcare expenses: Maximum ¥15,000 per child per day (for children up to the 3rd grade of elementary school)
- (2) Transportation expenses: Maximum ¥25,000 per child per round trip
Accommodation expenses: Maximum ¥5,000 per child per night

Please note:

- In some cases, it may not be possible to provide funding support due to the number of applications and budget status.
- Each individual can submit up to three applications per year.

5. Application procedures (please refer to the “Application Procedure Flow Chart” (Attachment 1))

- Applications may be submitted at any time.
- If, however, the total amount of funding applied for reaches the budget limit for a given fiscal year, it may not be possible to provide funding to subsequent applicants. If the annual budget limit is reached, a notification will be issued through each department and posted on the Gender Equality Promotion Center website (<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>).
- Prior to attending the academic conference, research meeting, etc., applicants should complete the application form (Form 2), including details of the event they will attend and documents that verify they are traveling for research purposes. All documents must be submitted by email to the address provided below at least two weeks prior to the date of travel.
- Following a review of the application's eligibility and the eligible expenses, as stipulated in these guidelines, applicants will be notified whether their application has been approved one week in advance of the date of the business travel, in principle.
- Immediately after attending the academic conference, research meeting, etc., applicants must submit a report form (Form 3) a reimbursement claim form, receipt(s) for the childcare service fees that verify the eligible expenditure, receipts for travel expenses and accommodation fees, etc., to the Diversity Promotion Section, Staff Development Division, Personnel Department. Please note that documents submitted more than 14 days after the date on which the payments being claimed were made will not be accepted (and funding will not be provided, even in the case that the application for funding support was approved).
- This program only covers expenses related to children. Expenses related to adults, including parents/guardians raising children (business travel expenses, accommodation expenses, etc.) are subject to the regular procedures for the provision of travel expenses. Those procedures should be completed with the relevant staff or office of the applicant's department of affiliation.
- Please note that even after the financial support has been awarded, if any of the above receipts, etc., cannot be submitted due to being lost, etc., the funding will not be awarded. In addition, even if the above receipts, etc., are submitted, the grant may not be awarded if it is determined that the expenditure of eligible expenses cannot be proven.

6. Treatment under the tax laws

As the expenses covered by this funding support are considered to be borne by the recipient for tax purposes, the funding provided through this program will be subject to salary taxation.

7. Points to note when using external funding to pay for childcare-related expenses

- When applying for childcare-related expenses, in addition to considering the expenses' necessity for conducting research and the conditions stipulated above, applicants should be sure to pay close attention to the information provided in the Kyoto University Handbook on the Use of Research Funds, the relevant university regulations, and the university's Guidelines for the Use of Competitive Research Funds, and take appropriate measures to ensure that they are able to account for their use

of the funds.

- If it is unclear whether the use of funding for childcare-related expenses is permitted according to the usage rules of the relevant funding organization, the applicant should be sure to check with the staff in charge of the external funding in their department of affiliation.

8. Contact for inquiries

Diversity Promotion Section, Staff Development Division, Personnel Department

Email: g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

■学会・研究会等参加に伴う臨時的託児関連費用支援制度 実績報告

申請件数： 17 件 （内 1 件、子どもの体調不良により申請取り下げ）

申請内容： 学会、研究財団贈呈式、発表会、報告会、セミナー、学術集会への出席や
研究のための調査等において、帯同した子どもの交通費や託児サービス料

助成額： 405,097 円（16 件分）

男女共同参画推進事業

休日に大学入学試験業務に携わる教職員のための託児等利用料金補助事業実施要項

1. 趣旨

本学では、男女共同参画推進の一環として、子供を養育する教職員が休日（土曜・日曜）に実施される大学入学共通テスト及び一般選抜試験の業務に従事するために、託児やファミリーサポート等のサービスを利用せざるを得ない事情がある場合に、その利用料金の一部又は全額を補助します。

2. 補助期間

大学入学共通テスト及び休日（土曜・日曜）に一般選抜試験が実施される日

3. 利用対象者

大学入学共通テスト業務及び休日（土曜・日曜）に実施される一般選抜試験業務に従事する教職員であって、臨時的な託児サービスを利用しなければ試験業務に従事することができない教職員

4. 利用を補助する子の対象年齢

0 歳～小学 6 年生までの子供

5. 利用料金補助の範囲

託児等の利用料金の補助については、次のとおりとします。

- ① 対象となる子 1 名につき、利用者負担額を全額補助します。ただし、利用料金には、食事代は含みません。
- ② 対象となる子が複数いる場合は、その人数分の申請が可能です。
- ③ 補助の対象となる保育時間は、申請者の業務従事時間及び通勤時間とします。

6. 利用の流れ（別紙 1「申請手続きフロー」を参照）

（1）託児等の手配

託児や一時保育、ファミリーサポートの手配はご自身で行ってください。利用時には必ず領収書を発行してもらってください。

（2）利用申請書の提出

利用者（本学職員）は、別紙 2「申請書」を入試業務前々日までにメールにて下記担当へ提出してください。

（3）利用報告書・立替払請求書・領収書（原本）等の提出

利用者（本学職員）は、以下の提出書類を、入学試験業務終了後速やかに下記担当へ提出してください。なお、立替払を行った日の翌日から起算して 14 日を超えて提出されたものは受け付けることができません。

≪提出書類≫

① 託児等利用料金補助事業利用報告書（別紙３）

② 立替払請求書

③ 託児サービス利用料の領収書（原本）等

- ・ 上記領収書を紛失した場合は補助を受けられません。また、支出内容が領収書だけで確認できない場合は、補足する資料の提出を求めています。
- ・ 上記領収書が提出された場合でも、補助対象経費の支出を証明できないと判断した場合は、補助を受けられない可能性があります。

（４）補助金の支払い

提出された書類を確認のうえ、申請に基づいて利用者の登録口座へ補助金を振り込みます。

7. 税法上の取扱い

本補助対象経費は、税法上、本人が負担すべきものと考えられることから、本制度の補助を受けた場合は、給与課税となります。

8. その他

- ・ ベビーシッター派遣事業割引券取扱事業者を利用した場合は、割引券との併用が可能です。併用した場合は、割引料（１枚あたり 2,200 円）を差引いた金額を補助対象とします。
- ・ 本学の学童保育所（KuSuKu）を利用した場合は、立替払請求による支払いではなく、利用料の引き落としを取り消す手続きを行いますので、KuSuKu の利用申込と本事業の利用申請書の提出との両方の手続きをしてください。

9. 担当・問合せ先

人事部職員育成課ダイバーシティ推進掛

TEL:075-753-2059（内線:16-2059）

E-mail: g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

Kyoto University Gender Equality Promotion Initiative
Implementation Guidelines for the Financial Support Program for Provide Childcare Expenses for
Entrance Examination Staff

1. Objective

As part of its efforts to promote gender equality, Kyoto University will subsidize part or all of the expenses for childcare, family support, etc., that may be needed by faculty or staff raising children to undertake work on holidays (Saturdays and Sundays) for the Common Test for University Admission and general entrance examinations.

2. Period of subsidy

Holidays (Saturdays and Sundays) on which faculty and staff undertake work for the Common Test for University Admission or general entrance examinations.

3. Persons eligible for the subsidy

Faculty and staff who are engaged in work on holidays (Saturdays and Sundays) for the Common Test for University Admission and general entrance examinations., and who need to use childcare services in order to engage in the work.

4. Age range of eligible children

From 0 years old to 6th grade of elementary school.

5. Scope of the subsidy

Subsidies for the use of childcare services will be provided as follows:

- (1) For each eligible child, the full amount of childcare fees paid by the applicant (excluding expenses for meals) will be subsidized.
- (2) If there is more than one eligible child, an application may be submitted for the number of eligible children.
- (3) The subsidy is provided to cover childcare during the applicant's working hours and commuting hours.

6. Application Procedures (Please refer to the “Flow Chart” (Attachment 1))

- (1) Making arrangements for childcare, etc.
Applicants should make their own arrangements for childcare or family support. Applicants must ensure that they receive a receipt for the service.
- (2) Submission of application form
Applicants (university staff) should submit Form 2 “Application Form” to the email address below. The application must be submitted at least two days prior to the entrance exam work.
- (3) Submission of Usage Report Form, reimbursement claim form, receipts (originals), etc.
Applicants (university staff) must submit the following documents to the email address below as soon as possible after the completion of the entrance exam work. Any documents submitted more than 14 days after the day after the date on which the payments being claimed were made will not be accepted.

Documents to be submitted:

1. Childcare Subsidy for Entrance Examination Staff Usage Report Form (Form 3)
2. Reimbursement claim form
3. Receipts (originals) for childcare fees, etc.

- If the applicant loses the receipts, they will not be able to receive the subsidy. Additionally, if the details of the expenditure cannot be confirmed by the receipts alone, the applicant may be asked to submit additional supporting materials.
- Even if receipts are submitted, if it is determined that the expenditure for the eligible expenses cannot be verified, the applicant may not be able to receive the subsidy.

7. Scope of the subsidy treatment under the tax laws

As the expenses covered by this subsidy are considered to be borne by the recipient for tax purposes, the subsidy provided through this program will be subject to salary taxation.

8. Other points to note

- If a childcare service or facility that accepts discount vouchers for the use of babysitting services is used, the subsidy can be used in conjunction with the discount vouchers. If used in conjunction with discount vouchers, the subsidy will be provided for the amount remaining after the deduction of the discount (¥2,200 yen per voucher).
- If the Kyoto University Kids' Community (KuSuKu) is used, the subsidy will be provided by cancelling the KuSuKu usage fee debit, instead of payment by reimbursement. The applicant should therefore both apply for the use of KuSuKu and submit the application form for the subsidy.

9. Department in charge/Contact for inquiries

Diversity Promotion Section, Staff Development Division, Personnel Department

Email: g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

■休日に大学入試業務に関わる教職員のための託児等利用料金補助事業 実績報告

申請件数： 5 件

補助内容： ベビーシッター利用 34,765 円補助
学内学童保育「KuSuKu」利用 利用料免除

女性のみなさん
その悩み、

メンターに 相談してみよう。

研究分野の
選択に
アドバイスが
欲しい!

研究者に
なりたい!

キャリアパス
について
相談したい!

頼れる女性の先生方がメンターとなり、
学生・院生・研究者（女性限定）の
疑問・悩みをお聞きます。
あなたの悩みをご相談ください。

対象

- ◎女子大学院生
- ◎博士後研究員（ポスドク）
- ◎若手女性研究者

01



下記アドレスから受付用フォーマットをDLください。

<https://qr.paps.jp/ZH5jB>

02



必要事項をご記入のうえ下記アドレスまでメールでご送付ください。

w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

お問い合わせは



075-753-2437

【京都大学男女共同参画センター】

くわしくは
コチラから! /



京都大学男女共同参画推進センター 2023 年度「保育園入園待機乳児のための保育施設」利用案内

京都大学男女共同参画推進センターでは、学生、研究者の研究と育児の両立を支援することを目的とし、男女共同参画推進センター内に、「保育園入園待機乳児のための保育施設」を設けます。この保育施設は、保育園の入園待ちを余儀なくされている研究者等の子どもを対象とします。

また、2023 年 10 月 1 日からは、「一時保育」も始めました。こちらは緊急に保育が必要な状況である研究者等の子どもを対象としています。運営については、民間企業に委託し、大学が一部費用を負担して実施します。

◇保育施設の概要

施設の名称: 京都大学男女共同参画推進センター保育園入園待機乳児保育室

施設の所在地: 京都市左京区吉田橋町 京都大学男女共同参画推進センター内

受入定員: 4 月～5 月: 3 名、6 月～8 月: 6 名、9 月～翌 3 月: 18 名

◇保育の概要

開室期間: 2023 年 4 月 4 日から 2024 年 3 月 29 日

開室日: 月曜日～金曜日(国民の祝日に関する法律に定める休日、大学の創立記念日、大学が定める夏季・冬季休業期間を除きます。また、京都大学男女共同参画推進センター長がやむを得ない事情により必要と認めたときは、臨時に休室することがあります。)

開室時間: 9 時～18 時 ※時間外保育は、8 時～9 時及び 18 時～20 時までとし、別途利用料が必要です。

対象乳児: 入室時生後 9 週目～2024 年 3 月末時点で 15 ヶ月未満の健康な乳児

運営体制: 運営を保育業者に委託します。

◇利用条件

利用資格: 京都大学に所属する学生、常勤の教員、研究員(週 30 時間以上勤務、学術振興会特別研究員を含む)、医員(週 31 時間以上勤務)

◇利用料金(税込、乳児 1 人あたり):

週 5 日利用: 50,000 円/月、学生 40,000 円/月

週 4 日利用: 44,000 円/月、学生 35,000 円/月

週 3 日利用: 35,000 円/月、学生 28,000 円/月

週 2 日利用: 25,000 円/月、学生 20,000 円/月

※1) 週 4 日、週 3 日、週 2 日の利用は、あらかじめ曜日を指定して、利用するものとします。

※2) 月の途中の入・退室は日割り(1 日 2,500 円/学生 2,000 円(税込))計算も可能です。

※3) 時間外保育料金は、30 分 1,000 円/学生 800 円(税込、乳児 1 人あたり)です。

※4) 紙おむつ、ミルク、おやつ、食事等は利用料金に含まれませんので保護者が持参してください。ご希望される方は粉ミルク・おやつを 2,500 円/月(税込、乳児 1 人あたり)でご利用いただけます。

※5) 双子等の複数の乳児が利用する場合の利用料金は、乳児 1 人当たりについて、所定の利用料金に 80/100 を乗じた額とします。

待機乳児向け保育室を開設します。



京都大学 保育園入園待機乳児保育室

ゆりかご

yurikago

開室期間

2023. 4.4 TUE ▶ 2024. 3.29 FRI

開室日時

月曜日～金曜日 午前9時～午後6時
(時間外保育は、午前8時から9時/午後6時から8時)

保育場所

京都大学男女共同参画推進センター

利用資格

京都大学に所属する学生、常勤の教員、研究員(週30時間以上勤務、学術振興会特別研究員を含む)、
医員(週31時間以上勤務)で、お子さんが15ヶ月未満の方

対象乳児

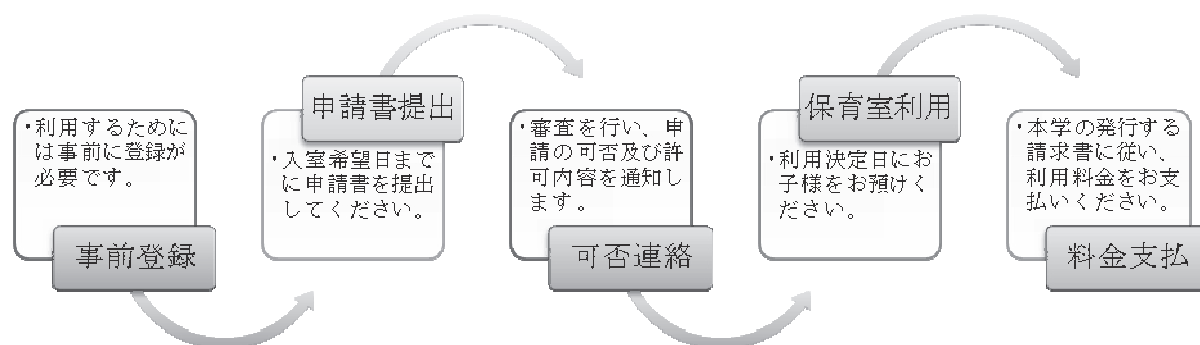
生後9週目～15ヶ月未満(退室時)の健康な乳児
定員: 4月～5月: 3名、6月～8月: 6名、9月～翌3月: 18名

事前登録の早い方が優先されます。ぜひお早めにご相談ください。



<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/care/nursery/>

◇利用方法



1. 事前登録

利用希望の方は、別紙 1「事前登録票」に必要事項を記入のうえ、事前登録を行ってください。事前登録票は、ホームページ (<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp>) からダウンロードし、メールで送付することもできます。

送付先:京都市左京区吉田橋町

京都大学男女共同参画推進センター保育室利用係

メールアドレス:w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

(注)定員を超えることが予想される場合は、先に事前登録した方の利用が優先されます。

2. 保育室利用申請書提出

原則として、入室希望日の1ヶ月前までに、別紙 2「利用申請書」・別紙 4「健康・身体状況伺い書」を提出してください。送付先・方法は事前登録と同様です。ただし、特別な事由のある場合は、事前登録票と合わせて、入室希望日の1ヶ月以内の提出も受け付けます。なお、申請事項に変更が生じた場合は、別紙 3「利用変更申請書」に変更内容を記載し提出してください。なお、保育室入室までに自治体が発行する利用不可通知の控えを提出する必要があります。

3. 申請結果通知書の交付

受入の可否については書類審査を行って決定し、男女共同参画推進センターから申請者に「申請結果通知書」によりお知らせします。

4. 保育室の利用

保育室の利用については、「保育室利用の手引き」及び「京都大学男女共同参画推進センター保育園入園待機乳児保育室利用規程」を遵守し、利用してください。

5. 料金の支払い

利用者は、所定の方法で定められた期日までに、本学が発行する請求書によりお支払いください。

*利用登録・申請において得た個人に関わる各種情報は、保育室の各業務及びそれらの業務に関する連絡・問い合わせのために利用します。

別紙一覧(省略)

別紙 1:「保育園入園待機乳児保育室」利用の事前登録票

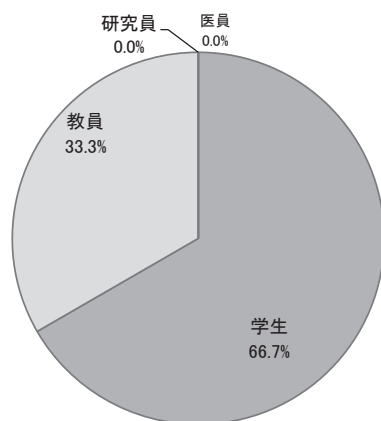
別紙 2:「保育園入園待機乳児保育室」利用申請書

別紙 3:「保育園入園待機乳児保育室」利用変更申請書

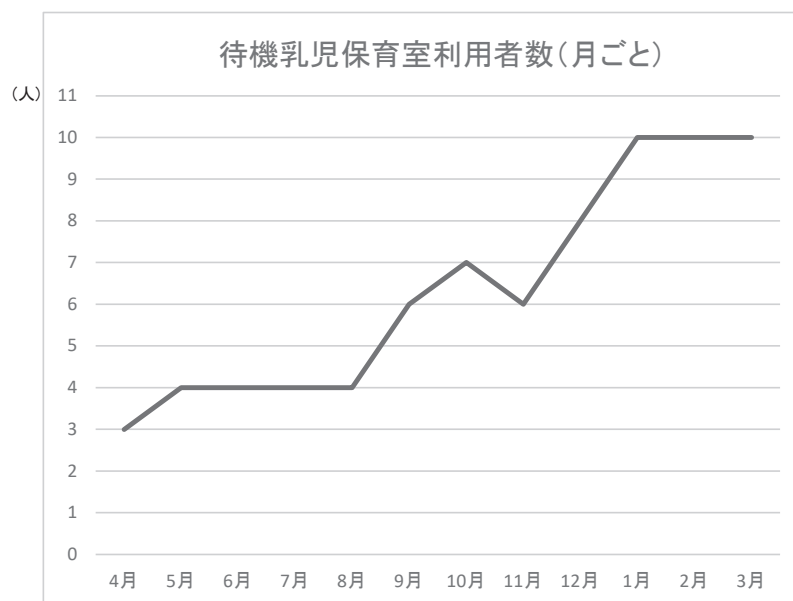
別紙 4:「保育園入園待機乳児保育室」健康・身体状

2023 年度待機乳児保育室利用実績

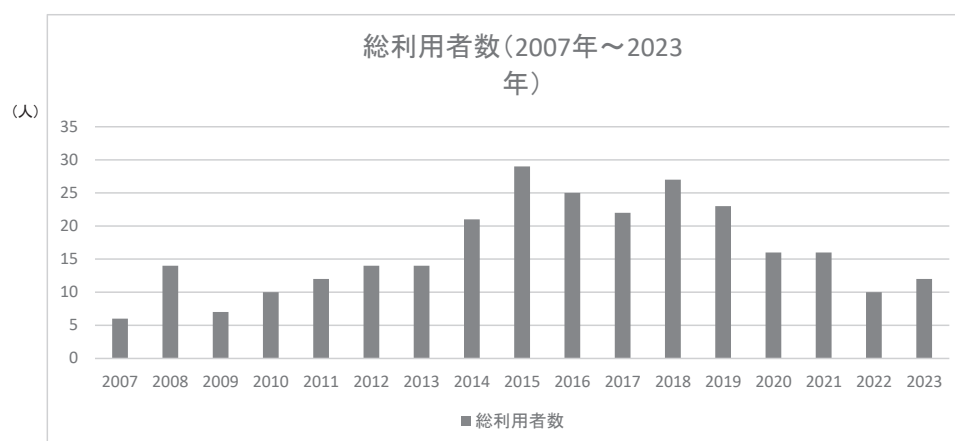
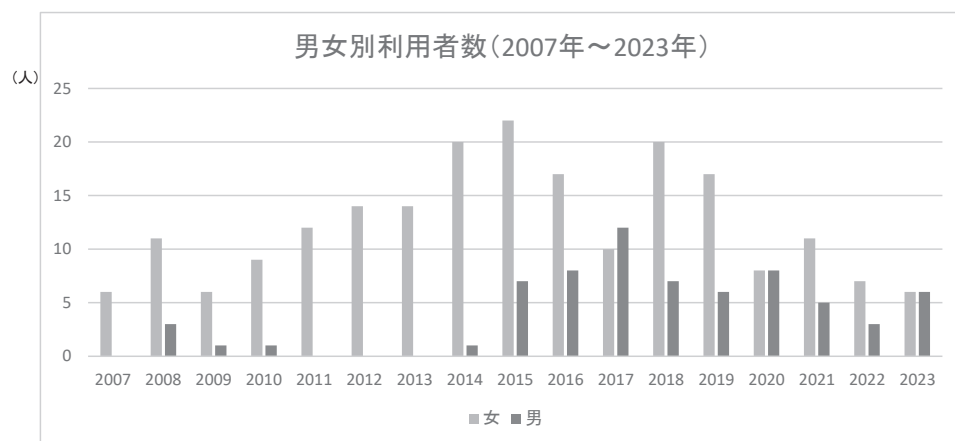
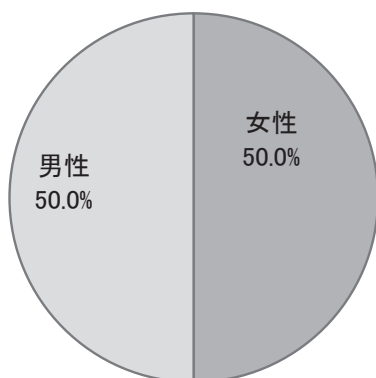
身分別集計



月ごとの利用者数



性別集計



「保育情報セミナー」オンライン開催

10月11日（水）12時15分より「保育情報セミナー」をオンラインにて開催しました。
「保育情報セミナー」は本学の男女共同参画推進の一環として、キャリア継続支援専門部会が、来年4月からお子さまが保育園へ入園予定の方や、育児に関心を寄せる方のために企画しているイベントで、院生をはじめ27名の参加がありました。

当日は近隣の風の子保育園と朱い実保育園の園長先生にお越しいただき、保育園入園に関する情報や親子の関わり合いについてのアドバイスなど、長年保育の現場におられた園長先生ならではの子育てにおいて役立つお話しを、聞くことが出来ました。



☆保育情報セミナー☆

奮ってご参加ください!! 申込締め切り10月4日

対象：京都大学の教職員および学生
2023年10月11日（水）12時15分～13時30分
オンラインでの開催(途中入退室自由)

お子さまが保育園へ入所予定の方や
育児に関心を寄せる方のご参加をお待ちしています。

当日は近隣の保育園の園長が参加されます。

右のQRコードからお申し込みください。（10月4日〆切）
当日のzoom URLは申込者に直接お送りします。

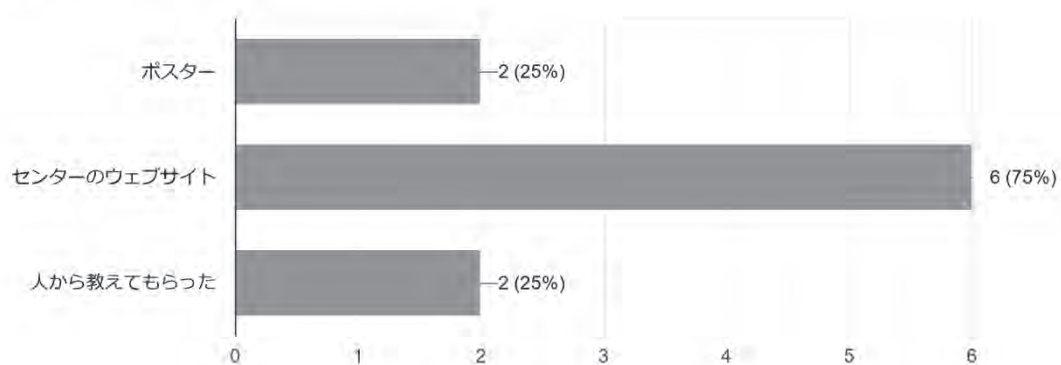
問い合わせ先 男女共同参画推進センター
✉w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp ☎075-753-2437



2022 年度待機乳児保育室 利用者アンケート(利用者 10 名中 8 名回答)

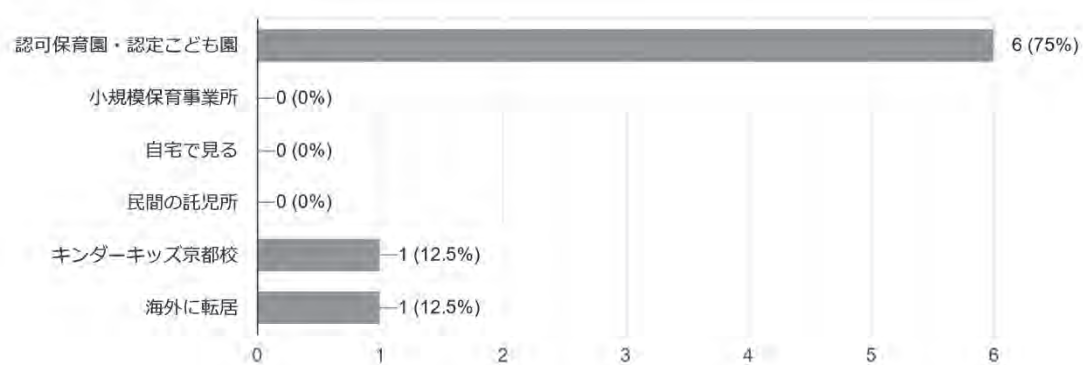
この保育室をどうやって知りましたか(複数回答可)

8 件の回答



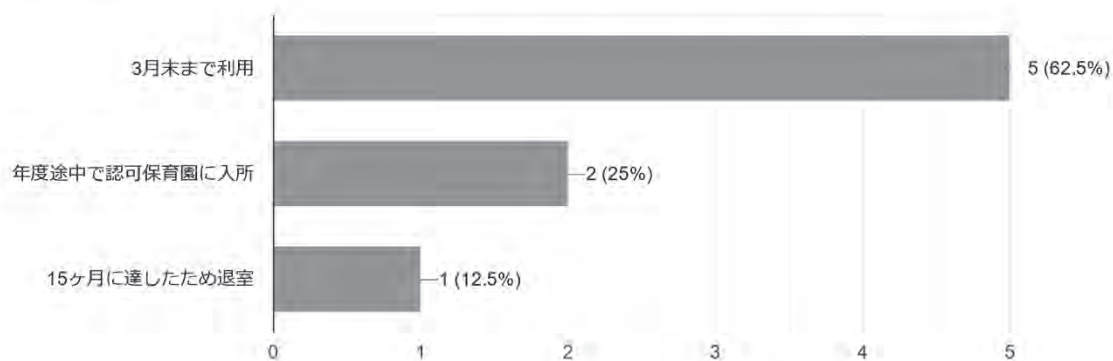
2023年4月からのお子さまの保育状況

8 件の回答



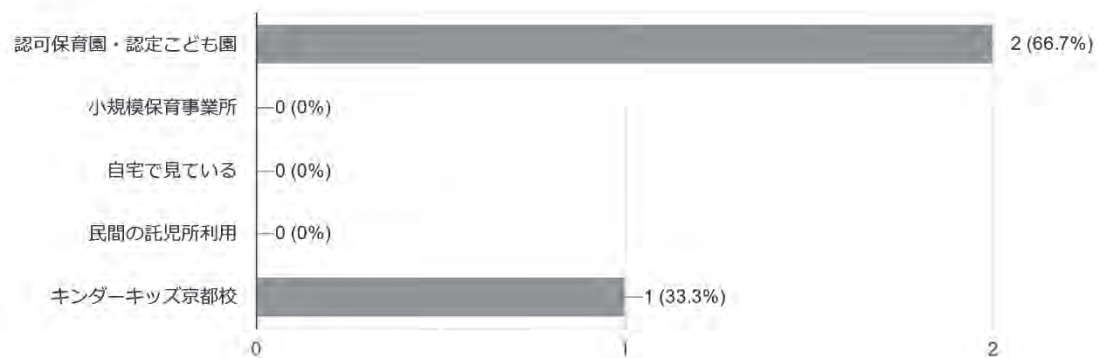
待機乳児保育室の利用状況

8 件の回答



年度途中で退室された方 退室後の保育状況

3 件の回答



2022 年度待機乳児保育室 利用者アンケート(コメント)

利用者 10 名中 8 名回答

【保育園に入るために工夫したこと、苦労したこと】

・特段の工夫はありませんが、2 歳上の兄がすでに保育園に入園していること、両親ともにフルタイム共働きで、母親は 9 月から、父親も 10 月から職場復帰していたため、点数はほぼ最高だったと思います。受け入れ可能定員いっぱいだったため 10 月から兄と一緒に保育園に入園できなかったのが誤算でしたが、ゆりかごのおかげでなんとか 4 月入園まで乗り切れました。

・0 歳児で途中入所可能な保育園が少なく、空きがあったとしても 1 名などで空きが少なかった。また在園の園児さんの兄弟などの場合は優先されるため、当初の第一希望の園には空きが出なかった。

工夫したことは、7 箇所ほど保育園を見学し、複数の希望を出した。一度目の申請では落選したため、二回目（翌月）の申請では、希望順位を変更し、納得した園で、かつ入りやすい園（空きがずっと出ている）を第一希望にしたところ、入園が決まった。また、各園の空き状況は、役所の HP に公開される前でも、役所に電話をすると教えてもらえるため、早めに空き状況を確認し、空きがある園の見学するなど早めの行動をした。

・選択肢を限定しすぎないこと。

【感想など】

・ゆりかごは、先生方が本当にすばらしく、出会えて良かったので、出産予定の周囲の人に宣伝しています。

・仕事との両立のため、授業でどうしても預けなければならない最低限の週 2 回ということで預け始めましたが、あまりに良過ぎて結局授業期間後も 3 月いっぱいまで預けることにしました。兄の認可保育園を上回るほど本当に手厚く見ていただき（季節のイベントごとに個々の子供の顔写真を貼った工作を作っていただいていたびっくりしました）、他の子ともかわりが持てたり家ではできない遊びが心行くまでできたりと子供がとても楽しそうで、無理して仕事しながら家で面倒見るより、ゆりかごに預けた方がはるかによかったと思います。家から小一時間かかることや節約のためもあって週 2 回利用のままでしたが、もっと毎日預けてもよかったぐらいです。あと、家事や仕事の都合で預ける時間が日によって結構変動したので「時間内ならいつ預けてもいつお迎えでもよい」というフレキシブルな運営も非常に助かりました。今年は出産数自体が非常に少なかったせいか少人数でしたが、来年

度はもっと広く活用されてほしいです。

・初めての預け保育をゆりかごでお世話になりとてもよかったです。本当にありがとうございました。保育園の落選後、急な申込にもかかわらず、受け入れていただきとても助かりました。小規模で研究室からも近く、先生方も穏やかに子どもたちを見守ってくださり、安心してお願いすることができました。授乳のタイミングで電話いただけたことも、まだ授乳回数も多くリズムができていない月齢でしたのでとても助かりました。保育園に入る前の準備としても、ゆりかごを利用することで、入園後のイメージを掴むことができ他ので、比較的スムーズに保育園生活をスタートできたと感じます。

利用料は学生にとっては高いです。2ヶ月以上の利用は経済的に大きな負担になると感じました。無償化の施設になっていれば、もっと利用がしやすいと感じました。制度的に可能であれば、ぜひ申請を検討していただきたいです。

3ヶ月だった娘も今は10ヶ月になり、元気いっぱいです。ようこ先生と一緒に過ごしたお友だち2人のことを時々思い出しては、元気かな～大きくなったのだろうなと想像しています。いつか再会できたら嬉しいです。

・生後9週目から週5日間、ずっとお世話になりました。先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。最初は保育園にまだ小さい娘を預けることに罪悪感も感じていたのですが、通うにつれ、娘もゆりかごに行くのを楽しみにしていることを感じてきて、気持ちが楽になりました。自宅にずっといると環境もおもちゃも接し方もバリエーションに限界がありますが、ゆりかごに行くことで毎日いろんな刺激があつて、教育面でもとてもよかったと思います。てあつく優しく面倒を見てもらえて、本当にありがたかったです。冷凍母乳や授乳、ミルク、離乳食、遅刻など、ここまで柔軟に対応してくださる保育園はなかなかないと思うので、助かりました。ハロウィンなどのイベントも写真を見るのがとても楽しみでした。ゆりかごは娘にとって第二の家だと思います。離れるのがさみしいです。帰国した際・京都に来た際は、ぜひ寄らせてください！

・生後間もない子どもを預けるにあたり心配していましたが、保育士の皆さまに本当に丁寧にご対応いただき大変助かりました。私たち夫婦にとっては初めての子育てであり育児について不安なことや分からないことだらけである所を、保育士の皆さまに真摯に相談に乗っていただき感謝しております。保育室での子どもの様子を詳細にご連絡いただけたということもあり安心して子供を預けることができました。

・愛情持って接していただきありがとうございました。送迎も一瞬で終わるのでスムーズで助かりました。

先生方、赤ちゃんたちの寝かしつけに抱っこ紐を多用されており、大変ありがたい一方でお身体大丈夫かと心配になりました。月齢が低い子供が多いとは言え、重さが負担になりうると思います。先生方のご負担が少しでも減るような保育をお願いいたします。本当にありがとうございました。

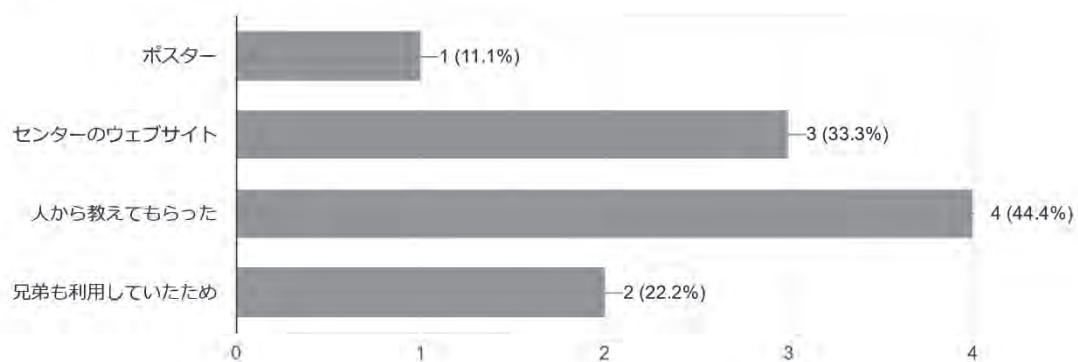
・入園前までに身につけていた家での生活リズムが保育園では崩れがちになり、はじめの

うちは不機嫌になることが多かったです。慣れてくると、家と園で別々の生活リズムができてきて、平日も休日も機嫌良く過ごせるようになりました。家と園では全く別の環境なので、どちらかに合わせるのではなく、それぞれの生活リズムを保つことが我が子には最適なようでした。

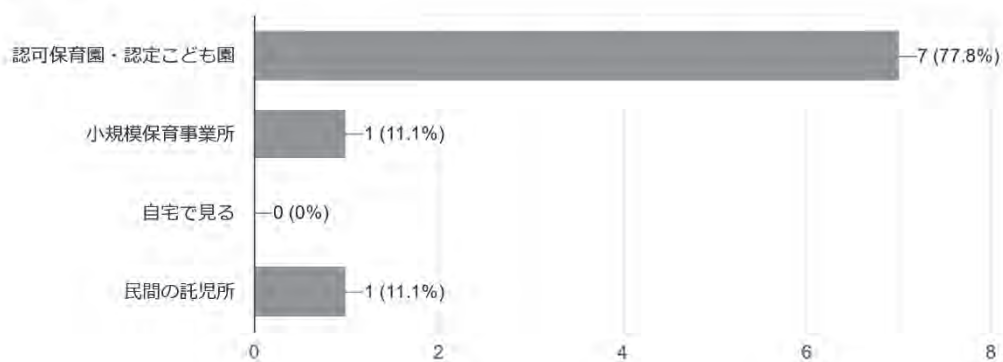
園では細かい要望などにも親切に対応していただき、大変感謝しております。早いうちから園に預けることで愛着形成などの発達が遅れないかと危惧していた頃もありましたが、今では園で先生やお友達に会うのがとても楽しそうで、いろんな形で愛着も形成されているなと感じています。本当にありがとうございました。

2023 年度待機乳児保育室 利用者アンケート(利用者 12 名中 9 名回答)

この保育室をどうやって知りましたか
9 件の回答

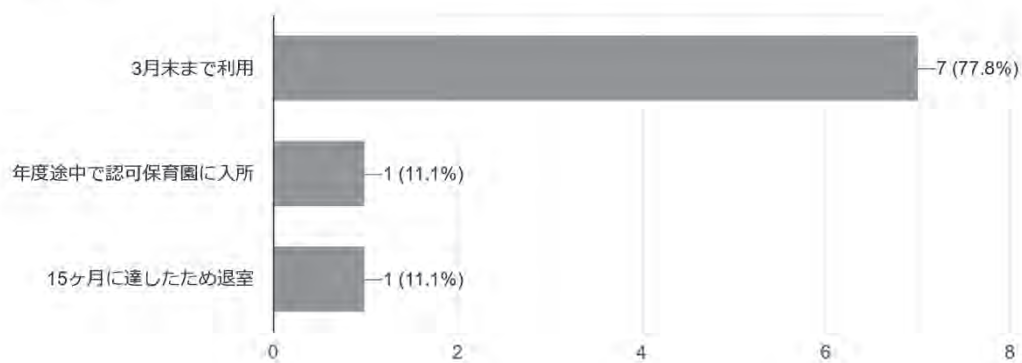


2024年4月からのお子さまの保育状況
9 件の回答



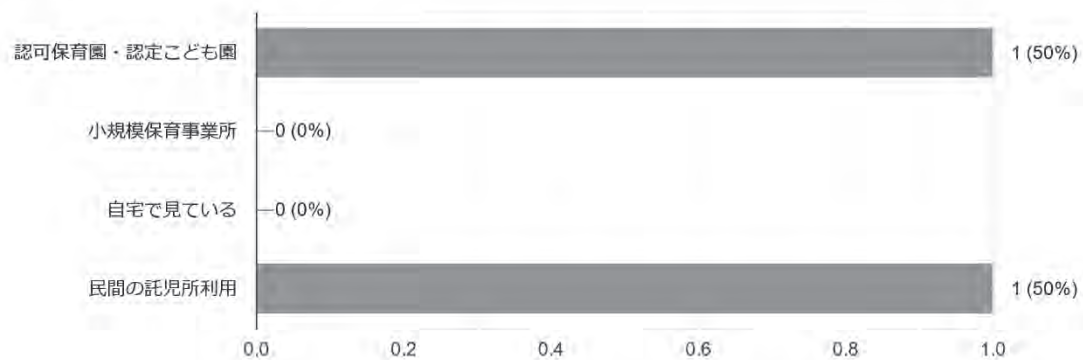
待機乳児保育室の利用状況

9 件の回答



年度途中で退室された方 退室後の保育状況

2 件の回答



2023 年度待機乳児保育室 利用者アンケート(コメント)

利用者 12 名中 9 名回答

【保育園に入るために工夫したこと、苦労したこと】

- ・兄弟と同じところをお願いしたかったので、産後も行ける時は送りやお迎えに行って、保育士さんや園長先生に顔を見せるようにしていた。
- ・京都市の基準をよく見て、なるべく点数が高くなるようにしました。

【感想など】

- ・大変助かりました。短い期間でしたが、ありがとうございました。
- ・非常によくして頂き、大変助かりました！ありがとうございました！！
- ・4月から7月（生後6ヶ月から10ヶ月）の4ヶ月間利用させていただきました。キャンパス内にあり、授業の合間に授乳に行けるため、母乳育児を継続することができました。保育士の皆様にとっても可愛がっていただきましたし、施設的环境も安全且つ清潔で、安心して預けることができました。いつも丁寧な報告書を書いてくださり、読むのが毎日とても楽しみでした。愛情たっぷりに保育くださった皆様、あの場をご提供くださっている関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。
- ・いつも本当にありがとうございました。保育士さんやこのシステムを作ってくくださった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。ことあるごとに、友人には紹介しています。毎回卒業は寂しいです…。お迎え保育などもあるとのことなので、また利用させていただきたいと思います！よろしく願いいたします！
- ・発熱時やお迎えが遅くなった時など臨機応変に対応いただき大変助かりました。また先生方の関わり方や優しさが日々のお話や連絡ノートから伝わってきて安心して預けることができました。
- ・保育室の利用をご相談した際に、これまでの事情を理解いただき速やかに保育室を利用できるようにご対応いただき本当に助かりました。保育士の皆様が娘に温かく接していただき、その時々で臨機応変に対応いただいたおかげで、ここまで元気に成長してくれました。離乳食も楽しんで食べてくれますし、保育室に入る前は寝てしか飲めなかったミルクも最近は起きて飲むことも増えてきました。また、保育士さんやお友達と遊ぶのが大好きで、毎日保育室に行くのがワクワクしている娘の様子を見て、とても嬉しく思いますし、預けて良かったと思っています。半年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。
- ・いつも大変かわいがっていただいて、ありがとうございます。本当に助かりました。全ての大学、研究機関で同じような取り組みが行われて欲しいです。別件ですが、京大に共同研究や学会にくる研究者もつかえるような保育所があると助かります。是非是非検討お願いします。（予算はあっても預け先が見つからなくて困っています）

ベビーシッター利用育児支援

教職員の仕事と子育ての両立支援を目的として、「ベビーシッター育児支援割引券」を発行して、ベビーシッターによる在宅保育サービス事業を行う者（以下「ベビーシッター事業者」という。）が提供するサービスを利用した場合に、その利用料金の一部を助成しています。

対象事業は以下の2つです。

- ①ベビーシッター派遣事業
- ②ベビーシッター派遣事業（多胎児分）

①ベビーシッター派遣事業

●利用対象者

本学と雇用関係にある常勤教職員及び非常勤教職員（非常勤職員については文部科学省共済組合員に限る）であって、以下の事情等によりベビーシッター事業者による在宅保育サービスを使用しなければ就労が困難である者

- ・配偶者が就労又は病気療養中であり子の保育ができない場合
- ・ひとり親家庭である場合

※単身赴任者等、子と別居しており、常態として保育を行っていない場合は本事業の支援対象外となります。

●対象児童

0歳から小学校3年生までの児童

※身体障害者手帳の交付を受けている等、その他健全育成上の世話を必要とする場合に限り、小学校6年生までの児童も対象となります。

●割引金額及び利用上限枚数

割引金額：割引券1枚につき2,200円（ベビーシッター事業者の利用料金が1日（回）2,200円以上で1枚、4,400円以上で2枚まで利用可能）

利用上限枚数：対象児童1人につき1日2枚まで、また、1家庭につき1月24枚かつ1年280枚まで

※上記の利用上限枚数に達しない場合でも、予算の状況等により発券枚数を制限させていただく場合がございます。予めご了承ください。

※令和5年度から、本事業に申込枚数のシステム制限が導入されました。申請時には予定に見合う枚数を申請してください。また、発行後1か月以上利用されない割引券は、連絡のうえ回収させていただく場合がございます。予めご了承ください。

●利用時の注意事項

※「ご利用に際しての注意事項」を必ずご確認ください。

1. 就労（京都大学の用務）のためにベビーシッターによる在宅保育サービスを利用する場合に限ります。
2. 本学の勤務日以外に使用することはできません。週休日・祝日等に利用される場合は、当該日が勤務日である（週休日の振替等の手続きが完了している）ことが確認できる出勤簿の写し等の提出が必要です。
3. 利用者の家庭内での保育あるいは保育所等への送迎を依頼する場合に限ります（ベビーシッター宅等利用者の家庭以外での保育には利用できません）。
4. 両親のいずれかが、産前・産後休暇、育児休暇中は使用出来ません。

②ベビーシッター派遣事業（多胎児分）

●利用対象者

義務教育就学前の双生児等多胎児を持つ本学と雇用関係にある常勤教職員及び非常勤教職員（非常勤職員については文部科学省共済組合員に限る）

※配偶者が就労していない場合も対象となります。

●対象児童

義務教育就学前の児童

●割引金額及び利用上限枚数

割引金額：割引券1枚につき義務教育就学前の多胎児が2人の場合は9,000円、3人以上の場合は18,000円（ベビーシッター事業者の利用料金が1日（回）2,200円以上で利用可能）

利用上限枚数：1家庭につき1日1枚、1年2枚まで

※多胎児を含む義務教育就学前の児童が3人以上いる場合、同一家庭に身体障害者手帳の交付を受けている者がいる場合、ひとり親家庭の場合等は1年4枚まで利用可能です。

※上記の利用上限枚数に達しない場合でも、予算の状況等により発券枚数を制限させていただきます。予めご了承ください。

●利用時の注意事項

※「ご利用に際しての注意事項」を必ずご確認ください。

1. 利用者の家庭内での保育あるいは保育所等への送迎を依頼する場合に限ります（ベビーシッター宅等利用者の家庭以外での保育には利用できません）。
2. 保護者が休みの日であっても利用可能です（保育疲れの解消、リフレッシュのため）。

.

おむかえ保育

研究者・学生のために「おむかえ保育」を実施しています。

保護者に代わり、センターが委託している企業から派遣された保育者（シッター）が指定された場所へお子さんをおむかえに行き、男女共同参画推進センターで一時保育を行います。

●保育場所

京都大学男女共同参画推進センター保育室

●利用資格

京都大学に所属する学生、常勤の教員、研究員（週 30 時間以上勤務、日本学術振興会特別研究員を含む）、医員（週 31 時間以上勤務）、常勤の職員

●保育対象者

生後 2 カ月から小学 3 年生までの利用資格者の子ども

●おむかえ範囲

公共交通機関利用の場合は、片道 40 分以内の範囲（ただし、タクシーの利用を指定される場合は、その限りではありません）

●定員

子ども 5 人程度（兄弟姉妹、年齢構成により異なる場合があります）

●利用日

月曜日から金曜日

（国民の祝日に関する法律に定める休日、本学創立記念日（6 月 18 日）、8 月第 3 週の月曜日、火曜日及び水曜日（夏季一斉休業日）、12 月 29 日から翌年 1 月 3 日、及びその他の事情により京都大学男女共同参画推進センター長が開室しないと判断した日を除く。）

●利用時間

17:00 から 22:00

＊おむかえ保育予定日の午前 10 時半の時点で、京都市に暴風警報または特別警報が発令されている場合、またそれ以降新たに暴風警報、特別警報が発令された場合には、おむかえ保育はキャンセルさせていただきます。

（後に警報が解除されても、そのままキャンセルとなります。）

また、おむかえ保育中に警報が発令された場合には、すみやかにお子さんをお迎えに来てくださるようお願いいたします。

●利用料金

保育料金 1,100 円（税抜） / 30 分から 1,375 円（税抜） / 30 分（時間帯により異なる）

1.利用は 2 時間以上、30 分単位で受け付けます。

2.子ども 1 人についての料金です。

3.交通費・夕食等は別途実費が必要です。

4.状況により、その他利用手数料が必要です。

※詳細についてはおむかえ保育利用料金表をご覧ください。

開室
日時

2022年4月1日（金）から
月曜日～金曜日 午前8時～

場所

医学部附属病院 外来棟5階

料金

1時間500円（昼食込み）

※おやつは各自持参ください。

※保護者が学生の場合は、利用料金の半額を
大学が負担します。

事前診察は京大病院以外の病院で受けて
ください。救急外来や京大病院小児科で
は事前診察は受け付けません。

こもも 京大病後児保育室

利用
資格

京都大学の教職員および学生の子どもで、
生後6ヶ月から小学校6年生までの子ども
（以下の疾患と確定とされている場合のみ）

- 病後児（37.5℃以下に解熱後24時間以上経過）
- インフルエンザ（解熱後24時間経過後）●とびひ ●溶連菌感染症
- ヘルパンギーナ ●手足口病 ●中耳炎 ●発熱や上気道症状を伴わない胃腸炎
- ヒトメタニューモウイルス ●RS ウイルス
- マイコプラズマ感染症（迅速キットで確定診断を得られていれば可）

※診断のついていない発熱、感冒、上気道炎後の児はお断りしております。

くわしくは
コチラから！



利用方法など、詳細は男女共同参画推進センターのホームページで！
<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/care/sick>

病後児保育室

京大病後児保育室では、京都大学医学部附属病院と連携し、看護師・保育士が常駐し病後児の保育を行います。当施設は本来【病児保育室】としておりましたが、コロナ禍においては【病後児保育室】として開設しております。

7月1日より、病後児保育室の利用条件を一部変更いたしました。それに伴い、診察医連絡票も新しく変更となっております。

利用条件を緩和しておりますが、病名確定・未確定いずれであっても新型コロナウイルス検査は必須としております。

京都大学医学部附属病院と連携し、看護師・保育士が常駐する安心できる環境を提供します。京都大学男女共同参画推進センター病後児保育室「こもも」（以下、京大病後児保育室と呼びます）は、京都大学教職員・学生の子どもが、病後のため幼稚園・保育園・学校へ登園・登校できない時、親が仕事や研究を休むことなく、子どもの保育ができる環境を提供する施設です。京大病後児保育室では、京都大学医学部附属病院と連携し、看護師・保育士が常駐し病後児の保育を行います。

病後児保育室の概要

●設置場所

京都大学医学部附属病院 外来棟 5 階

※東玄関（東大路通沿い）から入ってすぐ右のあるエレベーターで 5 階です。

●対象者

京都大学の教職員および学生の子どもで、生後 6 ヶ月から小学校 6 年生までの子ども

病後児（37.5℃以下に解熱後 24 時間以上経過し、症状が軽快している
児）かつ、利用時まで新型コロナウイルス感染症が否定されている
（そのため、病名が確定・未確定いずれであっても新型コロナウイルス検査（抗原または
PCR 検査）は必須となります）
コロナ陽性の場合は、発症後 5 日経過し、かつ症状軽快 24 時間が経過している
（この場合の症状とは熱・咳・咽頭痛・くしゃみ・鼻汁などを指す。また通園・通学停止
期間中のお子様はお預かりすることができません）

●対象年齢

生後 6 ヶ月から小学校 6 年生

●定員

2 名

●開室日

月曜日から金曜日

(国民の祝日に関する法律に定める休日、大学の創立記念日、大学の定める夏季・冬季休業期間を除きます。また、京都大学男女共同参画推進センター長がやむを得ない事情により必要と認めたときは、臨時に休室することがあります。)

●保育時間

8 時 00 分から 17 時

●料金

子ども 1 人につき、1 時間あたり 500 円

※昼食提供あり

(アレルギーのあるお子様の場合は、食べたことのあるアレルギー食のお弁当をご持参ください。)

※おやつはご持参ください。

※保護者が学生の場合は、保育料金の半額を大学が負担します。

●利用方法

事前登録制 (無料)・予約制

利用希望者は前日(閉室日を除く)16 時 30 分までに「利用登録票」に下記いずれかの証明書を添えて登録ください。

職員証／学生証／共済組合員証／労働条件通知書

※上記のいずれもお持ちでない方は、事前に病児保育室にご相談ください。

利用予約は、前日(閉室日を除く)8 時 30 分から 16 時 30 分までに電話でご連絡ください。

※当日の予約は受け付けません。

利用の際には、事前にかかりつけ医等で「診察医連絡票」をもらう必要があります。

急病診療所や夜間救急では「診察医連絡票」の記載は行っておりませんのでご注意ください。

※京大病院の小児科外来での事前診察は受け付けません。

本室は、国立大学法人総合損害保険および国立大学附属病院損害賠償責任保険が適用されます。

「手洗い・うがい」について



子どもは大人に比べて風邪などにかかりやすく、高熱が出て、風邪の症状（鼻水、鼻づまり、くしゃみ、咳、のどの痛みなど）が長引きやすいです。

風邪は、ウイルスの付着した部分に触れ、その手で顔（目や口、鼻）に触れ体内にウイルスが入り込んでしまう接触感染、くしゃみなどによる飛沫感染で移るとされています。

風邪予防の基本は「手洗い・うがい」です

「手洗い・うがい」は、風邪の予防やウイルス・バイ菌対策に大切な習慣です。空気中には多くの菌が漂っており、普段の生活を送るだけでもウイルスは、口の中から体内へ侵入しようとしています。ウイルスやバイ菌が、粘膜から侵入する前に洗い流したり、のどの乾燥を防いだりすることで、感染・風邪予防ができます。

特に乳児は、いろいろなものに触れたがる時期です。触ったものを舐めたり、口に入れたりすることも珍しくありません。細菌だらけのものを口に入れてしまうと、病原菌に感染するおそれがあります。

感染・風邪対策のためにも、小さい頃から「手洗い・うがい」の習慣をつけるようにしましょう。

手洗いのタイミングは？

- ◎外から帰ってきたと ◎食事の前
- ◎動物や虫を触ったあと ◎トイレあと
- ◎くしゃみや咳をして手で押さえたあとや鼻をかんだあと



手のひらや手の甲はもちろん、指の間や爪の先など細かい部分も念入りに洗うことが大切😊

いつから「うがい」できるの？

「ぶくぶくうがい」は、口の中に水を入れ、左右に軽くゆらし、吐き出すことで、簡単に口の中を洗浄することができます。3歳では50%、4歳になると75%できると言われています。

「ガラガラうがい」は、のどの奥を洗浄するためには効果的です。上を向くため、幼児には難しいですが、3歳では25%、4歳で約50%、5歳で約75%できるようになります。

個人差はありますが、2歳、3歳頃から始め、お子さんの様子を見ながら進めていきましょう😊

「うがい」の教え方

「ぶくぶくうがい」を教える際は、まずお手本を見せます。ゆっくりと口の中に水を含み、吐き出すときに「ペー」と、声に出すとよいでしょう。これができるようになったら、口の中に含む時間を延ばしていき、頬を動かす練習をしましょう。

「ぶくぶくうがい」ができるようになったら「ガラガラうがい」に進みます。口に水を含んだまま、上を向く練習から始めましょう。このときに飲んでしまうようなら、「あー」と声を出してみるとよいでしょう。上を向けるようになったら、そのまま息を吐く練習をします。最初は弱いですが、徐々にガラガラという音がはっきり聞こえるようになるでしょう。

ワンポイント

〇水をこぼしてしまうのが気になるときは、お風呂場で練習する

〇習慣づけるためには、声掛けも大切！「〇〇ちゃんのぶくぶく見たいな」などやる気を引き出すような声掛けを

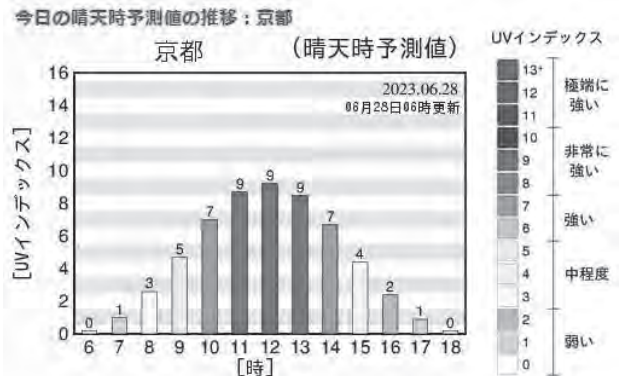
〇嫌がっているときは、ぬいぐるみや人形を使ったり、歌を歌ったり、うがい用コップを好きなキャラクターものにしたりする

ちょっとした楽しみがあるだけで、喜んでうがいをしてくれるようになるよ😊



紫外線対策について

子どもは、外遊びやプールなど戸外で過ごすことが多いので、日焼けには注意が必要です。日焼けは、日光の紫外線で起こります。昔は、紫外線を浴びることでビタミン D を生成し、骨の成長を促し、骨を丈夫にするとされてきました。しかし、近年紫外線を浴びると細胞の DNA が傷つき、免疫力が低下し、体力が落ちるといわれています。WHO(世界保健機構)では、18歳までの日焼けが将来の皮膚がんや目のダメージのリスクを高めるとして警告しています。紫外線は人体にさまざまな影響を与えるため、浴びすぎないようにすることが重要です。



紫外線対策のポイント

- ①外遊びは日差しの強い時間はさける
 - ・1日の中で 10～14時は紫外線が強いので外遊びは朝や夕方にしましょう！
 - ・野外では出来るだけ日陰があるところで遊ばせましょう！※日陰の紫外線量は日なたの約半分
- ②肌の露出をしないこと
 - ・つばの広い帽子をかぶせましょう！
 - ・衣類は、UV カット効果のあるものや肌の露出が少ないもの、目の詰まった布でできているものや紫外線を反射しやすい白か淡い色のものを着せましょう！
- ③日焼け止めを活用する
- ④ベビーカー用の日よけを活用したり、おくるみやタオル、日傘などを使って対策する
- ⑤室内でも日焼け防止対策をする
 - ・室内でも窓ガラスを通過して紫外線は入ってくるため、室内でも忘れずに日焼け対策をしましょう！（UV カット効果のあるカーテンやガラスフィルムを活用）

日焼け止めの選び方塗り方のポイント

日焼け止めは、赤ちゃんから使うことができます！

◎ベビー用・子ども用があり、低刺激性、ノンケミカル、アルコールフリー、無香料、無着色のものを選びましょう。

(合成界面活性剤、紫外線吸収剤、防腐剤、香料、着色料アルコール、合成ポリマー、窒素化合物、リン酸化合物)←これらの成分は、人体や環境に悪影響を及ぼします！

◎防御指数は、日常の生活では SPF15～20、PA++、海や山では SPF20～40、PA++～+++を目安にしましょう。

◎汗や水で落ちにくいウォータープルーフの製品であれば効果的です。

しっかりと紫外線を予防するためには、2～3 時間おきに塗り直しましょう。

◎赤ちゃんの顔に日焼け止めを塗るときは、適量を手にとって、手のひらで軽くなじませた後、顔の中心から外側に向かって伸ばし、目や口を避けて塗りましょう。体を塗る場合も、日焼け止めを手のひらでなじませてから、腕は、肩から手の甲へ、足は、太ももから足の甲へ両手を使ってまんべんなく塗るようにしましょう。耳の裏や首の後ろは、忘れがちな部分なので、気をつけましょう。

◎使用後はきちんと洗い落としておくことが大切です。ベビー用の日焼け止めは基本的に落としやすいものが多いので、お湯や石鹸で洗い流しましょう。

よくある質問について

Q.塗り薬や、虫よけと一緒に使うときはどうすればいいですか？

A.塗り薬→日焼け止め→虫よけの順で使いましょう。

Q.赤ちゃんが日焼け止めに舐めてしまった！どうしたらいいですか？

A. 日本中毒情報センターによれば、赤ちゃんがママの腕やデコルテを舐める程度ならば日焼け止めで中毒を起こすという心配はしなくていいとの事でした。

しかし、日焼け止めには紫外線吸収剤として”パラアミノ安息香酸系”、”サリチル酸系”という中毒性の強いものが含まれており、間違えて日焼け止めクリームやローションを大量に飲んでしまうと吐き気や嘔吐、腹痛を起こすという報告があるようです。クリームを少量舐めた、ローションを一口飲んでしまった程度なら経過観察をして赤ちゃんの状態を観察しましょう。心配であれば、中毒 110 番(大阪中毒110番 <24時間対応> 072-727-2499)に電話で相談しましょう。

Q.赤ちゃんが日焼けをしてしまった！どうしたらいいですか？

A.まずは患部を冷やし、炎症が鎮めたら肌が乾燥しないように保湿をしましょう。

日焼けした後は、しっかりと水分補給をしてあげるようにしましょう。

「水ぶくれ」ができてしまった場合は、医療機関での治療が必要です。





今日のコモッコ⑤～1歳と6歳の男の子～



10年に1度の大寒波。みなさんは、大きな雪だるまが作れたでしょうか？

「こもも」では、インフルエンザ後に利用するお友だちが増えてきました。よく寝て、よく遊びしっかり食べて、寒さやウイルスに負けない丈夫な身体づくりを心掛けましょう。

さて、この日は、男の子がふたり。それぞれ症状も年齢も違うので、念のためお部屋を別にしてお過ごしてもらいました。

1歳児さんはたくさんのおもちゃにワクワクが止まりません。いたずらBOXの鍵開けや絵カードをポストの入れるなど手先操作の遊びが楽しい時期のようです。歌の絵本に合わせて手遊びも披露くれました♪

お料理にもチャレンジ



アイスクリーム
食べちゃおう！



最近牛乳パックで作った
消防自動車完成！
気に入ってくれてうれしいな♪

いっぽう、6歳の男の子はポケモンが大好き。持ってきたモンスター達の名前をポケモン図鑑で調べたり、丁寧にぬり絵をしていました。また、ラキューでモンスターボールを作ると、並べたモンスターにボーリングのように転がし、スタッフと一緒に遊んでいました。



以前に来ていた小学生のお友だちが
作ったコマをお手本にして
モンスターボールの出来上がり…
お見事！

今日のこもっこ⑥ ～6歳と4歳の兄妹～



朝の空気も日ごとに、優しく感じられるようになってきました。

入学準備の年長さんはワクワク、ドキドキの毎日でしょうか？

この日の「こもっこ」もそんな年長の男の子。年少の妹ちゃんと来てくれました。

「ランドセル買ってもらった！体操服もある！」「机は…」等々、期待に胸膨らむ話題で盛り上がりました。

一方「妹こもっこ」は赤ちゃんの頃によく利用してくれていて、今回3年ぶりの来室でした。はにかむ様子もはじめだけ。お気に入りのぬいぐるみと一緒に買い物ごっこをしたり、お兄ちゃんとゲームやお米粘土をして楽しく遊びました。

仏像がマイフォーム！
持参した手作りの
仏像図鑑を見ながら
阿形像・吽形像を
描いてくれました



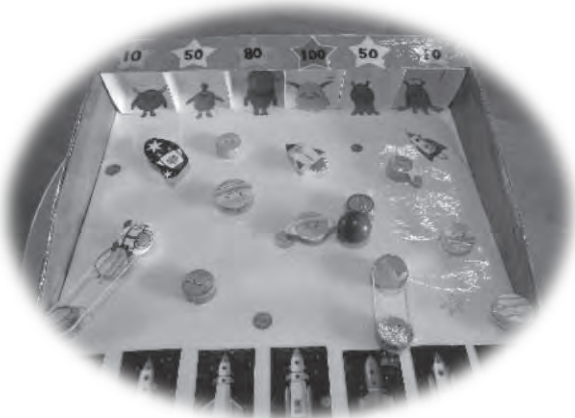
CAPRAで
大型トラックの出来上がり
カタカナも知ってるよ!!

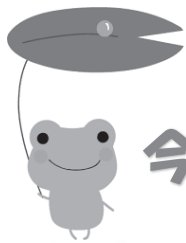


「アイスくださ〜い」
「カードをお願いします」
「はい、わかりました」
おかねのやり取りは難しいけれど、
カード払いができますよ！



スマートボールで遊びました。
3回転がして点数を合計します。
100点越えたら賞品をゲットできるよ





今日のこもっこ⑦ ～4歳の女の子～



早くも、梅雨入り。道路わきのアジサイたちも、大急ぎで色づいているようです。

この時季は、湿度が高く、気温差もあるため、体の免疫力が低下しがちです。いつもの手洗いうがいに加えて、たっぷりの休息と栄養をとるようにしましょう。

さて、この日の「こもっこ」は前日に4歳のお誕生日を迎えた女の子。

初めての保育室に少し緊張していたとのことですが、たくさんの魅力的なおもちゃで遊んでいるうちにニコニコ笑顔になりました。

冷凍庫の中は、
ぎっしり詰まった
冷凍食品が！！
ひとつひとつを
みてみよう



ママがお昼に
見に来てくれて
嬉しそう



おたんじょうび
おめでとう！



カメのぬいぐるみとラフンツェルが
大好きなこもっこでした
また、遊ぼうね！

今日のこももっこ⑧ ～1歳8か月の男の子



梅雨の晴れ間は真夏日並みに暑く、新陳代謝が活発な子どもたちは、すぐに汗びっしょりになりますね。こまめに汗を拭いたり、水分補給を心掛けましょう。お気に入りのタオルハンカチで自分で汗拭きをしたり、食事用とは別にままごとサイズのコップや乳酸菌飲料の空容器でお茶を提供するなど、少しやり方を変えるだけで積極的に応じてくれますよ。

さて、この日のこももっこは、1歳8か月の男の子。前日までは4歳のお姉ちゃんと一緒に来ていましたが、今日はひとりです。寝不足の上、通院してからの来室だったので午前睡をたっぷり取ってから遊ぶことにしました。

もしもし～♪



お姉ちゃんを真似て、
こもものおうちで
くつろいでいます

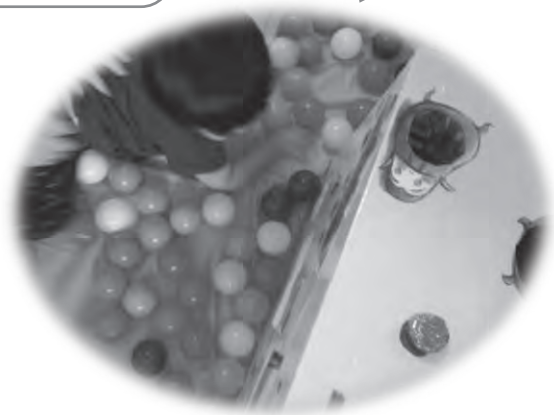
カラーボールのテント



少ししかないカラーボール
の上にスライディングして
楽しんでいました♪



ボールやカードを入れるたびにどこ
へ行くのか覗き込んで見ている姿が
とても可愛いこももっこです



新しく段ボールで「ポットン落とし」を作りました。カラーボールやペットボトルのキャップ、絵カードなどが入れられます。みんなに遊んでもらって、さらに趣向を凝らしバージョンアップをしていきます。お楽しみにね！

今日のコモッコ⑨ ～2歳1か月の男の子



残暑厳しくまだまだ汗ばむ日々が続いていますが、どのようにお過ごしでしょうか。

この夏、旅行やお祭りなどいろいろな体験を楽しんだお子さんたちにおいては一回り大きくなったように感じることでしょう。

さて、この日のコモッコは、2歳1か月の男の子。1日目、一旦下がっていた熱が夕方また上がってきたので、土日を含んで合計3日間「コモコ」で過ごすことになりました。眠気やだるさがすっかり取れた3日目は、いろいろなおもちゃに挑戦です。「これおもしろいなあ」と思うと何回も何回も繰り返し遊ぶコモッコでした。



おうちからもってきた
ペンギンのぬいぐるみと一緒に…
(お昼寝もいっしょだったよ♡)



保育室のバウンサーがお気に入り。
ゆらゆら、トントンしてもらってリラックス～

レバーを引いたりボタンを押したり…
少しずつ仕組みがわかってくると楽しいな。
ちいさなつまみを回すのは難しかったけど
何度も挑戦したよ



木のミニカーでも遊びました。上から走らせたり、穴に突っ込んだり2段目から走らせてみたいと、自分なりの工夫をされていて見ているスタッフも「そんな遊び方があったのか」と感心させられました!!

今日のコモッコ⑩～1歳2ヶ月の男の子～



さわやかな秋晴れが続き、いちよう並木の銀杏もたわわに実っています。一方、市内の感染症情報センターによると、乳幼児では咽頭結膜熱（アデノウィルス感染）小学生ではインフルエンザに罹るお友だちが増えているようです。秋は、楽しい行事がたくさん。健康に気をつけて十分楽しめることを願っています。

さて、この日のコモッコは1歳の男の子。室内の至る所で大好きなアンパンマンを見つけると「ああっ～！」という声と手さしで教えてくれます。そして、同じくらい大好きになったのが大きなパトカーでした。ボタンを押してパトライトがぴかぴか光る様子をみたり、自由に走らせたりして楽しんでいました。



屋根の上のボタンを押すと、サイレンの音やアナウンスが聞こえてきます。そのたびに一瞬、動きを止めて、じっと聞き入っていました。



カメさんも好きだよ。
ぎゅ～♡



これはどうやって遊ぶのかな？
さわってみよう。



アンパンマンのジュース…
出てきたところへ戻そうとする
可愛いコモッコちゃんです。

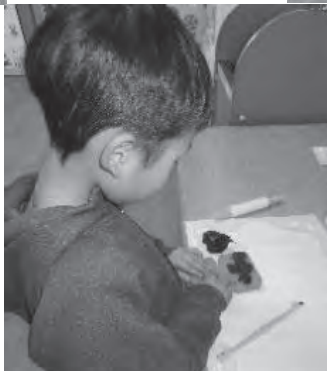
今日のこももっこ⑪～6歳の男子～

今年は例年にない暖冬な冬ですが、お変わりございませんか。
さて、この日は6歳の男子が利用されました。

「制作が好きだ。」「家でもいろいろ作るよ。」ということでお米が原料の安全で優しいお米粘土で楽しいものたくさん作りました。保育室で使用している粘土は、月齢が低い幼児さんには最適な米粉、塩分、水が原料の安心粘土です。乾きにくく、色を混ぜたりすることもできます。



なにを作ろう
かな～



恐竜かっこいいで賞



こもも図書コーナー



体調がすぐれない、お家の方とバイバイして
悲しい、久しぶり又は初めての保育室利用で
不安なお子様。でも、この図書コーナーで一瞬
にして笑顔になれる絵本たち！家でお母さま
やお父さまに読んでもらった本、保育園・幼稚園
で先生とお友達と読んだ本、絵本を通して
共通点が生まれます。年齢に関わらず絵本が
あると不思議と先生の膝の上に座って「これ
読んで～」またはお話がまだまだ上手ではな
い月齢のお子様も好きな絵本を手にとったり
読んでほしいと持ってきてくれたりします。
ここで新たに出会って気に入った絵本たちが
増えればいいなと思います。



こどもの花粉症について



花粉症は、スギやヒノキなど植物の花粉が原因で、アレルギー症状を起こす病気です。季節性アレルギー性鼻炎とも呼ばれています。日本人の4～5割がスギ花粉症にかかっているとされ、発症者は増えており、年々低年齢化しています。アレルギー性鼻炎ガイド(2021年版)によると、スギ花粉症をもっている子どもの割合は、0～4歳で3.8%、5～9歳で30.1%、10～19歳で49.5%です。



こどもの花粉症の特徴は？

- ・目のかゆみでこする為、目の充血やまぶたが腫れる
- ・大人のサラサラした鼻水と違って、粘りのある鼻水の場合がある
- ・鼻づまりで呼吸できないため、口をポカンと開けていたり、口呼吸になっている
- ・鼻を触る（鼻すすり・鼻こすり）為、鼻の穴の入り口赤く擦れる

※風邪とアレルギー性鼻炎を見極めが大切

こどもは大人よりも風邪をひきやすく、さまざまなウイルス感染を繰り返します。風邪もアレルギー性鼻炎と同じように鼻水やくしゃみが出ることも多々あり、集団生活をする中で、これらの症状を繰り返すのも、こどもの特徴です。

花粉症による日常生活への影響は？

- ・鼻水・鼻づまりにより寝付きが悪く、夜中に起きてしまうなど十分な睡眠が得られず日中に眠くなる
- ・目のかゆみ・鼻水等により、イライラしてしまう
- ・鼻づまりによって口呼吸が増えると、呼吸が浅くなり、集中力や判断力が低下する
- ・鼻の粘膜が過敏になり、気温差などの刺激に対してもアレルギー反応を起こしてしまうようになる

どのような治療がありますか？

花粉症の発症をおさえる（初期療法）

花粉の飛散前や、症状が極軽い時期から抗アレルギー剤を飲むことで症状が楽になります

花粉症の症状を和らげる

症状に応じて、抗ヒスタミン剤やステロイド剤の飲みくすりや点眼薬、点鼻薬を使用し、症状を和らげます

※根治が期待される舌下免疫療法

舌下免疫療法とは

アレルギー症状を引き起こす原因となるアレルゲンを、少しずつ体内に摂り入れながら、徐々にアレルギーが現れないように、慣らしていく治療法です。治療期間が、3～5 年で、治療を継続していくことで、アレルギー症状を緩和することができます。5 歳以上で、薬を舌の下に 1 分ほど置くことができれば治療が可能です。治療開始の時期については、スギ花粉は花粉の飛散が落ち着く 6 月～12 月に治療を始めます。



花粉症対策については？

- ・花粉の飛散状況を把握して行動しましょう
- ・花粉を避ける予防グッズ（マスク・メガネ・帽子・手袋・衣類等）などを活用しましょう
- ・こまめに室内掃除や外出後の手洗い・うがい・洗顔などで、花粉を家や身体の中に入れないようにしましょう（空気清浄機・加湿器の活用も）

マスクは効果あるの？

マスクは、花粉の飛散の多いときには吸い込む花粉をおよそ 3 分の 1 から 6 分の 1 に減らし、鼻の症状を少なくさせる効果が期待されています（H22 花粉症対策 厚生労働省）

鼻のケアについて

鼻の洗浄⇒鼻に入り込んだ花粉やホコリなどは、洗い流すのが効果的です。水道水は、塩素を含んでいて鼻の粘膜を傷つけてしまうので、市販の生理食塩水を利用しましょう！

鼻の粘膜の保護⇒繰り返し鼻をかむと鼻の粘膜が荒れてしまいます。荒れてしまったら白色ワセリンなどを塗って鼻の粘膜を保護しましょう。保湿ティッシュで鼻をかむことも有効です！

室内の加湿⇒鼻腔に炎症があると粘膜機能が低下するので、室内を加湿し、水分補給しましょう！空気が乾燥しているときはマスクが有効です！

目のケアについて

目の洗浄⇒花粉やホコリなどの異物は、洗い流すのが効果的です。目は表面が涙で守られており、水道水で目を洗うことで細胞を傷つけてしまうので、市販の人工涙液を利用しましょう！

目の疲労の回避⇒長時間にわたりテレビを見続けること目に負担をかけてしまいます。画面から離れて、意識的に目を休めましょう！

※規則的な生活を送って十分な睡眠とバランスのよい食事を心がけましょう

引用・参考：花粉ナビ、暮らしの種、厚生労働省花粉対策リーフレット、アレルギー学会、イシャチョコク、ウェザーニュース

Ⅱ 「魅力見える化」事業

魅力見える化専門部会

魅力見える化専門部会は女子中高生、保護者等に京都大学の魅力が伝わるコンテンツ・イベント等の企画・検討を担当して、次のような活動を行っています。

- ・ 大学院進学を促すイベント開催
- ・ 女子中学生の関心の低い分野等の魅力を伝えるコンテンツ作り、イベント開催
- ・ 車座フォーラム、女子高生応援大使の実施
- ・ 特色入試の活用（女性学生の受験の誘引や学部ニーズに応じた情報発信等）
- ・ オープンキャンパスに女子高校生が参加しやすい取組
- ・ 女子高校生の保護者や進路指導担当教師に働きかける機会の増加
- ・ 本学の女性教員や各界で活躍する京大出身の女性の紹介や、女性学生に対する企業等の採用ニーズの高まりに関する情報発信の強化

今年度の主な取り組みとしては、昨年に引き続き「女子中高生向け魅力見える化コンテンツ作成等支援事業」を行い、女子中高生に対して本学の研究の魅力を伝え研究分野への関心が高める9件の事業に対して、経費支援を実施しました。

京都大学を目指す女子中高生へのサポートとしては、「女子高生・車座フォーラム 2023（第18回）」をオンラインで開催し、全国から66名の参加を得ました。また、京都大学に在学する女性学生が出身高校を訪問して京都大学の紹介や交流を行う「女子高生応援大使」事業（総長支援団体である鼎会の支援による）も、全国の12の高等学校と協力して実施することができました。



女子高生

オンライン

車座フォーラム

2023

開催日時 **2023 12 / 3** SUN
9:30-12:30 8時50分から接続開始

希望される方には事前の指定日時にZoom接続テストを実施します。

募集定員

女子高校生100名程度／
保護者50名程度（先着順）

申込方法

男女共同参画推進センター
ホームページをご覧ください。

<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

申込期間

10.15 [SUN]-11.12 [SUN]

主催／京都大学男女共同参画推進センター 共催／京都大学教育推進・学生支援部入試企画課
協力／京都大学ここのえ会



お問合せ

MAIL w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

TEL 075-753-2437

車座フォーラム 2023

京都大学を目指す女子高校生の皆さんに。

「女子高生・車座フォーラム」は京都大学を目指す女子高校生の皆さんに、京都大学での学生・研究者の生活を少しでも知ってもらいたいという趣旨のもと、2007年から開催されています。「車座」とは大勢が輪になって座ること、フォーラムでは京都大学の学生と研究者、そして参加される女子高生のみなさんとが車の輪のように座って気軽に話がでるような場を提供しています。京都大学がどんなところなのか、学部をどうして選んだのか、大学ではどんな勉強や研究をするのか、大学卒業後の進路はどんなものがあるのかなど、さまざまなテーマについての疑問に現役京大生や研究者がお答えします。

プログラム

Program

当日の流れをチェック!

8:50 Zoom接続開始

9:30 フォーラム開会

●京大OGからのメッセージ

グループワーク「車座になって話そう」

●高校生 講師・京大生とのグループワーク
(前半は文系・理系等の大きなグループワーク、
後半は希望学部ごとのグループワークを予定しています。)

●保護者 京大生との交流

12:30 閉会

グループワーク

Group Work

前半

【文系グループ】

- 文学部 ●教育学部
- 法学部 ●経済学部
- 総合人間学部

【理系グループ】

- 理学部 ●医学部(医学科)
- 医学部(人間健康科学科)
- 薬学部 ●工学部
- 農学部

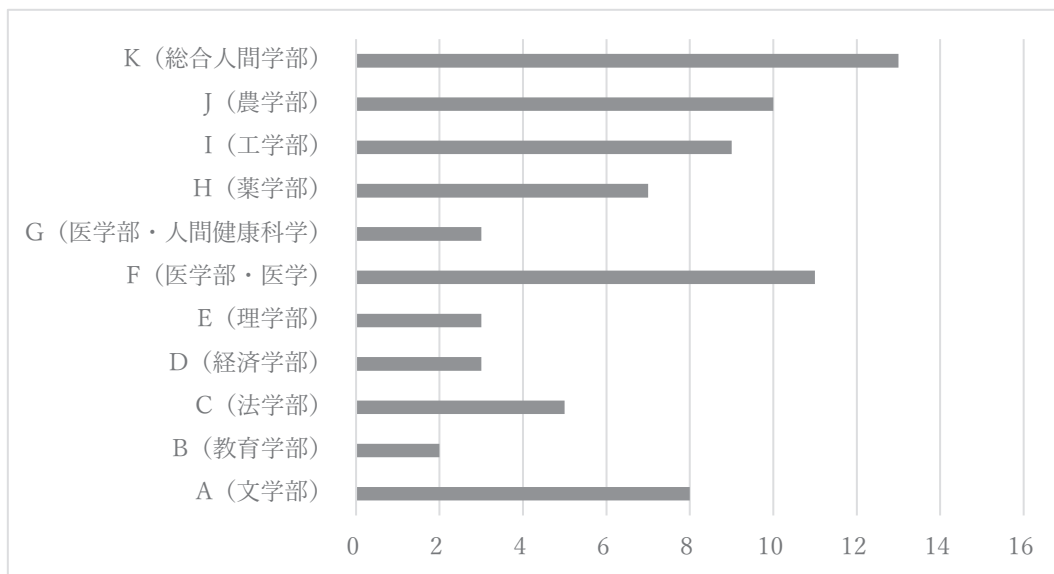
後半

- A 文学部
- B 教育学部
- C 法学部
- D 経済学部
- E 理学部
- F 医学部(医学科)
- G 医学部(人間健康科学科)
- H 薬学部
- I 工学部
- J 農学部
- K 総合人間学部

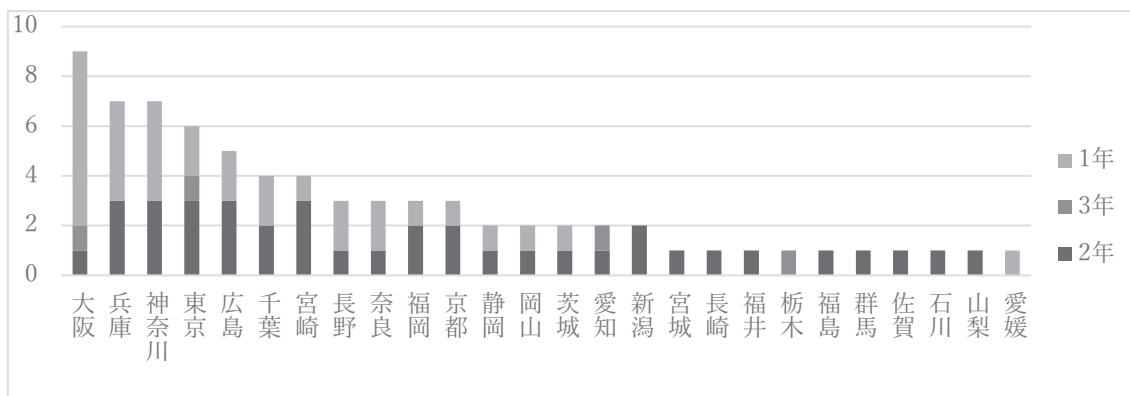
※グループ分けは未定。参加人数によって決定します。

女子高生・車座フォーラム 2023 参加状況

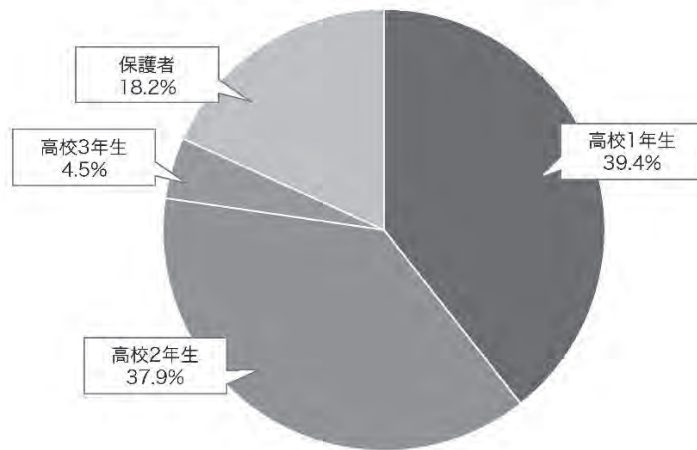
グループワーク別参加者



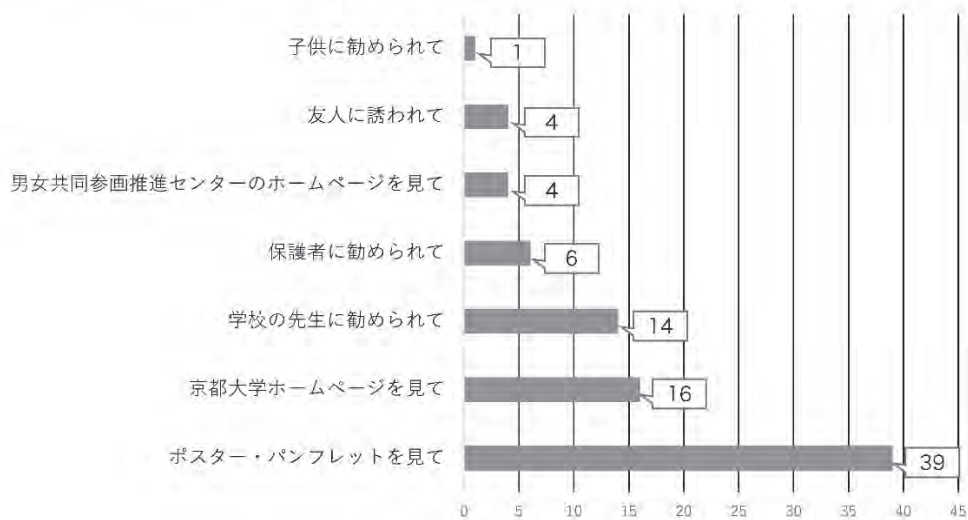
地域・学年別参加者数



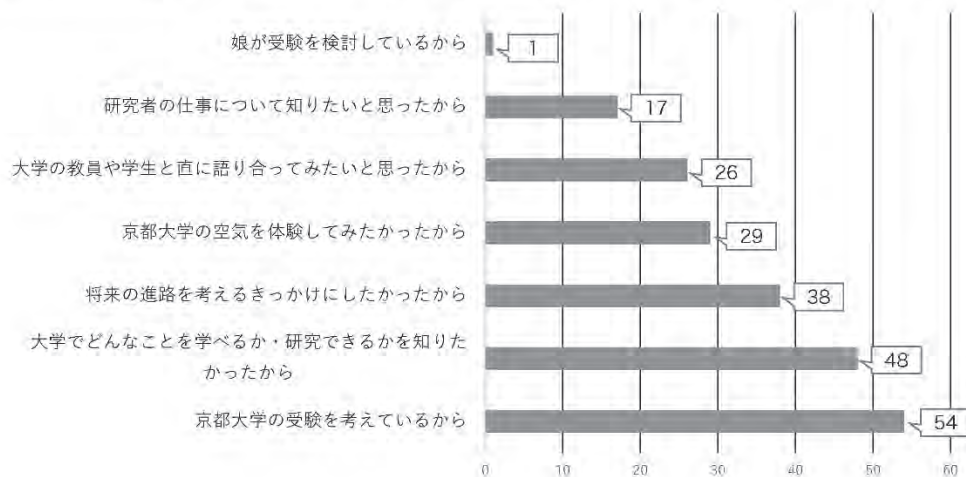
あなたの学年を教えてください



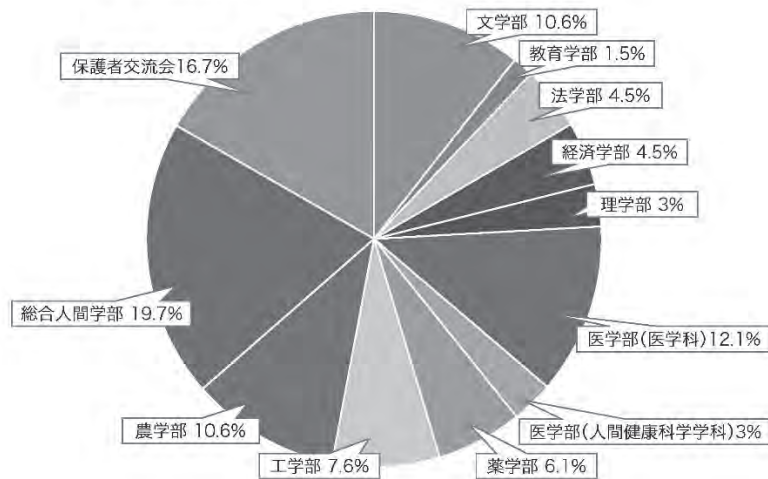
あなたはこの車座フォーラムを何でお知りになりましたか？（複数回答）



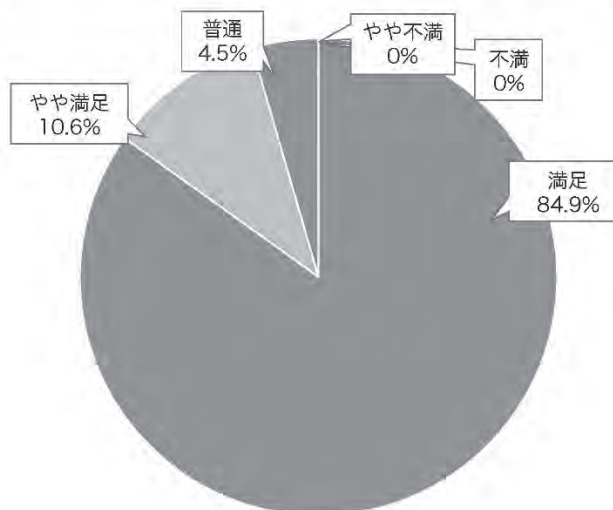
あなたがこの車座フォーラムに参加しようと思った動機は何ですか？（複数回答）



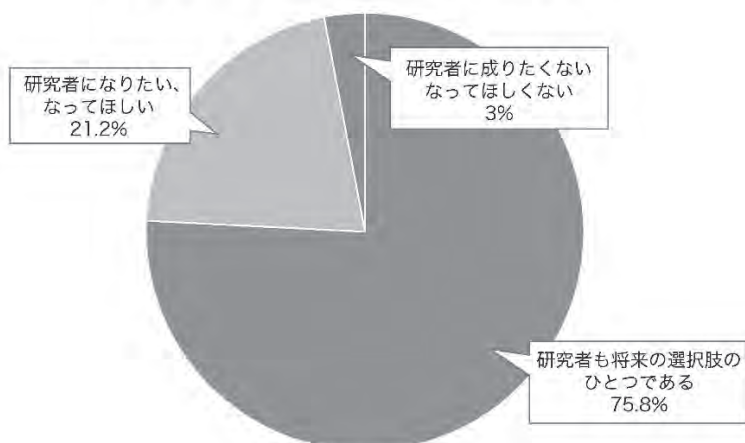
参加したグループを教えてください



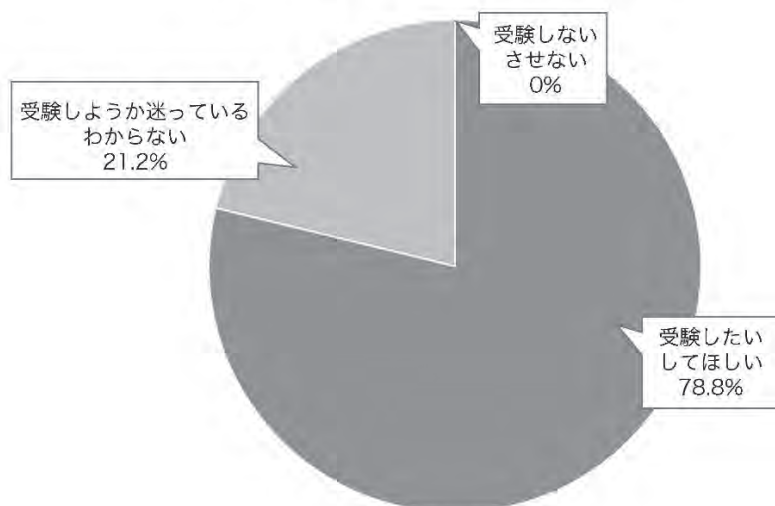
本日のフォーラムについて(グループワーク・保護者交流会)



研究者になりたいと思いましたか？



受験したいと思いましたが？



参加者アンケート

自由感想

- ・質問も丁寧に回答して頂きますますここで学びたいという気持ちが強まりました。貴重な機会ありがとうございました。
- ・とても楽しくて参加してよかったなと思いました。先生方や生徒さんのお話がとても具体的で、聞きやすかったしとても濃い時間となりました。ありがとうございました。
- ・質問できる時間が多く、京都大学の雰囲気や研究についてなどさまざまなことを教えていただいたので、入学したいという気持ちが強くなった。取るに足らないような質問でも、丁寧に答えていただきとてもありがたかった。フォーラムに参加する前はとても緊張していたが、参加してみるとリラックスして話を聞くことができとても楽しかった。後輩にもこのフォーラムをお勧めしたい。貴重な機会を設けていただき、ありがとうございます。
- ・少人数だったのでいろいろな質問が気軽にできてとてもよかった。
- ・質問がとてもしやすい雰囲気で学生の方や講師の方が具体的に質問に答えてくれてとてもよい機会でした。本日はありがとうございました。
- ・女子高生向け企画ということで、女性の先生方や京大生の方と気さくにお話ししやすかったので新鮮な時間だった。
- ・理系グループや学部ごとのグループワークでの質疑応答等で、ホームページには掲載されていない実際の様子が知ることができて、とても有意義な時間になりました
先生のお話や、実際に通っている学生の方、また同じ京都大学を目指す学生のやる気を感じて、いい刺激になりました！
- ・京都大学の教授の方々や学生の方々と話せてとても充実した時間を送れました！ありがとうございました！
- ・とても有意義で楽しい時間になりました。ありがとうございました。
- ・質問した際には丁寧に答えていただき、沢山の方の話を聞くことができ、貴重な経験となりました。本当にありがとうございました。
「女性特有のしんどさがどうしても人によってはあると思うのですが、それと付き合いながら勉学や仕事との両立をどうしているのか」について質問できなかったので知りたいです。
- ・大学生の方、院生の方、講師の方と様々な視点からお話を聞くことができ、大学進学後の進路について具体的にイメージができました。(特に、歳の近い大学生の方が、自分の進路についてきちんと考えを持ってはきはきと話されている姿にとてもしれました！)大学生活が楽しみになり、勉強のモチベーションになりそうです。ありがとうございました。
- ・貴重なお話を聞くことが出来、大変良い時間を過ごせました。本日はありがとうございました。
- ・たくさんのことを知れて楽しかったです！来年も開催してくれることを願ってます。
- ・今日は貴重な機会をありがとうございました。私の話を真摯に聞いていただき、大学での本格的な生活についても知ることができたので、今後の受験勉強にも身が入ります。特に学部ごとに分かれたトークルームがより有意義であったと考えています。先生も学生さんも話しやすく、オープンキャンパスよりも京都大学のことを近くの存在として知ることができました。今度は私が京都大学に入ってこのフォ

ーラムで話ができるようにこれからの受験勉強を頑張ります。

- ・少人数で話せたので、ききたいことをしっかりきくことができました。先生方や学生の皆さんも丁寧に回答していただき、京大でできることについて生の声を聞くことができ、とても貴重な経験になったと思います。京大を志望する気持ちが強くなりました。
- ・昨日は、工学部に参加させて頂きましたが途中で回線がきれてしまい、大変申し訳ございませんでした。グループワークの中で建築関係のお話を伺っていた途中できれてしまいました。建築学科に興味があるのでとても残念でしたが、少しでもお話を伺うことができ、良かったです。
- ・学部と学部を比べることができる時間と単体の学部について詳しく知ることができる時間それぞれがほどよく十分にあり、焦ることなくたくさん質問できたので、とても充実した時間になりました。また、講師の方々と大学生の方々それぞれの立場からのお話を聞かせていただき、また丁寧に答えてくださりありがとうございました。定期テスト直前でしたがこのフォーラムを受けて良かったです！
- ・沢山の情報を知れて、いい機会になりました！
- ・私と同じく、食品開発に興味がある人が多く、それに関する、学科選択や、大学院のことについてたくさん知ることができ、進路選択の上でためになった。参加してよかったと思う。また、勉強法についても色々聞くことができたので、これからの学習習慣に繋げていきたい。
- ・留学や就職についてなど、くわしく聞くことができとても良い機会になりました。ありがとうございました。
- ・貴重な機会をいただきありがとうございました！オンラインでのイベントは現地に行けない地方の高校生にとってはありがたいです。
- ・進路を考える良い機会になりました。ありがとうございました。
- ・自分の興味のある分野に合わせて向いている学系などを教えてもらい、より目標が明確になった。また、留学制度や転学部など、大学の制度について知らなかった点も説明してもらえたのでとてもよかった。
- ・実際に京都大学の講師の先生や学生の方からいろんなお話を伺うことができ、京都大学に対して更に関心がわきました。来年のオープンキャンパスや学園祭にも行ってみたいです。素敵なプログラムをありがとうございました。
- ・本日は貴重なお時間をありがとうございました。質問にも丁寧に答えていただき、有意義な時間を過ごすことができました。
- ・実際に京都大学の先生や学生の方とお話出来て楽しかったです。オンラインだと難しいと思うけどもう少し密接にお話したいなと思いました。
- ・楽しかったです。来年はオープンキャンパス行きます。
- ・学力が足りなくて、京都大学は難しいかもしれませんが、勉強を頑張って成績が上がったあかつきにはぜひ受験して言語教育を勉強したいと思います！
- ・大学卒業後は就職と決めているので研究職には就かないのですが、在学中は素敵な設備と先生に囲まれて研究活動を楽しむことが出来そうだと感じました。
漠然としていた大学生活についてのイメージを明確化でき、京都大学に入学したい気持ちがより高まりました。ありがとうございました。
- ・福岡出身の方がいらして同郷としてとても参考になりました。

- ・本日は、学生さんの率直なお話をお聞きできて大変有意義でした。ありがとうございます。ただ、実施時期について、冬休み等に開催していただけると子供が参加しやすいと思いました。12月上旬は、ちょうど、高校生の期末テスト直前のため参加しづらいように思います。
- ・受験から日常の生活や環境まで幅広くお話しいただき、親子ともども関心をさらに持つことができました。ありがとうございました。
- ・娘と楽しみにして参加しました。とても素晴らしい有意義な時間でした。たくさんの質問をさせていただきましたがどれも回答を下さりありがとうございました。今 学生生活を送っている方々と先生の生の声をたくさん聞くことが出来ました。今 高2です。来年夏はオープンキャンパスに参加します。本日はありがとうございました！
- ・長いかと思いましたが、学生さんの運営がとてもスムーズで、本当に良い時間を過ごさせていただきしました。ありがとうございました。
今日、いろんな学生さんの実際の状況や、今後の進路をお聞きして、今の進路と迷い始めました（他学部への興味）。また機会がありましたら、別の学部の方のお話が聞けたらと、また、もし可能なら今日のような交流会で途中でグループをチェンジし 2 学部ほど聞くことができたならありがたいなあと思いました。欲張りですが、、、。
- ・すてきな学生さんや教授の先生から、たくさんのお話を伺うことができ、とても有意義な時間でした。京都大学の雰囲気を感じることができ、入学を目指す娘の応援をしていきたいと改めて思いました。本日はありがとうございました。
- ・車座フォーラム開催ありがとうございました。地方ですのでオンライン開催とても有り難いです。何も分からずで何を聞きたいのかさえ分からない状態で申し込みましたが、他の参加者のご質問を聞きながら私も沸々と聞きたい事が沸いてきました。皆さんの丁寧なご回答にとっても満足しております。興味を持った色々な分野の勉強が出来るという事がとても印象的でした。また受験に対しての勉強法、早速娘に伝え頑張ってもらおうと思います。
- ・京大に尊敬の念で参加させていただきました。空気感が雰囲気あり、さすが！と言う思いが強いです。子供も参加していましたが、参加者が少数だったようで、自分の考えていることをたっぷり話せ、教授から京大が合っているねと言われたととても喜んでおりました。
ありがとうございました。是非2年後は主催者側に立てていることを願っています。
- ・哲学という一般的には情報を得にくい学問分野において、このような機会を最大限生かして伺いたかったのですが、ご専門の方がいらっしゃらないのが、少し残念でした…。
- ・とても素晴らしい時間でした。参加出来て良かったです。娘もグループワークで色々話せたと喜んでいました。これから受験まで頑張りたいと思います。学生さんや先生のお話をたくさん聞けました。ありがとうございました。来年夏のオープンキャンパスには必ず行きます。

そう遠くないむかし、
女子高生だったあなたに。

あなたの母校で
京都大学の魅力を伝える

女子高生 応援大使 事業のご案内

SHE ≡ YOU

そこにいるのは、あの頃のあなたです。

本事業は、多数の卒業生(女性)が本学に入学している高校について、「応援大使」として卒業生である本学の女子学生に母校訪問を行っていただき、座談会のような形で講演や話し合いの場を通じて、京都大学の魅力や大学生としての生活、学習方法等におけるアドバイスなどを直接後輩たちに伝えることで、母校の後輩が進路等について考える手助けをしていただきたいという趣旨により、実施するものです。

女子高生応援大使のご案内

募集

- ・女子高生応援大使事業を希望する高校を募集
→あなたの母校が、是非あなたに母校訪問)をしていただきたいと、本事業に応募してきました！

協力

- ・あの頃のあなたのように、進路を考える後輩に少しの手助けをしてみませんか。
良かったこと、楽しいこと、勉強のこと。京都大学の魅力をあなたの言葉で、母校の後輩に伝えてください。

Web訪問

- ・令和5年8月～令和6年2月の間に実施していただきます。皆さんと高校側との話し合いにより実施日を確定してください。

実施方法

- ・ご自身の体験(本学入学後の学習環境や学生生活、受験時のこと等)を、素直な言葉で後輩に伝えてください。
- ・座談会(2時間程度)のような形にて講演の実施を想定していますが、内容に関しては皆さんと高校側との話し合いにより決定していただきます。

サポート

- ・謝金として3万6900円(税込)をお支払いする予定です。
- ・本事業については、応援大使として訪問いただく皆さんご自身の体験を、皆さんの主体性に基づいた素直な言葉で後輩に伝えていただきたいと考えています。

申込方法

お申し込みは、メールで受け付けます。

E-mail: hsgca@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

件名を「女子高生応援大使」とし、以下の5点を記載のうえで、上記メールアドレス宛に送信してください。

- ①氏名(ふりがな) ②学部・学科 ③学年 ④出身高校
- ⑤全学メールアドレス(@st.kyoto-u.ac.jpの形式のアドレス)

京都大学「女子高生応援大使」事務局
(男女共同参画推進センター内)

TEL:075-753-2437

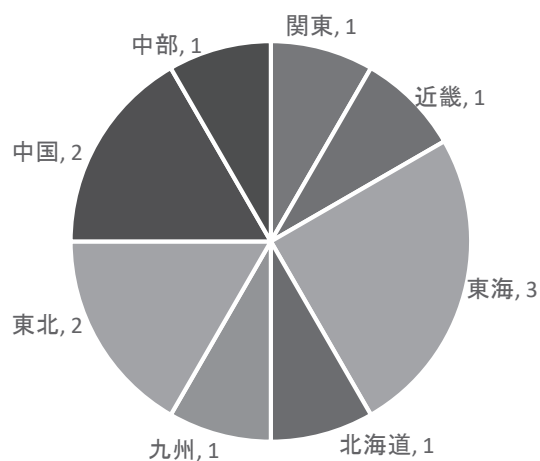
令和5年度 女子高生応援大使事業実施状況

- ・応募校数: 12校
- ・うち事業実施校数: 12校

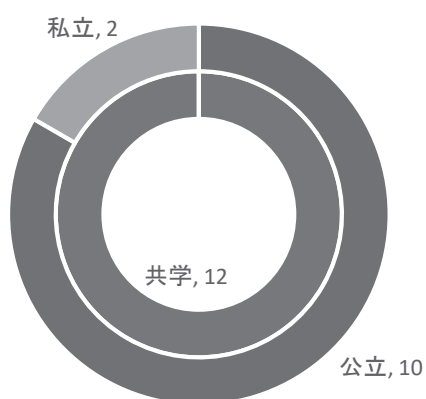
1. 応募校数集計

応募のあった 12校について集計

① 地域別応募校数



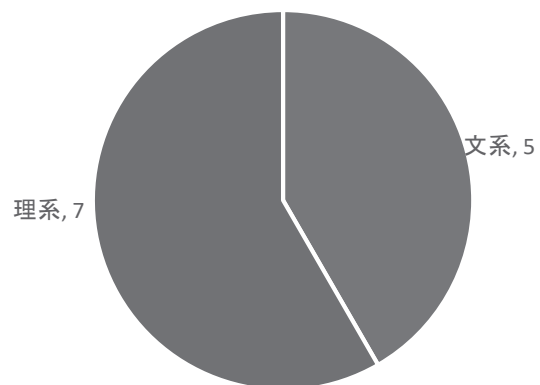
② 応募校のうち公立／私立
共学／女子校内訳



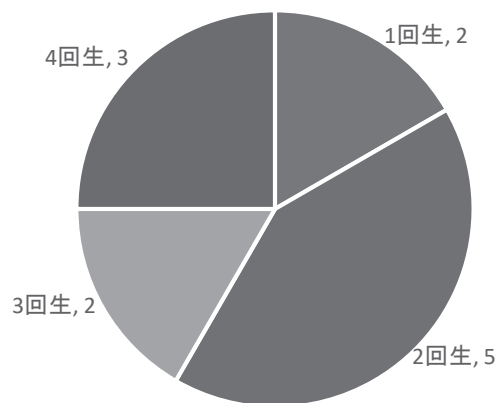
2. 訪問学生集計

実際に訪問した 12校、12名について集計

③訪問学生 文系／理系内訳



④訪問学生 学年内訳



令和5年度女子高生応援大使 【報告】

① 訪問時に高校生に対して話したこと

- ・大学の紹介
- ・京大での学生生活
- ・受験生時代の学生生活
- ・大学の特徴や、学部、学科での学習内容
- ・高校時代の勉強方法
- ・下宿生活
- ・受験期の年間学習スケジュール
- ・受験期に気をつけていたこと
- ・大学進学のかっかけ
- ・1日のスケジュール
- ・一人暮らしの実情
- ・京大の魅力
- ・就活について
- ・京都での暮らし
- ・京大の男女共同参画事業について
- ・京大の特殊な点、いいところなど

② 実施したうえでの感想

・前期の大学生活を踏まえて大学の紹介をしたり、自分の高校生活を踏まえて学習のアドバイスをしました。皆さんが熱心にメモをしながら聞いて下さり、私が一通り話し終わった後に設けられた質問の時間に、生徒の方から様々な質問をいただき、うれしかったです。少しでも進路選択の参考になれば幸いです。

・参加者のうち、多くが志望校をざっくりしか決めていないということで、今回は私が志望大学を決めた基準についてなどを中心に話しました。生徒からの質問では、模試の直しのやり方などといった勉強方法や、アルバイトといった大学生活についてなどが出てきました。受験や大学生活への関心の高さを感じました。

・どなたも熱心に話を聞いてくれてうれしく思いました。質疑応答の時間でもたくさんの質問が挙がり、大学に興味を持ってくださっていることが伝わりました。また、大学で質問をしたいという気持ち強い人が多く、そのような生徒の方々と対話することで私自身も良い刺激を受け、残りの学生生活を大切に過ごそうという気持ちが強まりました。

・参加者の皆さんはとても真剣に話を聞いてくださり、講演終了後も個人的にたくさんの質問をしてくださったので意欲が伝わってきてとても嬉しかったです。中には直接「とても参考になりました、ありがとうございました」と言ってくださった生徒さんも

いて、行った甲斐がありました。質問の中には留学や教員免許に関するものもあり、自分の体験していないことについても先に下調べしておくべきだったと思いました。

・希望者が参加しており、皆さんメモ等取りながら熱心に講演を聞いていた。対面実施であったため、講演後に個別で質問したい生徒さんにじっくり対応することができた。一方で、参加者の学年によって話すべき内容は変わってくるが、今回の参加者は 1~3 学年とバラバラであったため、全学年にとって役立つ講演になるよう構成を考えるのが少し難しかったように感じた。

・高校 3 年生は受験に関心が高く、高校 1、2 年生は大学の内容に特に関心が強かった様に思えた。座談会が終わった後に質問に来てくれた子が意外と多くて、三年生だとこの時期に何の勉強をしたらいいか聞かれた。さらに、発表の内容から、研究についての詳細を聞きに来てくれた 1 年生もいて、関心の高さに驚いた。

・今回の講演には男子生徒や地方大学志望者も参加していたため、京都大学に関する内容だけでなく、具体的な大学生活や一人暮らしのリアルな姿にも多めに触れてみたが、どの生徒も真剣に話を聞いてくれてあっという間に時間が過ぎていた。全体の質疑応答の時間では質問が途切れることがなく、講演会終了後にも個人的に質問や相談をしにくる生徒が非常に多くて、とても有意義な活動だったと思った。

・皆さんメモを取る等しながら熱心に聞いてくれました。会が終わった後も個別で質問しにきてくれて、勉強や大学入学に対するモチベーションが上がっているようでした。高校時代の勉強方法だけでなく、大学で何をやっているかなど今の生活についても詳細に話すことができて、充実した会だったと思います。

・今回は、特に受験の話に関して、精神論ではなく具体的実践について話すように心がけました。学部学科紹介でも、具体的な友人の研究をなるべく分かりやすく伝えました。会の途中途中で笑いが起こるなど、終始和やかな雰囲気でした。質疑応答では積極的に手が挙がり、更に会の後にも残って質問してくれた生徒さんが沢山いらっしゃったことが嬉しかったです。自分の経験が少しでも役立ったら良いと思います。

・考査期間中の開催だったのにも関わらず、熱心に話を聞いてくれて、講演中も 2 名ほど質問を頂き、講演後にも 6 名ほど質問に来てくれました。とても嬉しかったです。対面実施だったため、お世話になった先生と話したり、参加者の大学入試に向けた情熱を身近で感じたりすることができました。また、私自身にとっても高校生活と今までの大学生活を振り返るいい機会になりました。

・今回は、京都大学や農学部に興味のある高校生 8 人に参加していただきました。参加者からは予想よりたくさんの質問をいただき、受験や京都での生活に対する興味、そして忙しい高校生活を送りながらも大学への入学を目指すエネルギーが感じられました。終始なごやかな雰囲気、私にとっても楽しい時間でした。

・スライドを用意して体育館でお話をさせていただいたのですが、真剣に聞いて領いて

く

れたことが印象的でした。講演後の座談会では、私の受験の詳細を熱心に聞いて参考にしようとしてくださる方や、大学生活に興味を持ってくださる方など、多様で率直な質問をしてくれたので、自然と様々な話をさせていただくことが出来ました。高校生の素直でまっすぐなパワーにいい影響をもらうことが出来ました。



令和 5 年度男女共同参画推進事業
女子中高生向け魅力見える化コンテンツ作成等支援事業募集要項

1. 趣旨

本学では多種多様な研究分野において、世界トップレベルの研究をはじめ、独創的かつ先進的な研究活動が行われていますが、京都大学における研究の魅力が女子中高生に対して十分に伝わっていないのが現状です。

この状況を改善するため、本学の研究分野への関心が高まるような魅力見える化の取組として、部局が作成する女子中高生向けコンテンツ又は部局が実施する女子中高生向けイベントに関する必要な経費の一部又は全額を支援する事業を実施します。

2. 支援対象

- ・部局が実施する、本学の研究分野などの魅力を伝える Web サイト、パンフレット、動画等のコンテンツ作り、又は講演会、シンポジウム、科学教室、オープンラボ、サイエンスカフェ等のイベント
- ・令和 5 年度内に作成、実施が完了する上記コンテンツ、イベント等（申請時に令和 5 年度内に作成、実施が完了しているものも含む。）

3. 採択例（令和 4 年度採択事業）

別紙「令和 4 年度女子中高生向け魅力見える化コンテンツ作成等支援事業採択結果一覧」を参照。

4. 助成額（令和 5 年度予算額）

コンテンツ：1 件につき上限 60 万円×10 件程度

イベント：1 件につき上限 40 万円×10 件程度

助成額を超えた経費は部局で負担するという条件で申請願います。事業の規模は問いません。

5. 申請方法

別紙申請書に必要事項を記入し、申請書下欄【必要書類】に定める書類を添えて、申請期限までにメールにて以下まで提出してください。

- ・申請期限： 令和 5 年 9 月 29 日（金）（必着）
- ・提出先： 人事部職員育成課ダイバーシティ推進掛
TEL:075-753-2059（内線:16-2059）
E-mail: g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

6. 申請の際の留意点

- ・部局が実施する事業に支援を行う趣旨から、申請に当っては部局の承認が必要です。
- ・部局内の専攻等の単位での企画も可能ですが、申請は部局から行ってください。
- ・複数部局共同での企画も可能ですが、主となる部局を決めて、申請はその部局から行ってください。

- ・申請は、部局事務を通じて行ってください。

7. 支援決定

- ・選考は男女共同参画推進センター魅力見える化専門部会が行います。
- ・選考に際しては、コンテンツまたはイベントの内容、それによって期待する効果などを考慮するとともに、本学への進学を希望する女子中高生の増加に資するような実効性のあるものを優先します。
- ・選考結果は令和5年10月下旬から11月初旬頃に、所属部局事務を通じてメールにて通知します。

8. 実績報告等

- ・別紙実績報告書に必要事項を記載し、令和6年4月19日（金）までに提出してください。
- ・助成額の配分は、作成及び実施経費確定後、費用の付替で処理します。採択後に経理処理の詳細をお知らせしますので、各部局において手続きを行ってください。

9. 問合せ先

コンテンツ作成、イベント実施の企画にあたってご不明な点、ご相談などありましたら、以下までお問い合わせください。

人事部職員育成課ダイバーシティ推進掛

TEL:075-753-2059（内線:16-2059）

E-mail: g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

令和5年度女子中高生向け魅力見える化コンテンツ作成等支援事業 採択結果一覧

令和4年度より、本学の研究分野への関心が高まるような魅力見える化の取組の一環として、部局が作成又は実施する、女子中高生向けコンテンツ又はイベントに対して、必要な経費の一部又は全額を支援する事業を開始しました。
選定の結果、令和5年度は7件のコンテンツ作成、2件のイベント実施の計9件の事業への支援を決定しました。

実施部局	支援対象事業
経済学研究科	<コンテンツ> Webサイトの改修 女子高生向けに、「卒業生が経済学部で学んだことを、どう活かし、就職先でどのように活躍しているのか」等の魅力を発信するコンテンツを作成する等し、それに併せて研究科Webサイトが見やすくなるよう改修する。
理学研究科	<コンテンツ> コンテンツ制作 物理学・宇宙物理学専攻に新たに発足した「物理学先端教育研究センター(CREPE)」では、女性教員の積極的な登用も目指しており、女性教員や若手教員の姿を動画などで広報するためのコンテンツを作成しホームページに掲載することで、女子中高生にも魅力ある専攻としてアピールする。
理学研究科	<コンテンツ> 動画作成 女子中高生向けに、理学部・理学研究科の情報を理学部・理学研究科WEBサイトで発信する。特に、理学部・理学研究科の卒業後の進路について、就職などの現状について、より正しいものが社会に伝えられるようにする。また、京都大学男女共同参画推進センターに掲載されている京都大学全体の男女共同参画推進に関する取り組みのページへリンクを行う。 また、理学部・理学研究科の現役の女子学生からなる理学女子会にも意見を聞いたり、また、場合によっては、インタビューアーとして学生や卒業生(大学院生、アカデミア、中高教員、企業など)へのインタビューを実施する。 動画については、理学部が1学科制であること、3回生で系登録をすること、自主ゼミが盛んであることなどを含めたものを作成し、理学部の仕組みがわかるようにする。
医学研究科	<コンテンツ> 冊子作成 メディカルイノベーション卓越大学院プログラム(MIP)でKUMBLが手掛けている人材育成講座である【実践型】未来を創造する人材育成講座(https://www.mip.med.kyoto-u.ac.jp/curriculum/mirai-jinzai2022/)のエッセンスを書籍化することを目指し、今夏、補助教材として「こぐま座のしっぽ」を作成した。この教材をベースにした「博士のキャリアパス」と題した高校生向けの書籍の作成を進めている。 この書籍には、医学研究科において博士過程に進学し、その後、研究者の道を進んでいる複数の女性の方々のそれぞれのキャリアパスについて、結婚観や育児経験、人生における都度の岐路や決断の軸となった瞬間について京都大学の工学部の学生が中心となって丁寧にインタビューを重ねて作成していくエッセイを一つの冊子として纏める予定である。
情報学研究科	<コンテンツ> 動画作成 中高生向けに情報学研究科の研究の魅力を伝える動画を作成し、研究科の公開講座、研究科Webサイト及び本学の公式YouTube・Instagramで公開する。また、SNSで効果的にPRできるよう、ショートver.の動画も作成する。
防災研究所	<コンテンツ> Webコンテンツの構築 防災研究を目指す女子中高生を主な対象として、防災研の多様性について紹介するウェブコンテンツを構築する。教員の紹介、リケジョ、ドボジョ、山ガールの研究日記(漫画)を掲載するとともに、多様性を示す統計情報や、相談窓口等のサポート体制や男女共同参画の取り組みについても示す。
高等研究院	<コンテンツ> 冊子の作成 高等研究院ヒト生物学高等研究拠点(ASHBi)での研究活動やキャリア形成を漫画や図などを用いた冊子で女子中高生向けに紹介する。冊子はASHBiの公式サイトなどでデジタル配布するほか、対面イベントでの配布も行う。具体的には①これまでASHBiの学生広報チームが行ってきたインタビューに基づいて、女性博士学生の研究内容や研究生活を漫画で紹介する。また、ASHBiでの研究内容に興味がありそうな学生のために、②ASHBiでの研究室選びを視覚的に見えるフローチャートや研究室紹介の作成を行う。加えて③女性教員の経歴や現在の生活スケジュールなどを図で紹介することで大学院での研究後のキャリアプランを示す。将来的には、アカデミア出身の女性職員へのインタビューや親しみやすい紹介動画の作成も行いたい。
理学研究科	<イベント> 3つのイベント開催 理学部においては、(1)特定の高校生に対して年間を通じて交流するイベント(COCOUS-R(ここ 明日 あーる))、(2)広い範囲の女子高校生を対象としたイベント「女子高生のための理学部案内」、(3)関東の7女子校を対象とした「関東SSH指定女子高校等研究交流会の受入」の3つのイベントを実施する。 (1)COCOUS-Rでは、京都大学理学部に興味関心がある21校からの46名の女子高校生による探究活動の支援を実施する。各校ごとに探究テーマを定め、探究活動を、京都大学理学部生・大学院生(大学側は性別は問わない)とともに、実施している。月2回Zoomで探究活動についての打ち合わせを行うほか、slackを用いて、常時、交流を行っている。また、8月8日～9日には、理学研究科セミナーハウスで中間発表会を行った。 (2)「女子高生のための理学部案内」は、2023年8月27日(日)に、理学研究科セミナーハウスで実施した。7名の京都大学理学部・理学研究科ゆかりの女性研究者が講演を行った。開催までの準備及び当日の運営を、女性学生を主体に企画立案させ、当日は女性学生が相談員となって、女子高生との交流を深めた。実質人数は64名で、午前の部41人、午後の部36人の参加があった。 同様の講演会を2024年2月にも実施の予定である。 (3)関東SSH指定7女子高校等研究交流会の受入を2023年7月24日(月)～26日(水)に理学研究科と生命科学研究所附属放射線生物研究センターが共催して実施した。36名の女子高校生が来学し、実習を行った。
工学研究科	<イベント> 科学教室の開催 理系の広い学術領域にわたる分野の教員が、関西科学塾が募集した女子中学高校生に対して各研究室などでそれぞれの科学教室を開催する。教員の所属する部局は工学研究科(2名)をはじめとして、理学研究科、農学研究科、人間・環境学研究科、生命科学研究所など多岐に渡る。

Ⅲ 「教育・研究」事業

教育・研究専門部会

教育・研究専門部会はジェンダード・イノベーションズに関する授業科目の設置及び運営、並びに研究プロジェクトの企画・検討を担当して、次のような活動を行っています。

- ・ ジェンダード・イノベーションズ等に関わるプロジェクト支援事業の創設
- ・ 女子学生を中心とした研究プロジェクト支援事業の創設
- ・ ジェンダー平等やジェンダード・イノベーションズ等を扱う授業科目の拡充

今年度の主な取り組みとしては、女性学生がリーダーシップやイニシアティブを発揮できる環境づくりを目指す取り組みである「女子学生チャレンジプロジェクト」を実施し、55 件の応募の中から採択された 6 チームがすぐれた活動を行い、3 月には、そのユニークな課題設定とその解決に向けたチャレンジングな取組の成果発表会を実施しました。

ILAS セミナーにおいては「ジェンダーと文学」をテーマにした講義・ディスカッションと個人発表を行い活発な意見交換を実施、また、全学共通科目「ジェンダー論」では、ガールスカウト日本連盟や弁護士そして他大学からの講師の協力を得て魅力ある授業を開設し、これらの講義を公開動画としてセンター HP にて公開しました。

提供講義

■ILAS セミナー「ジェンダーと文学」

2023 年度の ILAS セミナーは対面での授業で行いました。

この授業では文学や映画など、言葉を用いたエンターテインメント作品を取り上げ、そこでジェンダーやセクシュアリティをめぐる問題がどのように表現されているかを見ていきました。授業の前半では、担当講師がいくつかの作品を選んで講義し、それをもとに学生と講師がディスカッションを行いました。授業の後半では、学生に自分の好きな作品を選んで発表してもらい、それをもとに学生と講師がディスカッションを行いました。日本の昔話や軍記物語、現代短歌やポップソング、『花より男子』などの漫画作品、「サザエさん」やジブリ映画などのアニメ作品、『おっさんずラブ』などの TV ドラマといった多岐にわたる対象を扱った意欲的な発表が並びました。

講師：川島 隆 （文学研究科 准教授）

回	講義日	テーマ
1	4 月 11 日	ガイダンス
2	4 月 18 日	聖書、ホメロス、LGBT 問題
3	4 月 25 日	グリム童話および関連する映画作品
4	5 月 2 日	アンデルセン童話および関連する映画作品
5	5 月 9 日	シュピーリ 『ハイジ』
6	5 月 18 日	ケストナー 『飛ぶ教室』
7	5 月 23 日	【個人発表 2 名】 学生による発表
8	5 月 30 日	【個人発表 2 名】 学生による発表
9	6 月 6 日	【個人発表 2 名】 学生による発表
10	6 月 13 日	【個人発表 2 名】 学生による発表
11	6 月 20 日	【個人発表 2 名】 学生による発表
12	6 月 27 日	【個人発表 2 名】 学生による発表
13	7 月 4 日	【個人発表 2 名】 学生による発表
14	7 月 11 日	【個人発表 2 名】 学生による発表
15	7 月 25 日	授業のまとめ

火曜日 5 限（16 時 45 分～18 時 15 分）



■全学共通科目「ジェンダー論」

2023年度の全学共通科目「ジェンダー論」はオンラインにて行いました。

現代日本のジェンダーを広い視野に位置付けて理解し、問題解決の方法について自ら考える力を養いました。今年度は特に「法」を中心的テーマにして適宜ゲストスピーカーをお招きし、さまざまな研究分野においてジェンダーが開くパースペクティブ、日本および世界の他の地域のジェンダーの状況や課題について講義いただきました。

全学共通科目（後期）「ジェンダー論」 講師・テーマ一覧			
回	講義日	講師氏名	テーマ
1	10月3日	辰巳 真穂・梅井 真歩 ガールスカウト日本連盟	18歳から25歳の女性の本音とは？ジェンダーに関する調査結果の報告
2	10月10日	山内 淳 生態学研究センター	性の進化：理論生態学の観点から
3	10月17日	藤井 真 池坊短期大学	古今のいけばなにおけるジェンダー観
4	10月24日	丸山 里美 文学研究科	女性の貧困
5	10月31日	川島 隆 文学研究科	文学から見たジェンダー
6	11月7日	落合 恵美子 京都産業大学	ケアペナルティをケアプレミアムに：子どもを「負の遺産」にしないためのソーシャルイノベーション
7	11月14日	柴田 悠 人間・環境学研究科	「父親育児」と「保育」の効果 — 「母親の幸福感低下」や「不利の親子間連鎖」を減らせるか？
8	11月21日	水島 郁子 大阪大学	仕事と育児・介護の両立支援
9	11月28日	大浦 綾子 弁護士 野口&パートナーズ法律事務所	ハラスメント
10	12月5日	島岡 まな 大阪大学	特権・アンコンシャスバイアス・エクイティ
11	12月12日	高山 佳奈子 法学研究科	性刑法をめぐる諸問題
12	12月19日	吉田 万里子 国際高等教育院	労働法とジェンダー — 欧州・ドイツ法との国際比較 —
13	1月9日	南野 佳代 京都女子大学	法とジェンダー
14	1月16日	鈴木 七海・高島菜芭 ジェネシス共同代表	性的同意の取り方

火曜日3限（13時15分～14時45分）

■全学共通科目「ジェンダー論」講義動画公開

2023 年度全学共通科目「ジェンダー論」の講義のうち、プライバシー・著作権等の問題の無い 8 回の録画を公開動画として編集し、センターHP にて公開を予定しています。

-
- ・辰巳 真穂 梅井 真歩 ガールスカウト日本連盟

18 歳から 25 歳の女性の本音とは？ジェンダーに関する調査結果の報告

-
- ・川島 隆 京都大学文学研究科 准教授

文学から見たジェンダー

-
- ・落合 恵美子 京都産業大学 教授

ケアペナルティをケアプレミアムに：子どもを「負の遺産」にしないためのソーシャルイノベーション

-
- ・大浦 綾子 弁護士 野口&パートナーズ法律事務所

ハラスメント

-
- ・島岡 まな 大阪大学 教授

特権・アンコンシャスバイアス・エクイティ

-
- ・高山 佳奈子 京都大学法学研究科 教授

性刑法をめぐる諸問題

-
- ・吉田 万里子 国際高等教育院 教授

労働法とジェンダー ―欧州・ドイツ法との国際比較―

-
- ・南野 佳代 京都女子大学 教授

法とジェンダー

その気づきを未来へ。

京都大学男女共同参画推進事業

女子学生 チャレンジ プロジェクト

女子学生が、自ら好奇心や探求心を持ち、研究の面白さに気づき、
新しい課題にチャレンジする活動に奨学金を支給します。

公募時期 2023年 5/15(月)まで 奨学金 1件につき 上限100万円

応募資格 京都大学の女子学生(学部学生又は大学院生)を
チームリーダーとする2名以上で構成するグループ

応募はこちらから

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/Recognition/w-challenge>



令和5年度女子学生チャレンジプロジェクト募集要項

1. 趣旨

本学では、ダイバーシティ&インクルージョン推進の一つの取組として、研究活動においても、女子学生が今よりもましてリーダーシップやイニシアティブを発揮できる環境づくりを目指します。

本事業は、女子学生が、自らの好奇心や探求心を核としつつ、自分とは異なるさまざまな視点から議論し協働するプロセスの経験を通じて、研究の面白さに気づき、新しい課題にチャレンジする活動を後押しします。

2. 支援対象プロジェクト等

女子学生が所属の学部や研究室等の研究課題にとらわれず、自身の興味関心に基づいて設定した研究テーマに対してチームをまとめ上げ、課題探求するプロジェクト・活動を支援します。

(1) プロジェクト等の条件

- ・研究テーマの目的、並びに調査研究やワークショップ等の活動によって期待する効果、及び今後の展開が明確なこと。
- ・プロジェクトの達成までのプロセスや、その必要経費の使用計画が明確であること。
- ・既存の研究分野や社会政策にとらわれない独創的なテーマや新たな課題の発見になるようなものが望ましい。
- ・卒業論文、修士・博士論文の作成に直接必要な研究・調査活動等でないこと。ただし、設定したプロジェクト等の内容が将来の卒業論文、修士・博士論文の研究テーマにつながる、又は既に行っている卒業論文、修士・博士論文の研究テーマから派生した内容の場合は可。

(2) プロジェクト等の取組内容例

- ・●●●(テーマ)に関する実地調査やアンケートを実施し、その調査分析を行い、その成果をまとめた報告書を作成する。
- ・●●●(テーマ)に関する専門家を招聘する研究会を開催し、その結果、得られた新たな知見など、その成果をまとめた報告書を作成する。
- ・●●●(テーマ)に関する他大学とのネットワークを形成してワークショップを開催し、その報告書を取りまとめるとともに、新たな研究課題を提案する。
- ・●●●(テーマ)に関するフィールドワークを実施し、その調査分析や今後の研究の展開をまとめた報告書を作成する。

3. 助成金

1件につき上限100万円を奨学金として給付します。(5件程度採択予定)

(奨学金の使途の例)

- ・実地調査に必要な旅費等の活動費
- ・アンケート実施に必要な経費

- ・ 専門家招聘のための旅費、謝金
- ・ シンポジウム、研究会等に必要な会場借料、資料印刷、PR 費、通信費
- ・ 成果報告等に必要な印刷費、動画撮影、Web 制作、Web 配信費
- ・ その他、研究活動に係る消耗品費、備品費（10 万円未満）

4. 実施期間

令和 5 年 7 月 1 日～令和 6 年 2 月 29 日

5. 応募資格

- ・ 京都大学の女子学生（学部学生又は大学院生）※を申請者（チームリーダー）とする 2 名以上で構成するグループとします。（申請時に構成メンバー全員が確定している必要はありません。）
 - ・ チームリーダー以外のメンバーは性別を問いませんが、本学の学生※に限ります。
 - ・ 研究活動をサポートするメンター（教員）がいることが望ましいと考えますが、メンターの有無は選考に影響しません。
- ※本学の正規課程の学生を指します。

6. 選考方法

- ・ 書類選考による一次審査を行います。
- ・ 一次選考通過者に対してプレゼンテーション形式の発表による二次審査を行います。
- ・ 男女共同参画推進センター教育・研究専門部会において、以下の観点からの評価点による審査を行い、上位者を採択します。

（評価の観点）

① 明確さ

プロジェクトの目的、その活動により期待される効果、及び今後の展開が明確か。

② 計画性

プロジェクトの達成までのプロセスや必要とする奨学金の使用計画が明確か。

③ 独自性

既存の研究分野又は社会政策にとらわれない独創的なテーマや、新たな課題の発見になるようなものとなっているか。

7. 選考及び選考後のスケジュール（予定）

申請締切	令和 5 年 5 月 15 日（月）
一次選考（書類選考）及び選考結果の通知	5 月下旬
二次選考（プレゼンテーション）	6 月中旬
最終選考結果の通知	6 月末
研究活動開始	7 月 1 日（土）
研究活動終了	令和 6 年 2 月 29 日（木）
実施（経費使用）報告書の提出締切	3 月 15 日（金）
プレゼンテーション形式による成果発表	3 月下旬

8. 応募方法

(1) 応募受付期間

令和5年4月3日（月）～令和5年5月15日（月）

(2) 提出書類

応募調書（別紙様式）

※別途、一時選考通過者には、二次選考用プレゼンテーション資料の提出を依頼します。

(3) 提出方法

メールによる提出

(4) 提出先

人事部職員育成課ダイバーシティ推進掛

TEL:075-753-2059（内線:16-2059）

E-mail: g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

9. その他留意事項

- ・ 応募調書は、異分野の人にも理解しやすいよう作成してください。
- ・ 氏名・所属、本プロジェクトによる活動内容、成果等について、京都大学の公式 Web サイト、SNS、及び各種広報媒体で公表する場合があります。
- ・ 研究活動終了後、プレゼンテーション形式による成果発表に加えて、京都大学が主催する会議、シンポジウム等で成果発表を依頼することがあります。
- ・ 本助成金は、採択されたプロジェクトの支援を目的に給付する奨学金です。原則経費精算による返還等は不要ですが、活動終了後、実施（経費使用）報告書の提出を求めますので、領収書等の証拠書類は保存しておいてください。なお、実施（経費使用）報告書の提出がない場合や不適切な事例が判明した場合は、奨学金の一部または全額の返還を求める場合がありますのでご注意ください。

10. 本事業に関する問い合わせ先・相談窓口

人事部職員育成課ダイバーシティ推進掛

TEL:075-753-2059（内線:16-2059）

E-mail: g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

2023 年度「女子学生チャレンジプロジェクト」採択者決定

今年度より始動した「女子学生チャレンジプロジェクト」事業に、当初の予想を上回る 55 件の応募がありました。学内選考の結果 13 組が二次審査のプレゼンテーションに進み、最終的に 6 組が採択されました。

採択された取組は、研究計画、チーム編成の両面で大変よく練られており、かつユニークな課題設定とその解決に向けたチャレンジングな取組である点を高く評価しました。なお、惜しくも選考に漏れた取組もいずれも僅差で大変興味深い内容でした。

2023 年度「女子学生チャレンジプロジェクト」採択者

氏名	所属・学年	テーマ
KIM SUHYUN	文学研究科 博士後期課程3年	国際フォーラム：女性映画産業従事者の声を聞く_日本と韓国の映画製作労働環境と動向
西村 陽菜	文学研究科 修士課程1年	薬用作物栽培における課題・価値の再発見と地域社会での共有—生産現場の当事者的・総合的理解を基盤に—
浅岡 由衣	理学研究科 博士後期課程3年	国内の食物依存症の実態調査
大坪 雅	理学研究科 博士後期課程2年	全階層統合生態学の研究 —遺伝子から生態系をつなぐことで拓かれる生態学の未来—
磯部 よつ葉	医学研究科 博士後期課程2年	難病女性患者のリプロダクティブ・ヘルスを考える —就労世代の視点から—
阿部 玲華	工学部 4回生	女子の工学部への興味を促進するワークショップ設計のための「AIAM心理モデル」の構築

令和5年度「女子学生チャレンジプロジェクト」成果発表会

3月27日(水)に学術研究支援棟にて令和5年度「女子学生チャレンジプロジェクト」の成果発表会を行いました。

はじめに、蓮尾 昌裕 理事補から、プロジェクトに協力いただいた京都大学鼎会や京都大学ここのえ会へのお礼の言葉を交えたオープニングの挨拶があり、続いて2023年7月から2024年2月までの活動内容や成果について、採択された6チームより発表がありました。



発表会はライブ配信も行い、学内外から多くの視聴者がありました。また、発表後には質疑応答も行われ、参加した教員や学生からさまざまな質問もあり、チームの学生が丁寧に答えていました。

稲垣 恭子 理事からは、選考経緯に関する報告や講評があり、「今回の研究プロジェクトとしてだけではなく、さらに社会的活動や社会貢献となる展開に育てていただければなと思っています。京大からこうして新しい研究の芽が育っていくことをとても心強く感じています。」と更なる活躍を期待するエールを送られ、和やかに発表会は終了しました。



各チームの成果発表会の様子は HP で公開していますので、是非ご覧ください。

<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/story/w-challenge/w-challenge2023/>

IV 「広報」事業

広報専門部会

広報専門部会は男女共同参画推進センター Web サイトや広報誌等の充実、各種 SNS も活用した様々な情報発信手法の企画・検討を担当して、次のような活動を行っています。

- ・ 情報発信に特化し、大学 HP での特設サイト開設の企画・検討、男女共同参画推進センター HP のリニューアル、男女共同参画関係の広報誌の充実
- ・ 各部局の男女共同参画関係の情報やコンテンツを特設サイトに集約（リンク）し、一覧性の向上を目指す

今年度の主な取り組みとしては、男女共同参画推進センターの機関誌である「京からあすへ」Vol.3、Vol.4 を発行し、特集記事として京都大学のジェンダー講義や学童保育所「KuSuKu」の紹介を行いました。

また、本センターの事業活動や本学の男女共同参画に関するトピックを紹介してきたニュースレター「たちばな」においては、昨年に引き続き各部局の男女共同参画の取り組みを紹介するとともに、京都大学を目指す女子高生へ向けた動画である「女子高生へのメッセージ動画」の充実を図りました。



ILAS セミナー「ジェンダーと文学」開講

文学研究科 川島 隆准教授の2023年度ILASセミナー「ジェンダーと文学」が4月11日（火）より開講しました。この授業では文学や映画など、言葉を用いたエンターテインメント作品を取り上げ、そこでジェンダーやセクシュアリティをめぐる問題がどのように表現されているかを見ていきます。授業の前半では、講師がいくつかの作品を選んで講義し、それをもとに学生と講師がディスカッションを行います。授業の後半では、学生に自分の好きな作品を選んで発表してもらい、それをもとに学生と講師がディスカッションを行います。



日程：4月11日（火）～7月11日（火） 時間：毎週火曜日 5限（16：45～18：15）

全学共通科目 2022年度「ジェンダー論」講義動画 公開

昨年度2022年の全学共通科目「ジェンダー論」の講義のうち、下記の7つの動画をセンターホームページにて公開しています。どうぞご視聴ください。 <https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/gender/online/>

- 伊藤 公雄（京都産業大学）
男性学・男性性研究の視座～ジェンダー平等な社会に向けて～
- 義江 明子（帝京大学 名誉教授）
「男・女」の区別はいつから？何のために？—— 古代史研究からみえてくること ——
- 沢山 美果子（岡山大学）
『性からよむ江戸時代』で／から考えたこと —— 女と男の性と生
- 姫岡 とし子（東京大学 名誉教授）
近代の社会秩序形成とジェンダー
- 井野瀬 久美恵（甲南大学）
女たちの大英帝国、大英帝国をジェンダー視点でながめ直す
- 川島 隆（文学研究科）
カフカにおけるユダヤ人像をジェンダー論的な観点から見る
- 落合 恵美子（文学研究科）
ジェンダーのグローバルヒストリー —— 親族構造・文明化・近代化 ——

「女子高生のための京都大学理学部案内 — 宇宙＆生物 —」

2023年3月5日（日）に、理学部による「女子高生のための京都大学理学部案内 — 宇宙＆生物 —」が開催されました。理学部に興味がある女子高生を対象にしたイベントで、午前と午後の2部構成で行われ合計81名（第1部49名、第2部32名）の参加がありました。最先端の宇宙の話や生物に関する話を4名の研究者から聞いたのちに、先輩たちと直接話せる「大学なんでも相談会」も実施されました。そこでは、研究、受験勉強、大学生活、留学、進路、大学院や就職など、多岐にわたる質問が多くあり大いに盛り上がりしました。

参加者からのアンケートでは、94%の人からイベントについて「非常によかった」「よかった」と回答を得られ、また、「実際に通う学生の方々を見て、自分もこうなりたいとより強く思うようになりました」「今日のお話を聞いてとても魅力的だと感じたため、これからはもっと勉強を頑張って入れたらいいと思いました」「学力的に目指せるものなのか心配でしたが、努力してチャレンジしようという気持ちになりました」などの感想も寄せられました。



磯田 珠奈子さんによる講演の様子

京都大学男女共同参画推進事業 「女子学生チャレンジプロジェクト」始動

京都大学では、ダイバーシティ&インクルージョン推進の一つの取り組みとして、研究活動においても、女子学生が今よりもましてリーダーシップやイニシアティブを発揮できる環境づくりを目指しています。

そこで、今年度より、女子学生が、自らの好奇心や探求心を核としつつ、自分とは異なるさまざまな視点から議論し協働するプロセスの経験を通じて、研究の面白さに気づき、新しい課題にチャレンジする活動に奨学金を支給する取り組みを始めました。

2023年度の募集は2023年5月15日（月）をもって終了しました。今後は応募者の中から、学内の選考を経て、今年6月末（予定）には支援対象者を決定することとしています。



理学部「京大理で学ぼう。」冊子発行

4月14日（金）に理学部・理学研究科の冊子「京大理で学ぼう。」が発行されました。この冊子は2部構成で前半は卒業後の多様なキャリアパスを漫画やイラストで紹介され、後半は学び、進路、生活を伝える情報誌となっています。紙媒体で配布されるほか、Webサイトで電子書籍として無料公開されています。

「京大理で学ぼう。」電子ブック：<https://www.sci.kyoto-u.ac.jp/ja/about/publications/manabo>

「京大理で学ぼう。」では、「月刊フラワーズ」（小学館発行）で連載されている漫画「数字であそぼ。」とコラボレーションしています。理学部・理学研究科および月刊フラワーズ編集部ともに、月刊誌連載中の漫画と実在する大学のコラボレーションは初めてのことです。「数字であそぼ。」は、架空の大学である「吉田大学」の理学部を舞台とした数学と笑いがあるキャンパスライフコメディ漫画となっており、本学理学部での生活や学びがモデルとなっているため、著者の絹田 村子さんに依頼し、今回のコラボレーションが実現しました。

理学部・理学研究科では、ユニークな教授陣が独自の教育を行ってきました。しかし、受験生や保護者、高校教員の皆さまに、その教育内容や進路などの状況を伝えきれていないと考え、理学部での学びを広く伝えることで学生の進路の一助とするために、本誌を理学研究科附属サイエンス連携探索センター（略称：SACRA）が中心となり作成しました。

理学部・理学研究科 HP より

保育園入園待機乳児保育室 卒園式（3/31）

3月31日（金）9時30分より、保育室にて卒園式が行われ、Zoomを使ってライブ配信されました。保護者の方やおじいさん、おばあさんが見守る中、保育士から歌やメダルのプレゼントをもらったりと笑顔あふれるひと時となりました。2022年度「ゆりかご」から6名の園児が巣立っていきました。卒園おめでとうございます！！

本年度の「ゆりかご」の利用を希望される方は下記 URL をご覧ください。

<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/care/nursery/>



卒園式の様子（2023年3月31日）

「京からあすへ Vol.2」発行のお知らせ

男女共同参画推進センターの機関誌『京からあすへ Vol.2』を発行しました。女性研究者の素顔や卒業生の社会で活躍する姿、在学生の研究に打ち込む姿などを紹介しています。

https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/about/publications/kyou_asu/



「京からあすへ Vol.2」表紙

男女共同参画推進「こんな取り組みをしています！」(4)

ジェンダー平等促進に資する教育・研究の機会拡大

生命科学研究科 <https://www.lif.kyoto-u.ac.jp/j/about/gender-equality/>

2月15日（水）に生命科学研究科主催、東北大学大学院 生命科学研究科・大阪大学大学院 生命機能研究科の協賛で「第6回男女共同参画推進セミナー」がオンラインで開催され、約130名の参加がありました。同セミナーでは、「多様性はあたりまえ！～『分断』からの脱却をめざして～」というテーマで東北大学大学院 生命科学研究科の杉本 亜砂子研究科長／教授が講演をされました。

講演では、東北大学でのダイバーシティ推進の取り組み、日本で女性研究者の割合が低い現状とその根本的な原因を探る「なぜなぜ分析」、アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）に関する調査結果（内閣府男女共同参画局）が紹介されました。また、ハラスメントや無意識の偏見による差別的な行為は周りの第三者が指摘することが重要であり、アクティブ・バイスタンダー（行動する傍観者）が増えることにより、マイクロアグレッション（マイノリティが受ける「小さな攻撃」）の減少につながるというお話がありました。

講演後、杉本 亜砂子教授、生命科学研究科の福澤 秀哉研究科長／教授、今村 博臣准教授、南 璣准教授、安居 佑季子准教授、幸長 弘子助教によるパネルディスカッションが実施され、「家庭生活（出産・育児・介護等を含む）と仕事との両立を尊重する多様な働き方を推進することでの男女共通のメリット」について、活発な議論が行われました。

参加者からは「ダイバーシティ推進のために、組織、個人として取り組むべきことについて考える貴重な機会となりました。」との声が聞かれました。



ホームページリニューアルのお知らせ

この度、ホームページを全面リニューアルしましたので、お知らせいたします。

今回のリニューアルでは、より情報が探しやすいよう構成やデザインを全面的に刷新しました。

リニューアルにともない、サイトのURLが変更になっているページが一部ありますので、ブラウザの「お気に入り」「ブックマーク」などに登録されている場合は、新しいページのURLへの登録変更をお願いいたします。

また、学部や研究科において男女共同参画推進への取り組みがありましたら、男女共同参画推進センターへ情報をお寄せください。

Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橘町
E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
HP <https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>



2023 年度「女子学生チャレンジプロジェクト」採択者決定

今年度より始動した「女子学生チャレンジプロジェクト」事業に、当初の予想を上回る 55 件の応募がありました。学内選考の結果 13 組が二次審査のプレゼンテーションに進み、最終的に 6 組が採択されました。

採択された取組は、研究計画、チーム編成の両面で大変よく練られており、かつユニークな課題設定とその解決に向けたチャレンジングな取組である点を高く評価しました。

なお、惜しくも選考に漏れた取組もいずれも僅差で大変興味深い内容でした。本事業は次年度以降も継続する予定ですので、ぜひ再チャレンジしてください。もちろん新規のご応募もお待ちしています。

※「女子学生チャレンジプロジェクト」事業

女子学生が、自らの好奇心や探求心を持ち、研究の面白さに気づき、チームで新しい課題にチャレンジする活動に奨学金を支給する事業です。

※次年度以降も継続予定ですが、予算状況等により採択件数、助成金額、支援対象プロジェクトの変更があり得ます。



2023 年度「女子学生チャレンジプロジェクト」採択者

氏 名	所属・学年	テ ー マ
KIM SUHYUN	文学研究科 博士後期課程 3 年	国際フォーラム：女性映画産業従事者の声を聞く__日本と韓国の映画製作労働環境と動向
西村 陽菜	文学研究科 修士課程 1 年	薬用作物栽培における課題・価値の再発見と地域社会での共有 —— 生産現場の当事者的・総合的理解を基盤に ——
浅岡 由衣	理学研究科 博士後期課程 3 年	国内の食物依存症の実態調査
大坪 雅	理学研究科 博士後期課程 2 年	全階層統合生態学の研究 —— 遺伝子から生態系をつなぐことで拓かれる生態学の未来 ——
磯部よつ葉	医学研究科 博士課程 2 年	難病女性患者のリプロダクティブ・ヘルスを考える —— 就労世代の視点から ——
阿部 玲華	工学部 4 回生	女子の工学部への興味を促進するワークショップ設計のための「AIAM 心理モデル」の構築

「女子高生へのメッセージ動画」公開中

京都大学を目指す女子高生へ向けた動画を HP で公開しています。

京都大学を卒業し社会へ出て活躍している先輩たちから、現在の仕事について、大学時代の勉強と生活、そして高校時代どう過ごしていたかなど話を聞くことができます。最後には進路に悩んだり、受験に不安を抱えている女子高生への応援メッセージが収録されています。

新しく 3 名の卒業生の動画が加わりましたので、是非ご覧ください。

<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/story/message/>



「MY STORY」学生・研究者・卒業生紹介サイト

男女共同参画推進センターでは、学生・研究者・卒業生の紹介サイトを HP 内に設けています。京都大学在学中の学生や研究者、社会で活躍している卒業生のいまを知ってもらおうと作成しました。

本サイトの先輩の「Story」を読んで、女子高生や本学に在籍する女子学生に自らの未来の「Story」を描いてってもらいたい。そんな願いを込めたサイト「MY STORY」を是非、ご覧ください。

<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/mystory/>



メンター相談

男女共同参画推進センターでは、女性の先生方にメンターをお願いし女性の学生、院生、研究者の相談を受けています。「研究分野の選択で迷っている、研究を続けることに漠然と不安がある、研究分野を変えたい」など、研究上のことで困ったときはもちろんのこと、キャリアに悩んだりアドバイスが欲しいときなど、相談に対応しています。

2023 年度メンターには理系 70 名・文系 28 名登録されています。

ご利用の際は下記 URL をご覧ください。

<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/consult/mentor/>（日本語）

<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/en/mentor/>（英語）



京都大学ここのえ会主催 「京大卒女性が語るキャリアストーリー ～悩める京大生が進路を切り拓くための2時間～」

6月10日（土）に吉田キャンパス構内の国際科学イノベーション棟5Fシンポジウムホールにて、「京大卒女性が語るキャリアストーリー」が開催されました。

このイベントは進路に関心のある京大女子学生向けとして、京都大学ここのえ会が主催されたイベントです。初めに浅山 理恵会長（SMBC オペレーションサービス(株) 副社長）より挨拶があり、続いて、モデレーターの野崎 治子氏（京都大学・理事）の進行でパネルディスカッションが始まりました。パネリストには、卒業生である飯田 順子氏（(株)島津製作所）、櫻本 真理氏（(株)コーチェット）、多和田 容子氏（三井物産(株)）の3名が登壇されました。

まず自己紹介をされ、学生時代の話やこれまでどのようなキャリアを歩んできたのかなど、学生へのメッセージも込めて話されました。また、決断をしなければならない場面での意思決定における考え方などを、それぞれの経験をもとに語っていただきました。参加した学生たちは時折うなずきながら、熱心に耳を傾けていました。

後半には、ここのえ会会員と少人数のグループで自由に話す「カフェトーク」の時間が設けられており、パネリス



トに加えさらに様々な業界で活躍する先輩が参加されました。7～8名が1グループとなりテーブルを囲み、学生から先輩へ質問をしたりと和気あいあいとした雰囲気、時間いっぱいまで大いに盛り上がりました。

参加した学生からは「とてもいい機会をいただきました。進路について悩んでいたのですが、参考になる考え方がありました。ありがとうございました。」や「社会人の女性の先輩と交流する機会があまりない中、女性ならではのキャリアの悩みなどを相談できる良い機会でした。様々なストーリーを知ることができて良かったです。」などの感想が寄せられました。



カフェトークの様子

男女共同参画推進「こんな取り組みをしています！」(5)

教育・研究活動と育児等の両立のための支援充実・環境整備

医学研究科 <https://www.medgender-kyoto-u.jp/>

2023年3月に医学研究科がウェブサイト「京都大学医学研究科・医学部を目指す女性のみなさんへ」を公開しました。このウェブサイトでは、医学研究科で活躍する女性研究者のキャリアストーリーや女子学生の学生生活、医学研究科・医学部において表彰を受けている女子学生・女性研究者を紹介しています。また、医学部の入試情報や男女共同参画推進に関する本学の取組等を集約しています。

連載：研究者になる！－第92回－

フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所・助教 山守 瑠奈



瀬戸臨海実験所の位置する白浜の地層は、砂岩と礫岩が混じった塔島礫岩層からなります。比較的柔らかで崩れやすく、穴やくぼみをつくりやすいので、白浜の海にはみずから地層に掘った穴で生きる生物や、その穴を巣穴に利用する生物が多く生息しています。

たとえば、ウニの一種であるタワシウニは、鋭い歯で岩盤を掘って巣穴をつくります。おもしろいのは、この巣穴内にゴカイなどの別の生物が共生していること。さらに、タワシウニの死後には、ムラサキウニやナガウニという別種のウニが巣穴を借用し、新たな共生系が築かれます。その代表例がハナザラという貝の仲間。二次利用するウニの巣穴にのみ生息する種で、扁平な貝殻の下から覗く、小さくつぶらな黒い目がなんとかわいくてたまりません。

■海洋生物への人一倍の熱量

物心つくころから海洋生物が好きでしたが、生物学的なおもしろさに目覚めたきっかけはクラゲです。「ウリクラゲは成長するとミズクラゲになる」と母親から教わり、信じてづけていたのですが、中学生になってクラゲ図鑑に目をとおすと、なんと、ウリクラゲとミズクラゲは動物門から違うと書いてある（笑）。その驚きもさることながら、図鑑に書かれたクラゲの生態に魅せられ、生きものの世界にハマってゆきました。

京都大学の受験を決めたのは、高3の夏。日本生物オリンピック二次選考に出場したことで、私と同じような熱量で生物を見つめ、深い知識をもつ人たちとはじめて出会ったのです。志望校を聞いてみると、京大志望者の多いこと。こんな熱い人たちと一緒に大学生活を送りたいと、一念発起して京大に照準を定めました。合格はしましたが、苦手だった数学の点数は散々でした（笑）。

1回生のころから自主的に白浜に通い、瀬戸臨海実験所を拠点にクラゲや貝を調査していました。転機は、2回生で受講した加藤真先生の講義。授業後にふと、白浜での調査のことを話すと、加藤先生の目の色が変わり、「来週、奄美大島で調査しない？」と声をかけていただいたのです。こんな機会はないと奄美大島に飛びました。調査をとおして学んだのが、現在の研究テーマである海洋生物の共生系。このときの好奇心にいまも背中を押されています。

■世界で唯一、磯の生態系を追う研究者として

大学院時代は、白浜で磯のウニを掘り出しては、巣穴に潜む生物を数えていました。磯の巣穴は海に入って岩を割らねば調査できません。たいへんさゆえに研究があまり進んでいないのが実情です。人間の生活空間から近い磯の生態系を知るとは、海洋開発の面からも重要です。環境保全活動にも力を入れたいと考えています。

とはいえ、やはり原点は「おもしろい！」という興奮。研究中は、研究対象の生きものに夢中になっています。2022年に、深海に生息し、陸上から流入した落ち葉を巣づくりや食料に利用するクシエライソメの生態を解明しました。口元のぷっくりした丸い器官を動かして落ち葉を運ぶのです。この姿を見て、「なんてかわいいんだ」と思ったのがこの研究をはじめの原動力でした。

研究にかぎらず、迷ったときは「楽しい」と思える方向に舵をきってきました。選んださきになにが待っているのかはわかりませんが、そう思った方向に進めば、楽しい場所にきっとたどり着けるはず。そう信じて、邁進の真っ只中です。



「女子高生・車座フォーラム 2023」12月3日（日）にオンライン開催



「女子高生・車座フォーラム 2023」を12月3日（日）にオンラインにて開催します。

京都大学がどんなところなのか、学部をどうして選んだのか、大学ではどんな勉強や研究をするのか、大学卒業後の進路はどんなものがあるのかなど、さまざまなテーマについての疑問に現役京大生や研究者が为您解答します。

昨年好評であったことを受け、今年も前半は複数学部合同でのグループワーク、後半は学部ごとのグループワークをおこないます。合同グループワークでは、文系と理系に分かれさらに2～4学部合同となり、複数の学部それぞれの雰囲気や特色を聞くことが出来ます。後半の学部ごとのグループワークでは合同では聞けなかった学部内の詳しい話が聞けて、少人数でじっくりと話すことが出来ます。

オンライン開催にしたことで、これまで参加が難しかった遠方の女子高生にも参加してもらえうえ、今年度はLINE 公式アカウントを用いて、簡単に申込が出来るようになりました。

リアルな声を聞くことができる機会に奮ってご参加ください！

日 時 2023年12月3日（日） 9：30～12：30（8：50よりZoom 接続開始）

会 場 オンライン（Zoom にて開催）※先着順、事前申し込みが必要です

参 加 費 無料

募集定員 女子高校生 100 名程度／保護者 50 名程度

申込期間 2023年10月15日（日）9：00～11月12日（日）17：00 まで

参加条件や申込方法についての詳細はホームページをご覧ください。

<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/rooting/kurumaza/>

全学共通科目（後期）「ジェンダー論」10月3日（火）開講

川島 隆（文学研究科 准教授）・吉田 万里子（国際高等教育院 教授）による全学共通科目「ジェンダー論」が10月3日（火）より開講します。

現代社会に生きる女性や男性は、その性別（ジェンダー）ゆえに、どのような問題に直面しているのだろうか。その現実が多面的に光を当て、淵源を探ることにより、日常の中でジェンダーにまつわる問題に気づき、課題解決のための実践ができるようになるための基礎的知識を身につけることをめざした講義です。オムニバス講義のかたちを取り、学内外からゲストスピーカーを招き、さまざまな研究分野においてジェンダーが開くパースペクティブを示していただき、特に男性にとってジェンダー問題とはどのような意味をもつのかについても充実させた講義となっています。

2023 年度全学共通科目（後期）「ジェンダー論」

■講義の時間：火曜日 3 限（13：15～14：45）

講師とテーマ

回	講義日	講師氏名	テーマ
1	10月3日	辰巳 真穂 ガールスカウト日本連盟 梅井 真歩 ガールスカウト日本連盟	「18歳～25歳の女性の本音とは？ジェンダーに関する調査結果の報告」
2	10月10日	山内 淳 生物学研究センター	性の進化：理論生態学の観点から
3	10月17日	藤井 真 池坊短期大学	ジェンダー論
4	10月24日	丸山 里美 文学研究科	女性の貧困
5	10月31日	川島 隆 文学研究科	文学から見たジェンダー
6	11月7日	落合恵美子 京都産業大学	家族とジェンダー
7	11月14日	柴田 悠 人間・環境学研究科	「父親育児」と「保育」の効果——「母親の幸福感低下」や「不利の親子間連鎖」を減らせるか？
8	11月21日	水島 郁子 大阪大学	仕事と育児・介護の両立支援
9	11月28日	大浦 綾子 弁護士 (野口&パートナーズ法律事務所)	ハラスメント
10	12月5日	島岡 まな 大阪大学	特権・アンコンシャスバイアス・エクイティ
11	12月12日	高山佳奈子 法学研究科	性刑法をめぐる諸問題
12	12月19日	吉田万里子 国際高等教育院	労働法とジェンダー——欧州・ドイツ法との国際比較——
13	1月9日	南野 佳代 京都女子大学	法とジェンダー
14	1月16日	鈴木 七海 Genesis 高島 菜芭 共同代表	性的同意の取り方

※テーマは一部変更になる可能性があります

令和5年度第2期研究支援・実験補助者雇用制度 利用者決定

令和5年度第2期研究支援・実験補助者雇用制度の採択者は、応募者26名の方に決まりました。

この制度は、育児又は介護のために十分な研究・実験時間が持てない研究者（院生は除く）に対し、研究又は実験をサポートをする補助者の雇用経費を助成する事業です。

女性研究者に限らず、男性研究者も対象となり、補助者未定でも応募できます。

また、研究分野の文系・理系は問いません。

年2回募集を行っており、次回（令和6年度第1期）は今年12月頃に募集しますので、支援が必要な方は是非ご応募ください！

以下センターHPに、今までの応募状況、助成を受けられた方の声などを載せています。

<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/research/assistant/>

京都大学オープンキャンパス2023 大学全体企画 「ようこそ京大へ！ 女性卒業生トークセッション&座談会」

8月9日（水）に国際科学イノベーション棟シンポジウムホールにて、「ようこそ京大へ！ 女性卒業生トークセッション&座談会」を開催しました。8月9日～10日の2日にわたって開催したオープンキャンパスのなかで、男女共同参画推進センターが京都大学ここのえ会の協力を得て女性限定イベントを企画しました。

第1部のトークセッションでは、活躍中の女性卒業生（櫻本 真理さん、廣野 陽子さん、多和田 容子さん）が登壇し、どうして京大へ進学したのか？学部を志望するようになったきっかけは？といった話や、京大での学びや学生生活のエピソード、学びが卒業後のキャリアライフにどう繋がっているのかといった話が、蓮尾 昌裕 理事補の進行のもと、和やかに繰り広げられました。会場には女子高校生26名と保護者が来場し、オンラインでは女子高校生・既卒生346名が参加し、「実際に卒業された方からの話は、とても興味深く大学についての理解が深まった。」「京大のもつ多様性や自由さを感じた。」といった感想が寄せられました。

第2部の座談会は、女子高校生、卒業生（大浦 綾子さん、岩島 史さん、トークセッション登壇の3名）、在学生在が少人数のグループに分かれておこなわれました。それぞれ自己紹介をしたのち、高校生から、興味のある分野と学部との関係や、受験のこと、大学生活のこと、仕事のこと、出産・育児といったライフイベントに関することなどさまざまな質問があり、卒業生と在学生在が丁寧に答えました。女子高校生を勇気付け、応援する貴重な時間になりました。



トークセッションのようす



座談会のようす

日経 STEAM 2023 シンポジウム

日本経済新聞社大阪本社主催の『日経 STEAM 2023 シンポジウム～新しい価値創造への挑戦～』が、7月19日（水）に大阪国際交流センターにて開催されました。

シンポジウムは、学生サミット（未来の地球会議）、女性研究者座談会、高校生 SDGs ポスターセッション、ブース相談会、デジタルアート展示会、DiS STEAM ゼミ、体験コーナー、DiS 特設体験コーナー、JICA 展示コーナーで構成され、学生サミットには海外からも5つの大学の参加がありました。

本学からは、学生サミットへ藤森 弥子（医学部人間健康科学科4年）、村野 俊樹（農学部応用生物学科4年）、吉田 健太（経済学部2年）、鬼木 優里（経済学部2年）の4名が参加し、山田 真澄 准教授（防災研究所）が女性研究者座談会に登壇しました。また、入試企画課の協力のもとブースを設置して高校生からの相談に対応しました。会場には総勢890名、うち高校生531名が来場し、活気あふれるシンポジウムとなりました。



ブース相談会の様子



学生サミット発表の様子

関東 SSH 指定 7 女子高校等研究交流会 女子高校生来学

7月24日（月）から26日（水）にわたり、理学研究科と生命科学研究科附属放射線生物研究センターの共催で「関東 SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定 7 女子高校等研究交流会」が開催され、36名の女子高校生が参加しました。

理学部を訪問した21名の高校生には、初日に、理学研究科セミナーハウスにて理学研究科の宍倉 光広 副研究科長・教授より「京都大学の理学部での学びや研究は学問の基礎に近いところで進められていて、数学や理科の多岐にわたる分野をカバーしています。理系分野では女性比率が低く、これからの発展には女性の参加がとても重要です。数学や理科が好きな人は、ぜひ理学部に入ってください。卒業後も様々な業界に就職されています。」との挨拶がありました。その後、化学学生実験室へ移動してクロマトグラフィー実験等をおこない、翌日は「数学・物理グループ」と「化学・地学グループ」に分かれ、教室や天文台で学びを得ました。最終日も引き続きグループごとに分かれての学習をし、午後は交流会にて、女性学部生と大学院生との交流をしたのちに解散となりました。

放射線生物研究センターの松本 智裕 教授からは「4年ぶりの対面形式で実施が可能となり、4つの講義と実習、そして座談会という盛りだくさんのスケジュールでした。実習後のディスカッションが大学院レベルにまで熱く発展したことが、大変印象的でした。」との感想もあり、大変有意義な交流会となりました。



理学研究科セミナーハウスにて



花山天文台（本館）45cm 屈折望遠鏡



実習後のディスカッションの様子

Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橘町
E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
HP <https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

京都大学キッズコミュニティ「KuSuKu」プレオープンイベント

11月5日（日）と11月12日（日）の2日にわたって、京都大学キッズコミュニティ「KuSuKu」のプレオープンイベントを開催しました。KuSuKuは、京都大学の教職員及び学生を対象に、小学1年生から6年生までの子どもを預かる学童保育所で、12月に開設を予定しています。今回は、多くの方にKuSuKuを知っていただくため、開設に先立ち、親子で一緒に参加できるイベントを企画しました。

事前の申込には、予想を上回る、子どもも含めて634名（229家族）の応募がありました。施設の収容人数などから、やむを得ず抽選を行い、217名（78家族）に当選を通知したところ、体調不良等による欠席もありましたが、191名（67家族）が参加しました。

受付では緊張気味だった子どもたちも、イベント開始まで、木をふんだんに使った温もりのある施設の中で過ごすうちに緊張が解け、オリエンテーションとアカデミックプログラムでは、みんな楽しく指導員や講師の話を聞いていました。そのあとは、時間になるまで、ゆうぎ室で体を動かしたり、ライブラリーで本を読んだり、おもちゃで遊んだり、屋外のすべり台で遊んだり、思い思いにのびのび過ごしました。最後は、帰りたくないという子どももいるほどで、大盛況でした。

KuSuKuのアカデミックプログラムでは、京都大学の研究者・元教員等を講師として、子どもたちが研究や科学の面白さに気づく体験を提供します。11月5日は、「イマジナリーキューブ・パズル」を人間・環境学研究科 立木 秀樹教授が、11月12日は「虫は友だち」を人と社会の未来研究院 沼田 英治特定教授が行い、どちらも大変好評でした。



ライブラリーの様子



ゆうぎ室の様子



「イマジナリーキューブ・パズル」子どもたちと立木先生



「虫は友だち」子どもたちと沼田先生

保育園入園待機乳児保育室「ゆりかご」 一時保育を始めました

保育園入園待機乳児保育室「ゆりかご（一時保育）」は入園待ちではないが、緊急に保育が必要な状況である乳児を対象に一時的に保育をします。

「家庭にて育児中であつたが、急な事情で育児が困難になった」「自治体への保育所への入所が決定したが、入所日までの期間の保育に困っている」「他の保育所を利用しているが、急に休所の予定が入った」など、このようなケースでお困りの方のご利用を想定しています。その他のケースについてもお気軽にご相談ください。

なお、利用資格や対象乳児などについては「ゆりかご」に準じています。ただし、利用期間については1ヶ月未満を原則とし、「ゆりかご」の定員状況等によりご利用できない場合がありますので、ご了承ください。

<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/care/temporary/way/>



「保育情報セミナー」オンライン開催

10月11日（水）12時15分より「保育情報セミナー」をオンラインにて開催しました。

「保育情報セミナー」は本学の男女共同参画推進の一環として、キャリア継続支援専門部会が、来年4月からお子さまが保育園へ入園予定の方や、育児に関心を寄せる方のために企画しているイベントで、院生をはじめ27名の参加がありました。

当日は近隣の風の子保育園と朱い実保育園の園長先生にお越しいただき、保育園入園に関する情報や親子の関わり合いについてのアドバイスなど、長年保育の現場におられた園長先生ならではの子育てにおいて役立つお話を、聞くことが出来ました。

「京からあすへ Vol.3」発行のお知らせ

男女共同参画推進センターの機関誌『京からあすへ Vol.3』を発行しました。女性研究者の素顔や卒業生の社会で活躍する姿、在学生の1日などを紹介しています。

また、巻頭特集ではセンターが提供しているジェンダー科目について掲載されていますので、ぜひご覧ください。

https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/kyo_asu/kyo_asu_vol3.pdf



「京からあすへ Vol.3」表紙

第16回京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）

京都大学たちばな賞は、優れた研究成果を挙げた本学の若手女性研究者を顕彰することによりその研究意欲を高め、もって将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成等に資するために、2008年度に創設されました。

（日本語）<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/resource/grant/tachibana>

（English）<https://www.kyoto-u.ac.jp/en/research/>

[support-scholarship/young-researcher/tachibana](https://www.kyoto-u.ac.jp/en/research/support-scholarship/young-researcher/tachibana)



京都大学女性教員懇話会「研究会」

女性教員懇話会主催の「研究会」が、10月31日（火）12:00～13:00に開催されました。今回は対面とZoomによるオンライン参加のハイブリッド方式での開催となり約30名の参加がありました。



植野 司氏



研究会は女性教員懇話会研究会担当の飯間 麻美氏（医学部附属病院 先端医療研究開発機構 特定講師）の進行で、まず植野 司氏（医学部附属病院 特定病院助教）による「ジェンダー平等と脳について国際横断研究から考える」の発表がありました。性別間における生物学的、社会的視点から見る脳についてなど、様々なデータをもとに解説いただきました。

続いて、片岡 仁美氏（医学部附属病院 医学教育・国際化研究推進センター 教授）による「D&Iをどのように実践するか：岡山大学での経験を踏まえて」の発表がありました。前職である岡山大学ダイバーシティ推進室センター長時代のお話をお聞かせいただきました。今後の京都大学

においても大変参考になる情報を得ることが出来ました。

植野氏と片岡氏はそれぞれのテーマについての質問に答えられ、参加者との意見交換がなされ、大変意義のある研究会となりました。



片岡 仁美氏



男女共同参画推進「こんな取り組みをしています！」(6)

教育・研究活動と育児等の両立のための支援充実・環境整備 取組事例紹介

農学研究科 <https://www.kais.kyoto-u.ac.jp/japanese/teachers/childcare-nursingcare-support/>

農学研究科では、農学部総合館内に女性休養室・授乳室とベビーシート、おむつ交換台を備えた多目的トイレを設置しています。

女性休養室・授乳室は昨年の秋に整備し、室内にはベビーベッド（キャスター付きで移動可能）や授乳用のイス、ソファベッド（2台）などがあり、ゆったりと安心して利用できるスペースを確保しています。

0歳児を持つ研究員の方からは「子どもが0歳2ヶ月で職場復帰し、子どもは保育所に入所しました。母乳で育てているため、昼間に搾乳のため、こちらの母乳室を週3～5日間利用しています。室内に手洗い場があるのでとても便利です。」といった感想をいただいております。

女性休養室・授乳室への入室には、職員証ICカードが必要となります。学生やICカードが付与されていない方には、施設利用証の貸出を行っております。お気軽に担当掛へお問い合わせください。



部屋の様子：入口からの直接の視線を遮るよう、室内手前に使用者専用ロッカーを配置



移動可能なベビーベッド



座面が広い授乳用イス

※学部・研究科で事例がある場合は、男女共同参画推進センターまで情報をお寄せください。

連載：研究者になる！－第93回－

経営管理大学院・特定助教 末長 英里子



いまの研究テーマは、演劇やアートの手法をつかったワークショップや教育の実践と検証ですが、出身は農学部です。将来にこれといった目標のない、ごくふつうの京大生でした。学んでいたのは、森林や里山の生態系。この分野は地域住民の協力が不可欠なことから、当時は「市民参加」という言葉や「ワークショップ」という言葉を耳にする機会が多かったです。

■価値観が180度変わったワークショップ体験

しかし、当時の私はひねくれていました（笑）。「市民参加のワークショップ」といっても、一方的な説明と、予定調和な質疑応答という「形だけのもの」も多いのではないかと疑いをもっていたのです。そこで、まずは自分の目で見て、体験して確かめてみたいと、3年生のころ、大阪大学で開かれていた「ワークショップデザイナー育成プログラム」に足を運びました。そこで講師をされていたのが、いまは同僚でもある蓮行先生（経営管理大学院特定准教授／劇団衛星）です。演劇の方法論をもちいて対話を生み出すというワークショップのあり方は、これまでワークショップに抱いていた印象とは違って、とても楽しいものでした。その魅力に引き込まれ、蓮行先生の劇団でアルバイトをはじめ、小学校や環境教育などのアウトリーチ活動に携わるようになったのです。

正直なところ、それまで演劇はもちろん、文化や芸術にあまりふれてきませんでした。むしろ、「アート＝高尚なもの」と感じて距離を置いていたほど。それも、演劇の公演を実際に観て、アーティストと対話したことで印象が変わりました。私が関わる小劇場演劇は、300人以下、少ないときには100人以下の観客の前で公演するジャンルです。商業演劇とは違い、アーティストの問題意識がありありと現れます。演劇との出会いは、楽しさをもたらしてくれたといっばうで、自分の想像力の狭さに直面し、傷つくことも多かった。私が歩んできた世界とはまったく違う世界が世の中にはあり、私はそれに無頓着だったのだと思い知ったのです。

■演劇的手法で生まれる新たな対話

現在は、学校や企業、病院などさまざまな場所でワークショップを開催するほか、アウトリーチ活動をする演劇家の支援に力を入れています。

直近で開催したのは、糖尿病や認知症をテーマにした病院や薬局でのワークショップです。参加者は、医療従事者と、地域住民のみなさんです。たとえば「自分が糖尿病患者だと打ち明けるかどうか」など、日常生活でだれもが直面する健康にまつわる出来事をテーマに、参加者が協働して劇を創作して演じます。劇というフィルターを通すことで、ふだん感じている本音を口にしやすくなったり、セリフを考えるために異なる立場の人に思いを馳せてみたり、通常の議論では生まれない感覚に出会えるのがポイントです。

説得力が重視されるプレゼンや議論の場では、言語化の得意な人が強い立場になりがちです。でも、演劇には、感情表現や身体をつかう動きも重要です。通常のワークショップとは主導権を握る人が変わることが多いです。置かれた状況や立場上、自分の思いを話しづらい人や、言葉にすることが苦手な人が、思いを表現するきっかけになるワークショップづくりをめざし、改善と研究をつづけています。

偶然をだいに、そのときどきにおもしろそうだと思うことを選んできました。いちど選択したからといって、その道を歩きつづける必要はありません。もし、選択に迷う瞬間が訪れたら、ときには、周りの信頼できるひとからの誘いや助言に乗かって、挑戦してみてもいいのではないでしょうか。



「学童保育所 京都大学キッズコミュニティ (KuSuKu)」の開設に寄せて

男女共同参画推進センター長

理事・副学長 稲垣 恭子

本学では、教職員、学生が研究・学業や仕事と子育てを両立するための支援の一環として、「学童保育所 京都大学キッズコミュニティ (KuSuKu)」を開設し、2023 年 12 月 4 日に、大学文書館（旧京大会館）にて開所式を開催いたしました。

開所式には、来賓として里見 朋香 文部科学省大臣官房審議官をはじめ設計を担当いただいた一級建築士事務所 o+h の大西 麻貴氏と百田 有希氏、内装や施設充実にご協力いただいた加藤 洋 カリモク家具（株）副社長、大久保 昇（株）内田 洋行社長、そして綿越 貴久 第四錦林小学校元校長、橋寺 由紀子（株）フェニクシー社長らに



テープカットの様子



ライブラリー

ご参加をいただき、湊 長博 総長からの挨拶と来賓の祝辞に続いてテープカットが行われました。

KuSuKu は、「子を育む」「親を育む」を目的に掲げ、土日祝日、長期休み期間にも安全・安心に子供を長時間預けられる場を提供しています。保護者にとっては育児中も安心して研究や仕事に専念でき（「親を育む」）、子どもたちには学校とはまた違った出会いと学びの場（「子を育む」）になればという思いです。

特に本学の教員や地域、企業、公的機関の方々の協力を得て提供するアカデミックプログラムは、好奇心や探究心、考える楽しさを体験できるよう工夫された独自のものです。プログラムの内容は、男女共同参画推進センター HP に公開していますので、ぜひその充実した内容や講師陣をご覧くださいと思います。

また KuSuKu では、遊びと学びを触発するさまざまなエリアとして、ボルダリングやトンネルくぐりもできる遊戯室、研究者のレクチャーを聞いたりゲーム遊びもできるミニホール、好きな場所で好きな本を読めるライブラリ、工作や実験ができる土間キッチン、地下におりる滑り台のある屋外スペース等を設置しています。京都大学研究林の間伐材を利用した丸みと温かさのある家具や、本学の研究者が子ども向けに執筆した本や外国語の本も読める充実したライブラリなど、インクルーシブで居心地の良い空間になっています。



遊戯室



ミニホール

このような環境のなかで、子どもたちがのびのびと育ち、夢をもって将来を担える人間に成長すること、保護者が育児をしながら安心して研究や仕事に打ち込めるようサポートすることで、本学に優秀な研究者・学生が集まり大学の活力と研究力を高める一助となれればと思っています。

利用状況も、冬休み期間中には定員を超えるほどの応募をいただいております。今後も皆様のご期待に沿えるように努力していく所存です。

引き続き、皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

京大学童保育所「KuSuKu」利用者の感想（保護者より）

- ・準備された非常に多くの本やおもちゃを見て、選び方が kusuku 独自のものになっていて、とても良かったと思います。
- ・アカデミックプログラムに参加させていただきました。学童で過ごす時間はとても楽しく充実していたようで、毎日通いたいと言っていました。
この事業を企画していただきましたこと、感謝申し上げます。
- ・参加したアカデミックプログラム「火山や自身の不思議を実験で探る」で、地震の揺れのことや耐震のことなども学んだようです。日常生活に即して学ぶことができる大変良いプログラムだと改めて思いました。

女子高生・車座フォーラム 2023

12月3日（日）に「女子高生・車座フォーラム 2023」をオンラインにて開催しました。このフォーラムは男女共同参画推進センター主催で、女子高生に京都大学での学生生活や研究者の仕事を知ってもらうという企画です。

今年で18回目の開催となり、高校生55名、保護者11名の参加がありました。

はじめに稲垣 恭子センター長より挨拶があり、続いて「京都大学ここのえ会」（京都大学の男女共同参画推進事業や女子学生、女性研究者等へ緩やかな支援を行う同窓会）理事の鈴鹿 可奈子氏よりビデオメッセージがありました。鈴鹿氏ご自身についての高校時代のお話、京都大学を目指したきっかけや大学生活、留学時代のお話など、語っていただきました。

続いて、前半のグループワークでは、文系（文学部・教育学部・法学部・経済学部・総合人間学部（文系））、理系（理学部・医学部（医学）・医学部（人間健康科学）・薬学部・工学部・農学部・総合人間学部（理系））と大きく2つに分け、合同でのグループワークを行いました。それぞれの学部の講師が学部の特徴などについて説明し、参加者からは自身の興味があることについて学ぶにはどの学部に入ればよいのか、など様々な質問がありました。今回の合同グループワークは、学部を横断するような質問に対応ができ好評を得ました。

後半は各学部に分かれ、より詳細に学部での学びや大学生活について講師と京大生が話をし、女子高生から質問を受け和気あいあいと時間いっぱいまで盛り上がりしました。

保護者においては、ウェビナー形式で京大生との交流会に参加し、受験生を持つ保護者ならではの視点からチャット機能を用いてたくさんの質問がなされ、様々な学年の学部生、大学院生が熱心に答えました。

今回も各グループワークにおいて、京都大学の学生や研究者を知っていただく有意義な時間となり、盛会のうちに終えることができました。



今年度のアンケートや車座フォーラムについては HP に掲載していますのでご覧ください。

<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/rooting/kurumaza/>

車座フォーラム参加者の声 ※一部抜粋

- ・質問できる時間が多く、京都大学の雰囲気や研究についてなどさまざまなことを教えていただけたので、入学したいという気持ちが強くなった。フォーラムに参加する前はとても緊張していたが、参加してみるとリラックスして話を聞くことができとても楽しかった。後輩にもこのフォーラムをお勧めしたい。貴重な機会を設けていただき、ありがとうございます。
- ・女子高生向け企画ということで、女性の先生方や京大生の方と気さくにお話ししやすかったのが新鮮な時間だった。

女子中高生向け魅力見える化コンテンツ作成等支援事業 採択者決定

令和4年度から始まった本支援事業は、本学の研究分野への関心が高まるような魅力見える化の取組の一環として、部局が作成又は実施する、女子高生向けコンテンツ又はイベントに対して、必要な経費の一部又は全額を支援する事業です。今年度7件のコンテンツ作成（経済学研究科、理学研究科（2）、医学研究科、情報学研究科、防災研究科、高等研究院）と2件のイベント実施（理学研究科、工学研究科）の計9件の事業への支援を決定しました。

https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/for_girl/appealing/

令和6年度 保育園入園待機乳児室「ゆりかご」2月1日より申込受付開始

学生及び研究等に携わる教職員の研究と育児の両立を支援することを目的とし、男女共同参画推進センター内に「保育園入園待機乳児のための保育施設」（愛称ゆりかご）を設けています。この保育施設は、自治体の保育園の入園待ちを余儀なくされている研究者等を対象としています。

令和6年度は4月2日（火）から開室の予定で、利用申込の受付を2月1日（木）より開始します。利用希望の方は下記の要項を熟読のうえ、お申込みください。

<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/care/nursery/>

また、「ゆりかご（一時保育）」では緊急に保育が必要な状況である乳児を対象に一時的に保育をします。

詳しくは下記をご覧ください。

<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/care/temporary/way/>



京大学童保育所「KuSuKu」設計建築士と学生の座談会（12月25日開催）

学童保育所京都大学キッズコミュニティ「KuSuKu」を設計した、本学卒業生である一級建築士事務所 o+h の大西 麻貴氏と本学工学部建築学科の学生4名との座談会を開催しました。

「KuSuKu」施設を周りながら大西氏から説明を受け、その後の質疑応答の時間では活発に質問が出て大変盛り上がり、終始和やかな雰囲気での座談会となりました。

※座談会の詳細は機関誌「京からあすへ」Vol.4（3月下旬発行予定）に掲載します



座談会の様子（KuSuKu ミニホールにて）：大西氏（左端）と学生たち



京都大学男女共同参画推進センター
Gender Equality Promotion Center

京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）表彰式

3月1日（金）、京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）の表彰式が行われました。表彰式はWeb会議システムを使用したライブ配信形式で実施し、学内外から多くの視聴がありました。

京都大学たちばな賞は、優れた研究成果を挙げた本学の若手女性研究者を顕彰することによりその研究意欲を高め、もって将来の我が国の学術研究を担う優れた女性研究者の育成等に資することを目的として創設され、今回で第16回となります。

はじめに、男女共同参画推進センター長である稲垣 恭子 理事・副学長より開会の挨拶がありました。



次に、湊 長博 総長よりたちばな賞学生部門受賞者の竹邊 日和氏（工学研究科 博士後期課程1年）、研究者部門受賞者の福田 エレン 秀美氏（情報学研究科 准教授）へ表彰状と記念盾が授与され、



川西 啓介 株式会社ワコール 代表取締役社長執行役員より副賞の「ワコール賞」が贈呈されました。また、優秀女性研究者奨励賞学生部門受賞者のYanran Wang氏（工学研究科 博士後期課程3年）、研究者部門受賞者のSanjeeta Sharma Pokharel氏（アジア・アフリカ地域研究研究科 日本学術振興会 外国人特別研究員）と鳥井 美江氏（医学研究科 助教）にも、同じく湊総長より表彰状と川西代表取締役社長執行役員より副賞の「ワコール賞」が贈呈されました。その後、たちばな賞受賞者の竹邊 日和氏と福田 エレン 秀美氏による研究発表が行われました。

最後に、優秀女性研究者奨励賞のYanran Wang氏、Sanjeeta Sharma Pokharel氏と鳥井 美江氏からの受賞挨拶をもって表彰式は終了しました。

引き続いて催された懇談会では、湊総長らも参加され、受賞者たちと大いに盛り上がり有意義な時間となりました。



たちばな賞（優秀女性研究者賞） 受賞者

部門	氏 名	所 属 ・ 身 分	研 究 テ ー マ
学 生 部 門	竹邊 日和	工学研究科 博士後期課程1年	「光学活性かご型炭化水素分子群の網羅的合成とネットワーク型データベース化によるChemical Spaceの構築」
研究者 部 門	福田 エレン 秀美	情報学研究科 准教授	「多目的最適化問題に対する降下法の研究」

優秀女性研究者奨励賞 受賞者

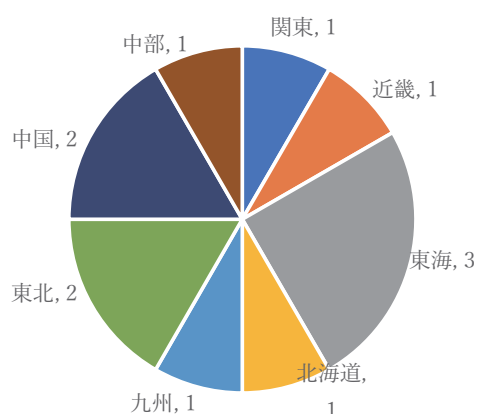
部門	氏 名	所 属 ・ 身 分	研 究 テ ー マ
学 生 部 門	Yanran Wang	工学研究科 博士後期課程3年	「Swarm Formation and Data Analysis of Nonlinear Dynamical Systems」
研究者 部 門	Sanjeeta Sharma Pokharel	アジア・アフリカ地域研究研究科 日本学術振興会 外国人特別研究員	「Tales of climate, disturbances, and adaptability: Assessing physiological adaptations in elephants」
研究者 部 門	鳥井 美江	医学研究科 助教	「関節リウマチにおけるサルコペニア・フレイルの有病割合と関連因子研究」

女子高生応援大使事業 2023

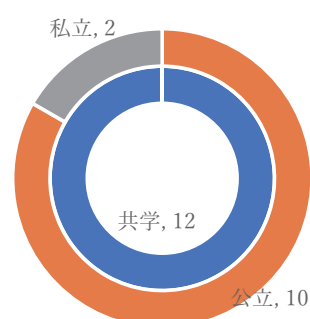
本事業は、本学の女子学生が「応援大使」として母校を訪れ、京都大学の魅力や大学生としての生活、学習方法等におけるアドバイスなどを直接後輩たちに伝えることで、母校の後輩が進路等について考える手助けになればという趣旨により、実施している事業です。

多数の卒業生（女性）が本学に入学している高校について、本学の女子学生が母校を訪問し、座談会のような形で話し合いの場を提供します。コロナ禍では Web 会議システムを利用していましたが、今年度は実際に母校を訪れ、応募のあった 12 校にて事業を実施しました。

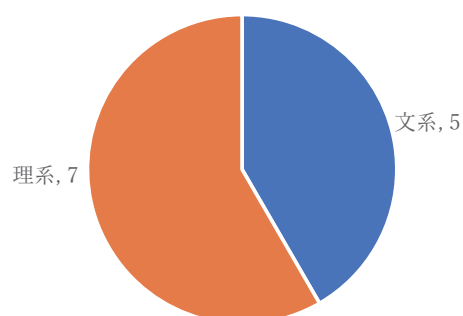
①地域別応募校数



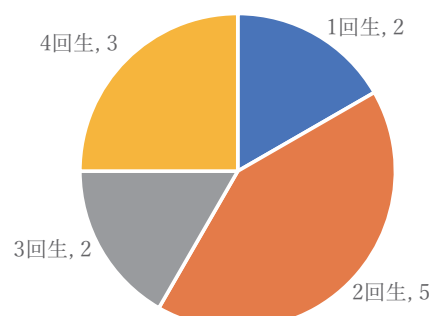
②応募校のうち公立／私立・共学／女子校内訳



③訪問学生 文系／理系内訳



④訪問学生 学年内訳



学会・研究会等に参加する場合、又は休日に大学の入試業務に従事する場合に、子どもの託児費用を支援します。

本年度から、男女共同参画及びワークライフバランスを推進するため、以下の支援制度をスタートさせました。

【学会・研究会等参加に伴う臨時的託児関連費用支援制度】

子どもを養育する研究者が学会・研究会等に参加する際に臨時的に必要な託児費、子どもの移動費（交通費）、及び子どもの宿泊費の一部又は全額を支援します。

（日本語）<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/conference/cost-support/>

（英語）<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/en/cost-support/>

【大学入学試験業務に携わる教職員のための託児等利用料金補助事業】

子どもを養育する教職員が休日（土曜・日曜）に実施される大学入学共通テスト及び一般選抜試験の業務に従事するために、託児やファミリーサポート等のサービスを利用せざるを得ない事情がある場合に、その利用料金の一部又は全額を支援します。

（日本語）<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/entrance-exams/expenses-support/>

（英語）<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/en/financial-support-exam/>

令和6年度第1期研究支援・実験補助者雇用制度 利用者決定

令和6年度第1期研究支援・実験補助者雇用制度の採択者は、応募者33名の方に決まりました。

この制度は、育児又は介護のために十分な研究・実験時間が持てない教職員に対し、研究又は実験をサポートする補助者の雇用経費を助成する事業です。

女性研究者に限らず、男性研究者も対象となり、補助者未定でも応募できます。

また、研究分野の文系・理系は問いません。

年2回募集を行っており、次回（令和6年度第2期）は今年6月頃に募集しますので、支援が必要な方は是非ご応募ください！

以下センターHPに、今までの応募状況、助成を受けられた方の声などを載せています。

<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/research/assistant/>

保育園入園待機乳児保育室「ゆりかご」利用者 保護者懇談会開催

1月23日（火）12：00より、保育室「ゆりかご」利用者の保護者懇談会が行われ、8名の保護者が参加しました。まず始めに参加者の自己紹介があり、続いて保育室主査より、ひとりひとりのお子さんについて保育室での日々の様子を話されました。その後、写真を見ながら、遊んでいる様子や食事の様子、子ども同士の関わり合い方などについて話していただきました。

最後の懇談会の時間では「離乳食」や「ベビーシッター」についてなどがテーマに上がり、多くの情報を共有できる有意義な会となりました。時には笑い声も聞こえ大いに盛り上がり、終始和やかな雰囲気の中終了しました。



連載：研究者になる！－第94回－

アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 池亀 彩



インドとの出会いは、早稲田大学理工学部建築学科で建築史を学んでいた学部生時代。建築史の分野は、日本、または欧米の建物が研究対象になることが多かったのですが、私の所属していた研究室は当時、アジア建築の研究を展開しはじめていました。

アジアの国をいくつか訪ねるなかでしだいに惹かれていったのが、西洋とも東洋とも違う、独自の文明を築いてきたインド。さらに、研究領域も、建築物以上にその地で生きる人たちのことを知りたいと関心が移ってゆきました。ベルギーへの留学をへて、京都大学大学院人間・環境学研究科の人類学のゼミに入学し、本格的に人類学の道を歩みはじめました。

■インドで問う、「権力とはなにか」

人類学の研究をはじめて、3年間をインド南部カルナータカ州のマイスール市で暮らしました。慣れないカンナダ語の習得、マラリアや感染症の危険など、一人での滞在に困難はありましたが、現地の方にも助けていただきながら、2年目には王族へのインタビュー調査までこぎつけました。

私の研究分野は、歴史史料とフィールドワークをとおして、対象地域の社会や文化に迫る歴史人類学です。なかでも、追究しているのが権力のあり方。権力をもつ人物には、一方から見ると抑圧者の側面がありますが、もう一方には民衆を惹きつける魅力的な側面があり、その両面によって権力をつくられます。近年はとくに、グルとよばれる宗教指導者のあり方に着目し、グルが必要とされる背景に迫るべく研究を重ねています。建築史学においても建築物と権力との関係は興味深いテーマ。研究分野は変われど、探究心の核は共通しています。

■だいじなのは「なにを研究しないか」

1年のうちの3か月から半年をインドですごして、かれこれ20年以上。長年通ってもなお、インドにいと頭を揺さぶられるような驚きや衝撃の経験ばかりです。研究テーマになりうる、「なんでだろう？」という疑問が尽きることはありません。

しかし、こうした疑問はなにも、異文化だから浮かんでくるものではないのです。日本に暮らしていても、「なんで京都には都市銀行より信用金庫が多いんだろう」など、不思議に思うことばかり（笑）。興味をもちさえすれば、なんでも研究テーマになるというのが私の考えです。むしろだいじなのは、「なにを研究しないか」。はたしてそれは、私が取り組むべきテーマなのかと、自身に問うことも重要。

■進む道が決まったあとは、前進あるのみ

これからも調査をつづけて論文を書き、成果を積み上げることは第一。一方で、情報が少ないゆえに誤解されやすいインドという国の姿を、どんな人でも手に取りやすい方法で伝えられないかを模索しています。2021年に出版した新書『インド残酷物語』は、その第一歩。近年、日本で大ヒットしたインド映画がいくつかありますし、こうしたポピュラーカルチャーを通じて拙書を読んでもくれる方も多く、有り難い限りです。

私のこれまでの歩みは、運に恵まれた部分も大いにあります。自分で道を選んだというよりも、選んでもらっている感覚でした。でも、「あのときこっちを選んでいれば……」という後悔は私にはありません。合わなければやり直せばいいし、さっさと切りあげてもいい。選ぶことに重点を置くよりも、一歩ふみ出した方向とにかく進んで、やってみる。これしかないというのが私の信条です。

V その他

KYOTO UNIVERSITY GENDER EQUALITY PROMOTION CENTER

TACHIBANA FUND

公平な研究活動を支援するために、
基金を設立しました。

京都大学男女共同参画支援
たちばな基金

TACHIBANA FUND

やりたいこと、あきらめない。

創造的でかつ人類の幸福に資する学問の持続的な発展に必要な多様性を確保するためには、女性と男性が公平に研究活動を行えるような環境をつくり出すことが重要です。育児や介護等によってやりたい研究をあきらめることがないように、京都大学男女共同参画推進センターでは、待機乳児や病児保育のための施設を設置しているほか、育児・介護中の男女研究者のための研究・実験補助者雇用制度等の施策を実施しています。こうした男女共同参画を推進するための各種事業を行っているものの、京都大学ではいまだに女性教員の比率が1割程度に留まっています。そのため男女共同参画推進のための施策を一層充実させる必要がありますが、予算を十分に確保できていない状況です。育児・介護中の研究者への支援制度では、希望者の5割にしか支援できていません。男女共同参画推進センターでは、育児・介護等、その心配を理由に、学生が進学や研究者になることをあきらめたり、研究者が研究を縮小・中断・断念したりすることがなくなっていと願っています。本基金を活用して各種支援・啓発事業を充実させることで、“女性も男性も”安心して学業・研究に取り組める環境をつくります。皆様のご支援をお待ちしています。

第16回
京都大学



優秀女性研究者賞

たちばな賞

受付期間
R5
11/1 (水)
▼
11/30 (木)
(17時必着)

応募者募集

対象

学術上優れた研究成果をあげた本学に所属する
45歳未満（昭和54年4月2日以降生まれ）の
若手女性研究者のうち下記条件を満たす者

【学生部門】

応募時点において、大学院博士後期課程に在学中であること。

【研究者部門】

博士の学位を取得（博士の学位を取得した者と同等以上の
学術研究能力を有する者を含む）していること。

なお、教授職（特定教員を含む）の者は応募できません。

顕彰

たちばな賞 ● 正賞…賞状 ● 副賞…記念品及び賞金50万円（学生部門・研究者部門 各1名）

奨励賞 ● 正賞…賞状 ● 副賞…記念品及び賞金20万円（該当者がいた場合のみ）
（学生部門は原則として人文・社会科学系、理学・工学系及び生命科学系より各1名、
研究者部門は原則として1名。）

応募要領などの詳細について

京都大学のHPからダウンロードしてください。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/resource/grant/tachibana>
お問い合わせ先：人事部職員育成課ダイバーシティ推進室 電話：075-753-2059



【協賛】株式会社 ワコール

第16回たちばな賞応募要領

1. 趣旨・目的

京都大学における若手の女性研究者の優れた研究成果を讃えるため、平成20年度に「たちばな賞（京都大学優秀女性研究者賞）」を創設しました。本制度は、分野を問わず学術上優れた研究成果を挙げた若手の女性研究者を顕彰することにより、当該若手女性研究者自身及びこれに続く多くの若手女性研究者の励みとし、ステップアップに繋がるよう研究意欲を高め、もって本学、さらには我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者の育成に資することを目的としています。

2. 応募条件

昭和54年4月2日以降生まれの本学に所属する女性の大学院生及び女性研究者（研究を職務に含んでいる者。ポスドク及び日本学術振興会特別研究員を含む）のうち、学術上優れた研究成果を挙げたと認められる者で、以下の条件を満たし、かつ今年度における表彰式に出席できる者とします。なお、過去に学生部門でたちばな賞を授与された者も、研究者部門に応募することができます。また、過去に奨励賞を授与された者も、受賞対象となる業績が異なる場合に限り、次年度以降に本賞へ応募できます。

【学生部門】

応募時点において、大学院博士後期課程（医学研究科医学専攻及び薬学研究科薬学専攻にあつては博士課程、アジア・アフリカ地域研究研究科及び総合生存学館の博士課程にあつては後期に相当する課程を含む。休学中の者は除く）に在学中であること。なお、募集年度において京都大学通則第33条に規定する懲戒を受けている者は応募できません。

【研究者部門】

博士の学位を取得（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含む）していること。なお、教授職（特定教員を含む）の者は応募できません。

3. 顕彰

受賞者は、各部門1名とし、表彰状と副賞（記念品及び賞金50万円）を授与します。また、該当者がある場合は、奨励賞として学生部門は原則3名（原則として人文・社会科学系、理学・工学系及び生命科学系より各1名）に、研究者部門は原則1名に表彰状と副賞（記念品及び賞金20万円）を授与します。

※ 学生部門の系は、応募者自らに主たる系を選択していただきます（最大2つまで）。それを選考の際に参考とさせていただきます。

4. 提出書類

- ① 応募調書（様式1／PDF）
- ② これまでの研究の概要（様式2／PDF）
- ③ 推薦状（様式3／PDF）
- ④ 業績目録（A4／形式自由／PDF）
- ⑤ その他特記すべき事項（特許・書評・新聞記事などの参考資料（形式自由）／PDF）
- ⑥ 応募対象となった書籍、論文の別刷（主なものを学生は3編以内、研究者は5編以内／PDF）

- ※ 書類の作成にあたっては、異分野の研究者にも理解しやすいように作成してください。
- ※ 上記③の推薦状については、応募者の研究をよく理解している、本学に所属する常勤の研究者が作成してください。③以外の書類については、応募者本人が作成してください。
- ※ 上記④の業績目録については、形式は自由ですが、必ず業績の項目ごとに合計数（たとえば学術論文の場合は「計●本、うち筆頭著者●本」等）を記載してください。
- ※ 上記⑤、⑥は該当するものがある場合のみ提出してください。

5. 提出方法

- (1) 提出書類は、応募者が下記提出先に直接メールに添付して提出してください。
- (2) 提出書類①～⑥は、PDF にして提出してください。なお、⑥については、表紙、目次及び該当部分を抜粋した PDF を提出してください。
PDF file が大容量になる場合には、大容量文書による提出もしくは CD に焼くか USB メモリーに入れて学内便にて提出することも可とします。

6. 応募受付期間

令和 5 年 1 1 月 1 日（水）～令和 5 年 1 1 月 3 0 日（木） 1 7 時必着

7. 選考及び選考結果の通知

学内に設置された選考委員会において、書面審査による第一次選考を行います。第一次選考通過者にはヒアリング審査による第二次選考を行い、受賞者を決定します。
なお、ヒアリング審査は令和 6 年 1 月下旬～2 月上旬頃に実施予定です。
また、第一次選考通過者には、令和 5 年 1 2 月末日までに第一次選考のご連絡及び第二次選考ヒアリング審査用資料提出の依頼をいたしますので、よろしくお願いいたします。
受賞決定の通知は、令和 6 年 2 月中旬頃までに行い、学内外へ公表します。

8. 表彰式

令和 6 年 3 月 1 日（金）午後に行います。また、表彰式後に受賞対象となった研究成果の発表をしていただきます。当日の詳細については、受賞者に別途通知します。

9. その他

- (1) 選考結果に対する問い合わせには応じかねます。
- (2) 受賞者の氏名、略歴及び受賞の対象となった研究業績等は公表されますので、予めご承知願います。
- (3) 提出書類に含まれる個人情報、厳重に管理し、本表彰の事業遂行のみに利用します。

10. 書類の提出先及び問い合わせ先

京都大学人事部職員育成課ダイバーシティ推進掛

TEL 075-753-2059（内線 16-2059） E-mail g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

第16回 京都大学

たちばな賞

2024

3/1
(金)

14時～15時

表彰式

Kyoto University
Tachibana Award

オンラインライブ配信

ご視聴は下記QRコード

またはURLから

お申し込みください。

<https://forms.gle/j55xCPLU96gKnid6>



「京都大学たちばな賞」

京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)は、優れた研究成果をあげた本学の若手女性研究者を顕彰することによって、研究意欲を高め、我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者の育成を目的とする賞です。

たちばな賞受賞者による研究発表

たちばな賞受賞者

◆学生部門

竹邊 日和 (工学研究科 博士後期課程1年)

光学活性かご型炭化水素分子群の網羅的合成と
ネットワーク型データベース化によるChemical Spaceの構築

◆研究者部門

福田 エレン 秀美 (情報学研究科 准教授)

多目的最適化問題に対する降下法の研究

奨励賞受賞者

◆学生部門

Yanran Wang (工学研究科 博士後期課程3年)

◆研究者部門

Sanjeeta Sharma Pokharel

(アジア・アフリカ地域研究研究科 日本学術振興会外国人特別研究員)

鳥井 美江 (医学研究科 助教)

プログラム

14時 0 分～14時 5 分

開会の挨拶
稲垣 恭子
(京都大学理事)

14時 5 分～14時15分

表彰式・ワコール賞贈呈

14時15分～14時25分

総長挨拶

14時25分～14時35分

来賓祝辞
川西 啓介
(株式会社ワコール
代表取締役社長執行役員)

14時35分～14時45分

研究発表1
[学生部門]
竹邊 日和

14時45分～14時55分

研究発表2
[研究者部門]
福田 エレン 秀美

14時55分～15時 0 分

奨励賞受賞者挨拶

2023 年度 京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式

受賞者略歴

〔たちばな賞〕



【学生部門】

竹邊 日和

現 職: 京都大学大学院工学研究科 材料化学専攻 有機化学反応講座 博士後期課程 1 年
日本学術振興会特別研究員(DC1)

専 門 分 野: 有機合成化学

研究テーマ: 光学活性かご型炭化水素分子群の網羅的合成とネットワーク型データベース化による
Chemical Space の構築

(略 歴)

2021 年 3 月 京都大学工学部 工業化学科 卒業

2023 年 3 月 京都大学大学院工学研究科 材料化学専攻 修了

2022 年度～ ムーンショット: 人と融和して知の創造・越境をする AI ロボット牛久プロジェクト研究員

2023 年 4 月～ 日本学術振興会特別研究員 DC1

(研究概要)

私の研究の始点である、 C_8H_8 の分子式で表される正立方体炭化水素“キュバン”は、1964 年にイートン教授によって合成されたものです。キュバンは正立方体構造であり、一つの頂点から最も離れた頂点へ視点を伸ばすと六角形として投影され、ベンゼン(C_6H_6)の形になります。投影された六角形の頂点間の分子幅はベンゼン(約 2.7Å)とほぼ一致します。組成式(CH) $_n$ の一致からも、キュバンはベンゼンの生物学的等価体とみなされ、医薬分子のベンゼン環をキュバンに置き換えて生物活性を向上させようとする試みが近年盛んに行われてきました。多様性指向合成(DOS)の目的に合うもので、医薬品や農薬分子にキュバンのようなカゴ型分子を導入することは「フラットランドからの脱出(Escape from Flatland)」と呼ばれ、医薬品分子設計の重要な概念の一つになっています。私はこの概念に加えて、三次元構造の導入を行う際に、光学活性の因子を加えることも可能にならないかと考えました。しかし、キュバン骨格にキラル環境を作り出すことは、その極めて高い対称性のため(O_h 対称)非常に難しい課題とされ、これまで放置されてきました。キュバンへの置換基導入による不斉発現には少なくとも三つの置換基導入をサイト選択的に行う必要があります。私はこの課題を、不斉補助基を利用してなんとか解決し報告することができましたが、それは極めて煩雑な反応であり実際の反応とは言い難いものです。そこで、さらに全く異なる手法による光学活性の発現を模索しました。そこで思いついたのが、キュバン骨格への置換反応ではなく、正立方体キュバン骨格を歪ませて異性化させることでキラル分子の構築につながる可能性があるのでは、ということです。このアイデアを「キュバン骨格編集」と名付け、検討した結果、正六面体キュバンにパラジウム不斉触媒を作用させることで、3, 4, 5 角形 2 個ずつからなる六面体分子“クネアン”を光学活性で得ることができました。得られたクネアンは C_{2v} 対称分子であり、一および二置換体でもキラリティが発現できます。ほかにも、キラルなセミブルバレン、ビスホモキュバン、ホモクネアンといった光学活性なかご型多面体炭化水素の合成に成功しています。このように「キュバンの対称性を乱す」骨格編集法でキラリティのような複雑さを付与し、これまで合成が困難とされてきた種々の光学活性なかご型多面体分子へのアクセスが実現可能になりました。

この一連の分子の網羅的合成は新たな化合物空間の創成となりました。この化学空間のデータ化は、今後展開されていく AI 駆動型有機合成にとって重要な技術になります。私は、従来の有機合成研究に加え、AI 技術の有機合成への利用研究にも参加しています。そういう経緯で、私の創り上げた化合物空間のネットワークデータベース化にも取り組んでいます。

2023 年度 京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式

受賞者略歴

【たちばな賞】



【研究者部門】 福田 エレン秀美

現 職： 京都大学大学院情報学研究科 准教授

専 門 分 野： 数理情報学

研究テーマ： 多目的最適化問題に対する降下法の研究

(略 歴)

2005 年 2 月 University of São Paulo, Bachelor in Computer Science 卒業

2007 年 2 月 University of São Paulo, Master in Computer Science 修了

2011 年 2 月 University of São Paulo, Ph.D. in Applied Mathematics 修了

2011 年 3 月～2013 年 9 月 University of Campinas, ポスドク研究員

2011 年 8 月～2013 年 9 月 京都大学大学院情報学研究科 外国人共同研究者

2013 年 10 月～2019 年 3 月 京都大学大学院情報学研究科 助教

2019 年 4 月～現在 京都大学大学院情報学研究科 准教授

(受 賞 歴)

2007 年 ブラジル応用数学会 修士論文賞

2012 年 サンパウロ大学 応用数理ベスト博士論文

2015 年 日本オペレーションズ・リサーチ学会 研究賞奨励賞

(研究概要)

数理最適化は、様々な実社会の課題に対して数理モデルを構築し、計算機を用いて解決策を得る技法である。特に「与えられた制約の下で、目的を達成するために最適な戦略を選択する」という問題を扱う。ここで最適とは、最大又は最小を意味する。数理最適化モデルの中には、一つの目的を持つものもあれば、複数の目的を持つ多目的最適化問題と呼ばれるものもある。例えば、製造会社においては、売上を最大化しつつ、生産に掛かるコストを最小化したい。そのような課題は、多目的最適化として自然にモデル化することができる。しかし、複数の目的を同時に最適化するのは容易ではなく、売上を最大化するために生産量を増やすと、その結果として生産コストが増えてしまうと考えられる。このような目的同士のトレードオフを示すため、多目的最適化ではパレート解と呼ばれる最適解を求める。

本研究では、多目的最適化問題に対して降下法と呼ばれるアルゴリズムを複数提案した。降下法ではまず、ある初期点を定め、そこから移動する方向(探索方向)と移動距離を決める操作を、最適解に到達するまで繰り返す。降下法の開発においては、解きたい問題(目的と制約)の数学的な性質や探索方向の計算方法などにより、アルゴリズムの設計が異なる。例えば、多目的最適化に対して初めて提案された降下法は最急降下法と呼ばれるが、目的(関数)が微分可能で制約が無い問題に適用可能であり、探索方向は 1 次の情報(すなわち目的(関数)の 1 回微分)を用いるアルゴリズムである。一方で、我々が最近提案した加速付き近接勾配法は、微分可能と微分不可能の和で表すような目的を扱い、加速と呼ばれる技術を用いたことで、解ける問題の範囲を広げた。さらに、複雑な制約を扱う初めての降下法の提案、機械学習や画像処理などの応用問題を扱えるような問題に対する降下法の開発、パレート解への収束性の証明や、計算量の解析も研究成果として挙げられる。

降下法は、近年国際的に急速に注目されている。しかし、大規模で不確実性を含む問題や、より複雑な制約・目的関数を有する問題の取り扱いはまだ十分でない。したがって、将来的には、そのような複雑な応用問題に対処できる手法の開発が必要不可欠である。降下法のパイオニアとして、今後も最適化の分野に革新をもたらし、データ解析、工学、経済学、医学など、幅広い実世界の問題に対する効率的な解決策の一つを提供することを目指す。

The Award Ceremony for the 16th Kyoto University Tachibana Award for Outstanding Women Researchers, 2023

Biography of Awardee

Honorable
Mention Award



(Student Category)
Yanran Wang

Current Position: third-year doctoral course student in the Department of Electrical Engineering of Kyoto University's Graduate School of Engineering, and Japanese Government Monbukagakusho MEXT Scholarship student.

Field of Research: Nonlinear dynamical systems

Research Topic: Formation Control of Swarm in Two-dimensional Manifold: Analysis and Experiment

Academic and Professional Background:

June 2017: Graduated with B.S. in Mathematical physics, Faculty of Science, University of Alberta

April 2018: Awarded Japanese Government Monbukagakusho MEXT Scholarship

March 2021: Graduated from the Master's Course in the Department of Electrical Engineering,
Graduate School of Engineering, Kyoto University

April 2021: Awarded Japanese Government Monbukagakusho MEXT Scholarship

March 2024: Graduated from the Doctoral Course in the Department of Electrical Engineering,
Graduate School of Engineering, Kyoto University

Awards Received:

2020: Award for Best Student Paper by The NOLTA society, IEICE (at the NOLTA 2020 conference).

Summary of Research:

My research delves into the intricate interplay between Wireless Sensor Networks (WSNs) and Swarm Intelligence (SI). WSNs have gained considerable attention due to their ability to provide pervasive situational awareness, finding applications across diverse domains such as structural health monitoring and habitat surveillance, among others. Nevertheless, WSNs frequently encounter energy constraints, particularly in challenging environments. In response, the concept of clustering has emerged as a pivotal technique for devising energy-efficient algorithms.

While existing WSN clustering algorithms have predominantly focused on protocol enhancements to accommodate scalability, fault tolerance, and data aggregation, this thesis introduces a fresh perspective. Drawing inspiration from the realm of Swarm Intelligence (SI), where simple agents collectively manifest intricate behaviors, it advocates for a paradigm shift. Specifically, my research proposes the analysis of evolving swarm formations as a mechanism to extract pertinent environmental insights, thereby mitigating energy-intensive data transmission and obviating the dependence on a central Base Station (BS). The central notion revolves around conceptualizing the external environment as an $(n-1)$ -dimensional Riemannian manifold, defined by the solutions to the equation $F(x_1, \dots, x_n) = 0$, where F is a C^∞ function. By observing the change in swarm formation within the manifold, using the geodesic deviation equation, we can estimate the curvature of the manifold, providing valuable information about the environment. Furthermore, my research addresses swarm formation control within the Riemannian manifold M . This formation control problem is reframed as a trajectory estimation issue, encapsulated within a leader-follower framework. The research leverages Koopman operator theory and Extended Dynamic Mode Decomposition (EDMD) to predict follower trajectories and offer guidance to the followers, leading to enhanced formation control efficiency.

Additionally, my research validates theoretical formulations through practical experiments involving mobile robots. By bridging theoretical constructs with tangible empirical results, this research contributes to the advancement of formation control strategies.

The Award Ceremony for the 16th Kyoto University Tachibana Award for Outstanding Women Researchers, 2023

Biography of Awardee

Honorable
Mention Award



(Researcher Category)
Sanjeeta Sharma
Pokharel

Current Position: JSPS Postdoctoral Fellow (Asian and African Area Studies, Kyoto University)

Field of Research: Wildlife Endocrinology; Large Mammal Ecology

Research Topic: Physiological adaptations and associated fitness consequences in elephants.

Academic and Professional Background:

July, 2007	B. Sc. in Environmental Science, Tribhuvan University, Nepal (2004-2007)
August, 2010	M. Sc. in Environmental Science, Institute of Environmental Studies, Kurukshetra University, India (2008-2010) (awarded with the Government of India Silver Jubilee Scholarship, 1st rank with distinction)
July, 2009	Project Intern, High-Altitude Avian Research, Wildlife Institute of India, India
March, 2011	Project Intern, Gharial Conservation Project, World Wide Fund for Nature, Nepal
Dec., 2017	Doctor of Philosophy, awarded with the International PhD Scholarship, Indian Institute of Science, India (2011-2017) (awarded with the Presidential Medal from the Government of Nepal)
Ongoing, 2015	Emerging Nations Member, International Society of Wildlife Endocrinology
October, 2015	Summer School Intern, Leibniz Institute for Zoo and Wildlife Research, Germany
June, 2018	JSPS Core-to-Core Program Visiting Researcher, Kyoto University, Japan
July, 2020	Chemical Ecology Postdoctoral Fellow, Indian Institute of Science, India
Ongoing, 2021	Review Editor, Frontiers in Conservation Science
June, 2022	Smithsonian Postdoctoral Fellow, Smithsonian's National Zoo and Conservation Biology Institute, USA
Ongoing, 2022	Editorial Board Member, European Journal of Wildlife Research
Ongoing, 2022	Member, IUCN Asian Elephant Specialist Group (Species Survival Commission)
Ongoing, 2022	JSPS International Postdoctoral Fellow, Kyoto University, Japan

Awards Received:

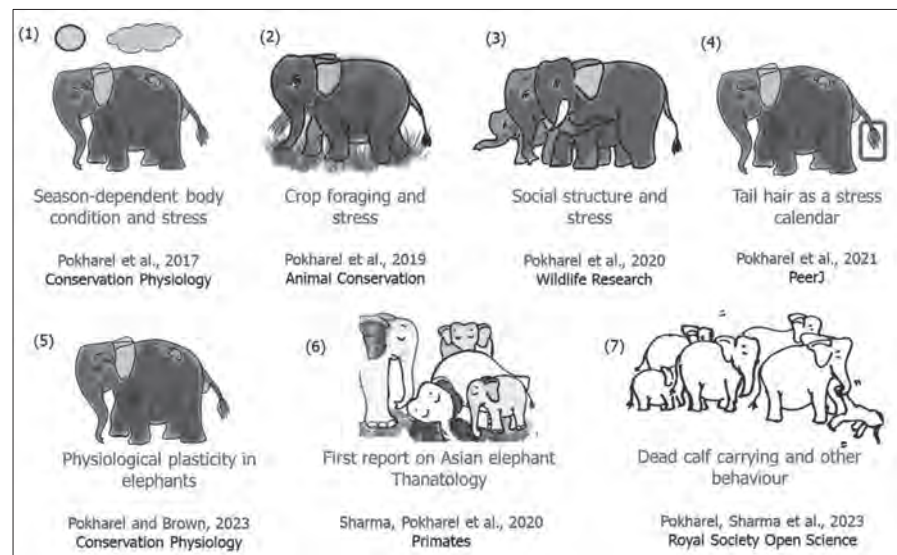
July, 2002	District-level Merit Award (Second rank in the women-category) in SLC exam (Ministry of Education, Nepal)
August, 2002	The Bahini Fund Scholarship (based on merits), Little Sisters Fund, USA
July, 2008	Silver Jubilee Scholarship (for Master of Science), Government of India and Indian Council for Cultural Relations (ICCR), India
August, 2010	University Merit Award (1st rank with distinction), Kurukshetra University, India
August, 2011	International Fellowship for PhD program , Indian Institute of Science, India
August, 2017	International Arbor Assays Travel Award , International Society of Wildlife Endocrinology, Florida, USA
July, 2018	NE Chemical Ecology Postdoctoral Fellowship , Department of Science and Technology-Science and Engineering Research Board (DST-SERB), India
September, 2018	Presidential Medal 'Nepal Vidya Bhushan' Category A , The President and the Government of Nepal (for research excellence)
October, 2019	People's Choice Presentation Award , 7th Conference of the International

Society of Wildlife Endocrinology, Kruger National Park, South Africa
 August, 2020 **Smithsonian Fellowship**, National Zoological Park, Smithsonian Institute, USA
 July, 2022 **JSPS Postdoctoral Fellowship** (Standard), Kyoto University, Japan

Summary of Research:

To understand how slowly reproducing, long-lived species, such as elephants, adjust (physiologically) to highly dynamic climates and human-induced challenges, I investigated the proximate causations behind the stress response (using glucocorticoids or GCs as a proxy of stress) in wild Asian elephants. I found elephants were, indeed, attempting to physiologically cope with different contexts including: (i) seasonality (as reflected in their body conditions; Pokharel et al., 2017), (ii) habitat quality (nutritional benefits lowering GCs in crop-foragers; Pokharel et al., 2019), and (iii) social (presence of immature and experienced individuals in a group) and reproductive (lactation) statuses (Pokharel et al., 2020). I performed meta-analyses to assess the physiological dynamicity in Asian and African elephants and found that the contexts, experiences, and personalities of elephants make each elephant physiologically unique (Pokharel & Brown, 2023). I am further investigating the effects of gradients of human disturbances on the physiological and metabolic health of elephants (Pokharel et al., manuscript under preparation). I developed a retrospective study, collaborating with the Wildlife Research Center, Kyoto University (WRC), to measure the physiological history of captive elephants and demonstrated that cortisol trapped in the tail-hair of captive elephants can act as a 'stress calendar' (Pokharel et al., 2021). As collaborative research, I am also exploring how Asian elephants react to dying and dead conspecifics (comparative thanatology) and documenting the probable existence of death awareness in elephants (Sharma, Pokharel et al., 2020; Pokharel, Sharma et al., 2022).

Graphical summary highlighting my research findings on stress physiology and thanatological



behaviour of wild and captive Asian elephants (Illustrator: Sanjeeta Sharma Pokharel).

Besides elephant science, I participated in a research project, invited by the JSPS Core to Core Program, where we studied the digestibility of gut microbes in wild Japanese macaques at Yakushima Island (Hanya et al., 2020). I am an active member of the **IUCN Asian Elephant Specialist** and the **International Society of Wildlife Endocrinology**. Additionally, I serve on the editorial board of the European Journal of Wildlife Research and as a reviewer or review editor for several international peer-reviewed journals and conferences. I have also taken the duty of an external examiner and mentored students and researchers

in my field of expertise. To promote understanding of elephant science, I engage in outreach activities such as writing blog posts, popular articles and giving public lectures. To simplify elephant ecology, scientific findings, and conservation concerns to the public, I have started a cartoon series initiative '**Bhunte: The Baby Elephant**'. As one of the foremost Nepali women scientists to study Asian elephants, I am determined to inspire young students, particularly women and those from underrepresented backgrounds, in the fields of Science, Technology, Engineering, and Mathematics (STEM).

2023 年度 京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式

受賞者略歴

〔奨励賞〕



【研究者部門】

鳥井 美江

現 職：京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 助教

専 門 分 野：老年医学

研究テーマ：自己免疫疾患患者のサルコペニア・フレイル・カヘキシア

(略 歴)

2003 年 3 月 奈良県立医科大学看護短期大学部看護学科 卒業

2005 年 3 月 三重大学医学部看護学科 卒業

2007 年 3 月 三重大学大学院医学研究科医科学専攻（修士課程） 修了

2011 年 3 月 三重大学大学院医学研究科生命医科学専攻（博士課程） 修了

2011 年 3 月 京都大学医学部附属病院免疫・膠原病内科

三重大学大学院医学研究科がんワクチン治療学 研究員

2013 年 9 月 京都大学学再融合教育研究推進センター 特定助教

2016 年 4 月 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 助教（現職）

(受 賞 歴)

2008 年 三重大学大学院医学系研究科 Young Investigator Award

2009 年 日本免疫学会 Melchers' Travel Award 受賞

2010 年 29th European Academy of Allergy & Clinical Immunology Best Poster Award

2010 年 14th International Congress of Immunology JSI Young Investigator Travel Award

2011 年 大学女性協会 安井医学奨学生

(研究概要)

世界的に高齢化が進む中、健康寿命の延伸、効果的な介護予防の実践が必要とされている。要介護や要支援となる原因として老衰、転倒・骨折、関節疾患が上位を占めるが、これらは近年老年医学分野で注目されているフレイル・サルコペニアと関連している。フレイルは健康と要介護の中間的な段階であり、サルコペニアは、加齢、活動・疾患・栄養に関連して生じる進行性および全身性の骨格筋力や骨格筋量の低下を特徴とする疾患であり、フレイルの中核となる。サルコペニアやフレイルの有病割合は約 10%程度であり、これらを合併すると ADL の低下、転倒・骨折、入院、死亡、多額の医療費の原因となる。

関節リウマチ(RA)は、全身の関節の疼痛、腫脹を特徴とする自己免疫疾患である。国内の患者数は約 100 万人で、寛解と活動と繰り返し、完治は難しい。RA 患者は病態に関連する炎症性サイトカインやステロイド治療により筋量・筋力が低下しやすく、また、関節痛や関節可動域の制限により活動量が低下しやすいが、これまで RA 患者におけるフレイル・サルコペニアの合併率等の実態は明らかになっていなかった。

本研究では、京都大学医学部附属病院リウマチセンターに受診している約 500 人の RA 患者を対象にフレイル・サルコペニアの有病割合と関連因子について調べた。サルコペニアの有病割合は 37.1%であり、高齢 RA 患者においては 51.0%であった。サルコペニアを有する RA 患者は転倒や骨折が多く、骨密度が低下していた。サルコペニアの合併は年齢、罹病期間、関節の変形、低栄養、生物学的製剤の使用と関連しており、フレイルについても同様であった。また、5 年後に 25%の患者がサルコペニアを新規発症しており、低栄養状態が新規発症のリスク因子であることを明らかにした。現在、サルコペニアのリスクがある高齢 RA 患者を対象に個別化した運動療法が身体機能、病態、生活の質に与える影響を調査している。また、RA に次いで多い自己免疫疾患である全身性エリテマトーデス患者におけるサルコペニア、フレイルについて調査しており、自己免疫疾患患者の予後改善を目標に活動を行っている。

NIKKEI STEAM Press 5

産学で挑む、人材育成アカデミー

STEAMとは

科学・技術・工学・芸術・数学の
英単語の頭文字を組み合わせた
造語で、理数教育に創造系教育
を加えたもの。

日経 STEAM 2023 シンポジウム



7/19 水 **ご来場 無料/要事前申込** **9:00～17:30** **会場 大阪国際交流センター**
大阪市天王寺区上本町 8-2-6

●当日プログラム

2P	学生サミット 未来の地球会議	午前部 9:00～12:00 午後部 14:15～16:00
4P	女性研究者座談会	13:00～14:00
6P	高校生SDGsポスターセッション	14:00～16:00
9P	ブース相談会	14:00～16:00
10P	デジタルアート展示会	14:00～16:00
11P	DiS STEAMゼミ	10:00～14:00
12P	体験コーナー	14:00～16:00
13P	DiS 特設体験コーナー	10:00～16:00
	表彰式	16:30～17:30

※進行状況により時間が前後する場合がございます。予めご了承下さい。

主 催：日本経済新聞社大阪本社

特別協賛：ダイワボウ情報システム

協 賛：塩野義製薬

参加大学：大阪経済大学、大阪公立大学、大阪大学
大阪電気通信大学、関西大学
関西学院大学、京都大学、神戸学院大学
神戸女学院大学、神戸大学、神戸薬科大学
四国大学、徳島大学、奈良女子大学
兵庫県立大学、佛教大学、武庫川女子大学
立命館大学

協 力：JICA

後援：関西経済連合会、関西広域連合、関西女性活躍推進フォーラム
関西文化学術研究都市推進機構、2025年日本国際博覧会協会

ご来場申込、イベント詳細は公式サイトでご確認ください

<https://steam.nikkei.com/symposium/20230719/>



お問い合わせ 日経STEAMプロジェクト事務局【日本経済新聞社 大阪本社内】o-daihyo@nex.nikkei.co.jp

資 料

男女共同参画推進センター 関係者名簿

2024.1.16 現在

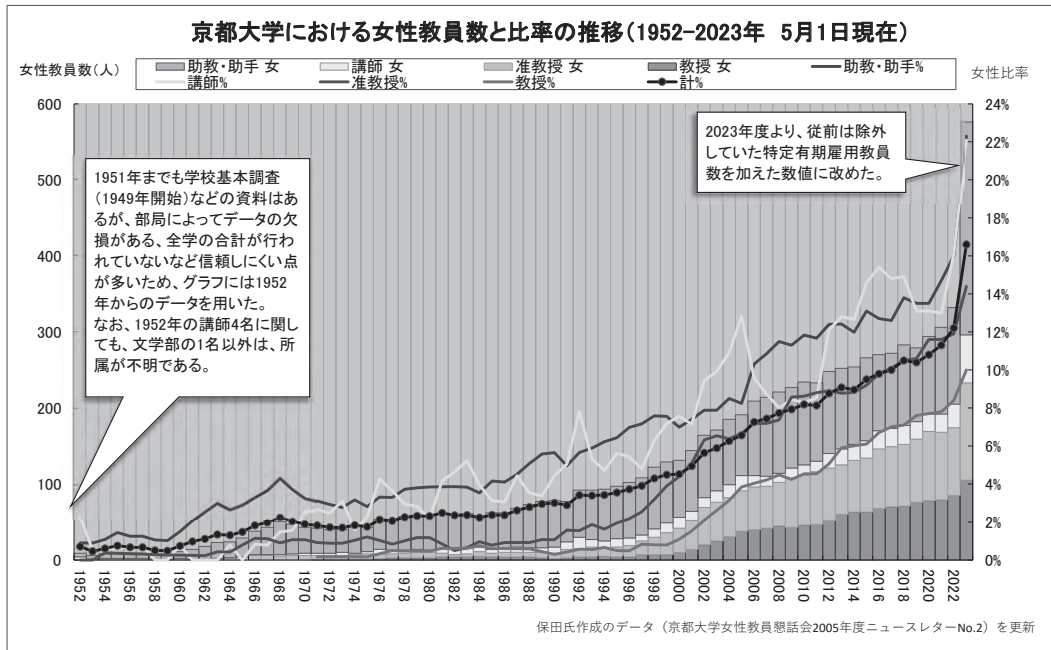
役職	氏名	所属・職
男女共同参画推進センター長	稲垣 恭子	理事・副学長
キャリア継続支援専門部会		
主査	木下 彩栄	医学研究科・教授
委員	児玉 聡	文学研究科・教授
委員	田口 真奈	教育学研究科・准教授
委員	常見 俊直	理学研究科・准教授
委員	高橋 良和	工学研究科・教授
魅力見える化専門部会		
主査	蓮尾 昌裕	工学研究科・教授
委員	久富 望	教育学研究科・助教
委員	穴倉 光宏	理学研究科・教授
委員	跡見 晴幸	工学研究科・教授
委員	五十嵐 淳	情報学研究科・教授
委員	塩瀬 隆之	総合博物館・准教授
教育・研究専門部会		
主査	蓮尾 昌裕	工学研究科・教授
委員	川島 隆	文学研究科・准教授
委員	石岡 学	人間環境学研究科・准教授
委員	深澤 愛子	高等研究院・教授
委員	吉田 万里子	国際高等教育院・教授
委員	伊藤 健雄	学術研究展開センター・上席専門業務職員
広報専門部会		
主査	木下 彩栄	医学研究科・教授
委員	今村 博臣	生命科学研究科・准教授
委員	帯谷 知可	東南アジア地域研究研究所・教授

京都大学の女性研究者・女子学生の状況

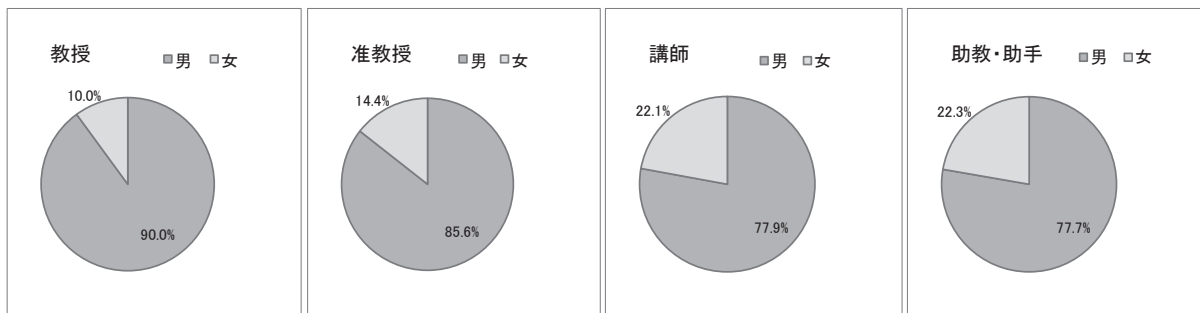
1. 教員数の経年変化と女性比率

(分析データ：京都大学概要 2023)

2004 年までは、保田その氏の作成データ（京都大学女性教員懇話会 2005 年度ニュースレターNo.2）による



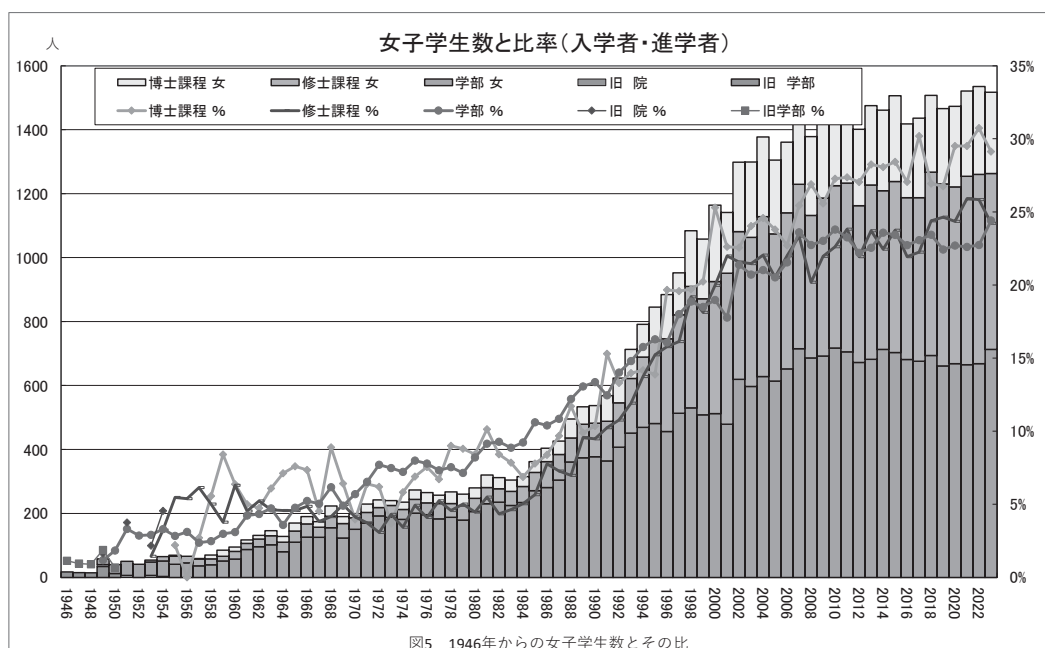
1952年以来の女性教員の推移



教員の職階毎の男女比(2022年5月1日現在)

2. 女子学生の状況

(分析データ：総務部資料 2023年5月1日)



2023年度 京都大学男女共同参画推進センター報告書

発行日 2024年6月

発行所 京都大学男女共同参画推進センター

© 京都大学男女共同参画推進センター



京都大学男女共同参画推進センター報告書（二〇二二年度）

京都大学男女共同参画推進センター